南部拠点地区遺跡群No. 1

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

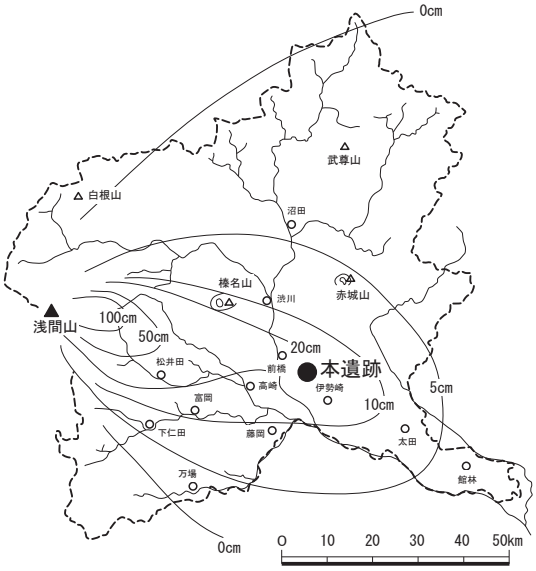
南部拠点地区遺跡群No. 1

二〇〇九・三

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南部拠点地区遺跡群No. 1

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）



浅間B軽石降下の等厚線図（町田・新井1992による）

２００９．３

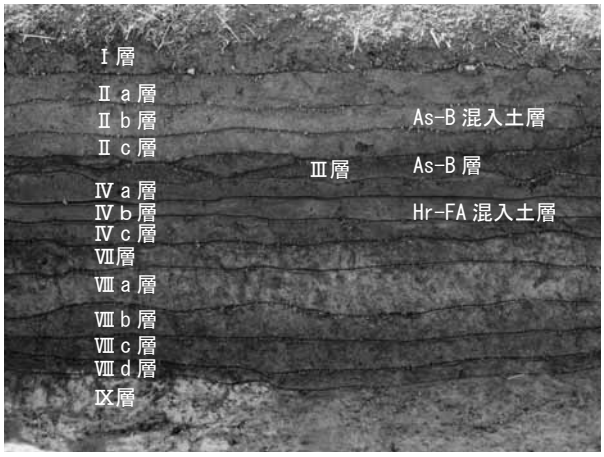
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

調査区（５区）から榛名山・浅間山を望む

平安時代末期の水田（５ｃ区 As-B 層下水田）

古墳時代の水田（５区 Hr-FA 層下水田）

古墳時代の溝（２・３区１号溝）



基本層序（５ｃ区）

序

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2 万年前の旧石器時代から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800 余りの古墳が存在していたように、上毛野の国の中心地として栄え、また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担うなど、まさに、歴史性豊かな街です。

南部拠点地区遺跡群№.１は、市の南東部に位置し、前橋南インターチェンジ一帯の土地区画整理事業に伴う道路建設に先立つ事前発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108 年）の浅間山噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。本水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎大地に広く展開する貴重な条里制遺構です。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、湧水の中、泥んこになりながら直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成２１年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　依田　三次郎

例　　言

１．本書は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う南部拠点地区遺跡群№１の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

２．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長依田三次郎）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同研究所員の有山径世・髙橋清文・長井正欣である。

３．発掘・整理調査期間は、平成 20 年 10 月 28 日～平成 21 年３月 19 日である。

４．本遺跡は群馬県前橋市鶴光路町 360 －１ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記の通りである。

遺跡コード：20G61　　面積：１面目 5,244 ㎡、２面目 2,495 ㎡、合計 7,739 ㎡

５．本書の編集実務は、有限会社毛野考古学研究所が行い、同研究所員の髙橋・有山が担当した。

６．本文の執筆については、Ⅰを山下歳信、Ⅱ～Ⅳ・Ⅶ～Ⅷ・Ｘ－１を髙橋、Ⅴ～Ⅵ・Ｘ－２・３を有山が担当した。Ⅸの自然科学分析は株式会社古環境研究所に依頼した。

７．調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

８．発掘調査・整理作業に携わった方々は下記の通りである。（順不同・敬称略）

［発掘調査］　高木義明　黒岩拓也　天野由利子　井口ヒロ子　碓井俊夫　狩野友好　駒形邦子　高井雄一　高田進弘　竹内忍武　竹生正明　角田宇三郎　永井祐二　早津敏男　樋口久雄　松本喜久治　綿貫瑛一

［整理調査］　土井道昭　池内麻美　大塚規子　瀬尾則子　半澤利江　深谷道子　真下弘美

９．発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（順不同・敬称略）

株式会社スカイサーベイ　カネコハウス有限会社　山下工業株式会社　有限会社スミヤ測量

坂口　一　鈴木徳雄　外山政子　中村岳彦　前田和昭　三浦京子　山口逸弘

凡　　例

１．挿図における座標値は世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。

２．等高線や遺構断面図における水準値は海抜標高を示す（単位：m）。

３．本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、各挿図中にスケールを付した。

４．グリッドは、原点（X=37,300・Y=-67,400）より西から東へＸ０、Ｘ１･･･、北から南へＹ０、Ｙ１･･･と付した。

５．本調査における遺構断面図および出土遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局）を使用した。

６．本書ではテフラの呼称として次の記号を用いる。

As-B:1108（天仁元）年に噴出した浅間Ｂテフラ。 Hr-FA:６世紀初頭に噴出した榛名－二ツ岳渋川テフラ。

As-C:４世紀初頭に噴出した浅間Ｃ軽石。

７．条里型地割は六町方格（南北：条、東西：里）の地割を基準とした古代の土地区画制度である。これを 36 等分した一町四方の区画を坪という。

８．本書掲載の第１図は国土交通省国土地理院発行 1/200,000「長野」・「宇都宮」、第２図は同院発行 1/25,000「前橋」・「高崎」、第３図は前橋市都市計画図 1/2,500 を一部改編して使用した。

９．表紙には『昭和 61 年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

10. 写真図版１には国土交通省国土地理院撮影（2001 年 10 月）の空中写真を使用した。

目　　次

序
Ⅰ 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ 遺跡の位置と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　1 地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2 歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅲ 調査の方法と経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅳ 遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　1 遺構・遺物の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　2 基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
Ⅴ 中近世以降の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　1 中近世以降の溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　2 中近世以降の土坑・小穴（ピット）・・・・・・・・ 10
Ⅵ 平安時代末期（As-B 層下面）の遺構と遺物 ・・・ 19
　1 As-B層下水田 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　2 As-B層下足跡列 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　3 平安時代末期の溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　4 平安時代末期の井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　5 平安時代末期の小穴（ピット）・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅶ 古墳時代から平安時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・ 34
　1 Hr-FA混入土層水田 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
　2 Hr-FA層下水田 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
　3 畝状遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
　4 古墳時代から平安時代の溝 ・・・・・・・・・・・・・・・ 35
　5 古墳時代から平安時代の小穴（ピット）・・・ 40
　6 古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物 ・・・ 40
Ⅷ 縄文時代の遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
Ⅸ 自然科学分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
　1 土層とテフラ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
　2 プラント・オパール分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
Ⅹ まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
　1 古墳時代から平安時代の水田・溝について ・・・ 60
　2 平安時代末期の水田について ・・・・・・・・・・・・・・ 63
　3 中近世以降の溝について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

挿図目次

第１図　遺跡の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　調査区の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第４図　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第５図　中近世以降の全体図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第６図　中近世以降の全体図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第７図　中近世以降の溝（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第８図　中近世以降の溝（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第９図　中近世以降の溝（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第10図　中近世以降の溝（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第11図　中近世以降の溝（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第12図　中近世以降の溝（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第13図　平安時代末期の全体図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第14図　平安時代末期の全体図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第15図　As-B層下水田（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第16図　As-B層下水田（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第17図　As-B層下水田（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第18図　As-B層下水田（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第19図　As-B層下水田（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第20図　As-B層下水田（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第21図　As-B層下水田（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第22図　平安時代末期の足跡列・溝（１）・井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第23図　平安時代末期の溝（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第24図　古墳時代から平安時代の全体図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第25図　古墳時代から平安時代の全体図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第26図　Hr-FA 混入土層水田 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第27図　Hr-FA 層下水田（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第28図　Hr-FA 層下水田（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第29図　畝状遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第30図　古墳時代から平安時代の溝（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第31図　古墳時代から平安時代の溝（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第32図　古墳時代から平安時代の溝（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第33図　古墳時代から平安時代の溝（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第34図　古墳時代から平安時代の溝（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第35図　古墳時代から平安時代の溝（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第36図　古墳時代から平安時代の溝（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第37図　古墳時代から平安時代の溝（８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第38図　出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第39図　基本層序柱状図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第40図　プラント・オパール分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第41図　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 ・・・・・・・ 59
第42図　古墳時代から平安時代における周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・ 61
第43図　２・３区８ｂ号溝の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第44図　平安時代末期における周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

表目次

表１　中近世以降の土坑・小穴計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
表２　As-B 層下水田区画計測表（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
表３　As-B 層下水田区画計測表（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
表４　古墳時代から平安時代の小穴計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
表５　出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
表６　テフラ検出分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
表７　屈折率測定結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
表８　プラント・オパール分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

図版目次

巻頭写真
調査区（５区）から榛名山・浅間山を望む
平安時代末期の水田（５ｃ区 As-B 層下水田）
古墳時代の水田（５区 Hr-FA 層下水田）
古墳時代の溝（２・３区１号溝）
基本層序（５ｃ区）
図版１
遺跡の位置と周辺の地形（上が北）
２ｂ・３区１面、２ａ区２面全景（南から）
図版２
１区１号溝埋没状態（西から）
１区２号溝（西から）
１区２号溝（北から）
１区２号溝埋没状態（南から）
２・３区 11 号溝（南から）
２・３区 12 号溝（南から）
４区１号溝（東から）
４区１号溝（北から）
図版３
５ａ区１面全景（北から）
５区１号溝（南から）
５区２～５号溝（北から）
５区２～４号溝（南から）
５区６号溝（南東から）
５区７・10 号溝（東から）
５区８号溝（北から）
５区８号溝南側試掘坑（北東から）
図版４
５区８ｂ号溝埋没状態（北から）
５区９号溝（北から）
５区 12 号溝（南から）
５区 13 号溝（北から）
５区 14 号溝（北から）
５区１号土坑（南から）
５区２・３号土坑（北から）
５区４号土坑（北から）
図版５
１区 As-B 層下水田（北から）
１区 As-B 層下水田（南西から）
１区 As-B 層下水田作業風景（北西から）
３区 As-B 層下水田（北から）
３区 As-B 層下水田（南から）
３区 As-B 層下水田水口（南から）
図版６
５ｂ区 As-B 層下水田（南から）
５ｂ区 As-B 層下水田（東から）
図版７
５ｃ・ｄ区 As-B 層下水田（南から）
５ｃ区 As-B 層下水田（南東から）
５ｃ区 As-B 層下水田窪み列（北から）
５ｃ区 As-B 層下水田畦畔（北から）
５ｃ区 As-B 層下水田畦畔断面（北から）
図版８
５ｄ区 As-B 層下水田（南東から）
５ｄ区 As-B 層下水田畦畔（北から）
５ｅ・ｆ区 As-B 層下水田（北から）
５ｅ区 As-B 層下水田（東から）
５ｅ区 As-B 層下水田大畦畔
・５区 15 号溝（北から）
５ｅ区 As-B 層下水田畦畔（東から）
図版９
５ｅ区 As-B 層下水田水口（北から）
５ｅ区 As-B 層下水田作業風景（西から）
５ｆ区 As-B 層下水田（南西から）
２・３区 13・16 号溝（南から）
２・３区１号足跡列（北東から）
２・３区１号足跡列（南西から）
５区１号井戸（東から）
５区１号井戸（北東から）
図版 10
２区 Hr-FA 混入土層水田（東から）
２区 Hr-FA 層下水田（西から）
２ａ区第２面と２区 Hr-FA 層下水田（南から）
５区 Hr-FA 層下水田（東から）
５区 Hr-FA 層下水田畦畔（北から）
２・３区畝状遺構（西から）
図版 11
２・３区１号溝（北東から）
２・３区１ａ号溝（南西から）
２・３区１ａ号溝埋没状態（南西から）
２・３区１ａ号溝遺物出土状態（北西から）
２・３区２ａ号溝（南西から）
２・３区２ｂ号溝（南西から）
２・３区３・４号溝（西から）
２・３区３・４号溝東半部（北西から）
図版 12
２・３区３・４号溝埋没状態（北から）
２・３区５号溝（南から）
２・３区６号溝（南から）
２・３区７号溝（南から）
２・３区８ｂ号溝（南から）
２・３区８ｂ号溝埋没状態（南から）
３区遺構確認状況（北から）
２・３区 17 ～ 22 号溝（南から）
図版 13
２・３区 17 ～ 22 号溝（北から）
２・３区 18 号溝（西から）
２・３区 18 号溝埋没状態（東から）
２・３区 18 号溝埋没状態（西から）
２・３区 22 号溝（北西から）
２・３区 21・22 号溝埋没状態（南から）
２・３区 23 号溝（北東から）
図版 14
２・３区 26 号溝（北東から）
２・３区 27 号溝（北東から）
５区 16 号溝（北から）
５区 17 号溝（北東から）
５区 18・19 号溝（東から）
５区 18 号溝（北から）
５区 19 号溝（北西から）
５区 20 号溝（北から）
図版 15
出土遺物（２・３区１ａ号溝、２・３区２ｂ号溝、２・３区３号溝、５区８ｂ号溝、遺構外）

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う公共道路建設事業に伴い実施された。

平成 20 年 9 月 12 日、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会代表持田頼男より、埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長依田三次郎）（以下「調査団」という。）に対し調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による発掘調査を進める方針を決め、前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会代表持田頼男と調査団の間で平成 20 年 9 月 29 日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。

これに基づき、10 月 23 日付けで、依頼者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会代表持田頼男と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、10 月 28 日付けで民間調査会社である有限会社毛野考古学研究所取締役長井正欣との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。

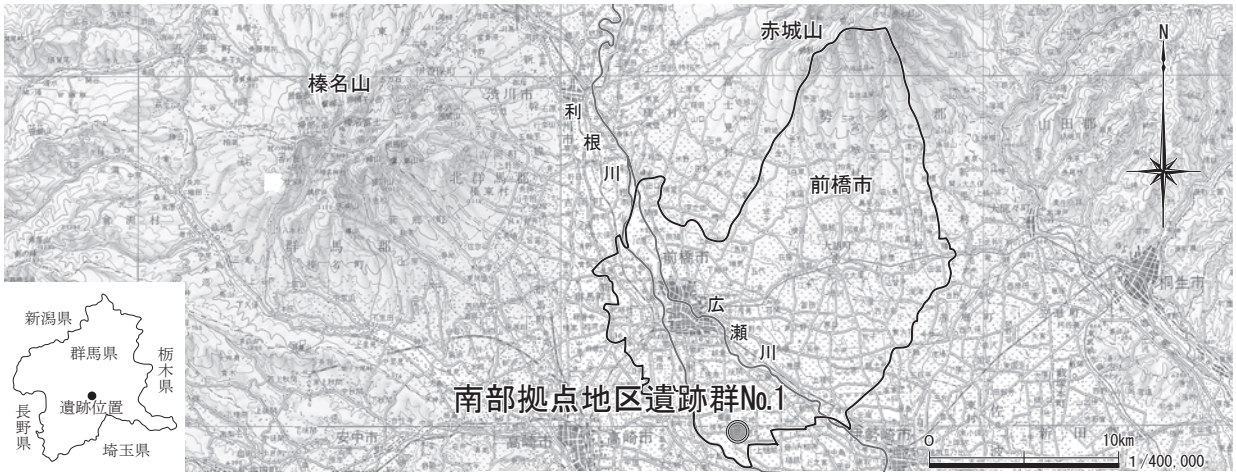
なお、遺跡名称は「南部拠点地区遺跡群№１」（市遺跡コード：20G61）とした。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

本遺跡は、前橋市南東部に展開する前橋台地上の後背湿地に立地する（標高約 76 m）。前橋台地は、利根川が赤城山・榛名山間から関東平野に流出する部分に広がる緩傾斜の扇状地性台地である。浅間山噴火に伴う山体崩壊（約２万年前）を原因とする「前橋泥流」が、利根川に沿って運ばれることで形成された。一般に、赤色角礫が混入し、黄褐色で締まりが強い特徴を有するものの、本調査地点では灰白色で粘性が強かった。

前橋台地上には、河川・旧河川が北西－南東方向に流れ、各所に自然堤防や後背湿地を形成する。本遺跡の近辺では、西から南側にかけて利根川、北東側に端気川が流下する。利根川は本遺跡周辺において前橋台地を貫流するが、前橋台地の北東側に位置する広瀬川低地帯から、天文年間（16 世紀）に洪水ないし人為的な改変により変流したものと想定されている。一方、端気川は利根川の支流に相当するが、かっては前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であった。この水源は、古墳時代から水田開発に利用されてきたことが明らかになっている。



第１図　遺跡の位置

2 歴史的環境

以下では、本調査と関連する縄文時代から中近世の事例を中心に、周辺の成果を概観する。

周辺地域における縄文・弥生時代の遺構調査例は少ない。ただし、藤川右岸の微高地上に立地する徳丸仲田遺跡（4）で縄文時代草創期の微隆起線文土器や有舌尖頭器を含む石器がまとまって検出されており、居住を伴う活動が想定されている。また、明瞭な遺構を伴わないことが多いものの、縄文時代前～後期、弥生時代中・後期の土器が各遺跡で散見されており、前橋台地における活動の痕跡が窺われる。

古墳時代になると遺跡数が飛躍的に増大する。集落は微高地上に占地するものの、時期ごとの変遷が著しい[1)]。前期の集落は後期に水田化してしまうような比較的標高の低い土地に展開することがあり、横手湯田遺跡（31）・横手早稲田遺跡（35）では周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、様々な時期の水田跡が調査されている。周辺では、４世紀初頭のAs-C層下水田、４世紀初頭以降のAs-C混入土層水田・As-C混入土層上水田、６世紀初頭のHr-FA層下水田、６世紀中葉のHr-FP層下水田・Hr-FP泥流層下水田などが報告されている[2)]。また、水田の開発に伴って水路や堰が整備されるようになり、多くの溝跡が調査されている。徳丸仲田遺跡（４）・砂町遺跡（51）では、前期に開削された大溝が検出されており、２km程にわたって連続することが見込まれている。

これらの集落やその生産活動を牽引したであろう有力者層の墳墓として、広瀬川右岸の自然堤防上や井野川・烏川流域に多くの古墳が集中する。これらは前期から後期まで継続して構築され、前期の元島名将軍塚古墳・前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳、後期の金冠塚古墳（Ｂ）・綿貫観音山古墳は、その規模や出土遺物などが卓越することで著名である。なお、前期には微高地上の集落域に接して方形周溝墓が構築され、周辺では西善尺司遺跡（２）・西善尺司Ⅱ遺跡（２）・公田東遺跡（12）・下滝梅崎遺跡（41）などで見受けられる。

奈良・平安時代には、律令制の導入と共に前橋市元総社町付近で国府や国分寺が造営される。砂町遺跡（51）では官道「東山道駅路」に推定される道状遺構が見付かっており、その近辺の一万田遺跡で大規模な掘立柱建物跡・柵列などが確認された。前橋台地の一般的な集落は前時期に引き続き微高地上に占地する[3)]。

後背湿地では、平安時代末期（1108年）のAs-B層下水田がほとんどの遺跡で検出されており[4)]、躍進的な水田域の拡充が窺われる。西田遺跡（20）では微高地に営まれていた集落上に水田開発が及ぶ。これらの水田は一町四方の方格区画、「条里型地割」に沿うものが多い。

中近世には、微高地上に排水施設などの機能を有する環濠遺跡群が多数占地する。周辺では、室町時代の城郭跡である力丸城（ａ）、室町・戦国時代の宿阿内城（ｂ）・新堀城（ｃ）が著名で、力丸城は那波郡を支配する那波氏一族の居城、宿阿内城は那波氏の属城に想定されている。また、多くの遺跡で当該期の館跡、掘立柱建物跡・井戸跡・墓などが調査された[5)]。方形の敷地内に密集する西田遺跡（20）の土壙墓群は特記されよう。

生産遺構として、利根川変流に伴う洪水などに起因する中世のAs-B混入土層水田、1783年の降灰を原因とする近世のAs-A層下水田が報告されている。これらの水田は前時期の条里型地割を踏襲することが多い。水田の他に、洪水で埋没した畠や復旧溝（灰掻き孔）なども散見される[6)]。

註１）古墳時代の竪穴住居跡が検出された遺跡－前期：２・４・13・31・35・41、中期：31・35、後期：９・10・12・13。

２）古墳時代の水田跡が検出された遺跡－As-C混入土層水田：４・５・12・13・18・20・38・39、As-C混入土層上水田：30・37・39、Hr-FA層下水田：２・４・12・14・20・29・31・32・35・36・37・38・39、Hr-FP層下水田：31・35・37・38、Hr-FP泥流層下水田：32・36・38・39。

３）奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出された遺跡－１・２・４・５・６・12・13・20・22・25・26・27・37

４）奈良・平安時代の水田跡が検出された遺跡－２・４・５・７・11・12・13・14・15・16・17・18・20・21・22・23・24・25・26・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・45・47・48・50・51。

５）中近世の遺構が検出された遺跡－館跡など：１・２・３・４・５・６・12・13・15・18・20・23・26・29・31・37・38・39・40・41。火葬土坑：２・39・41。土坑墓：２・５・14・18・20・26・30・37。

６）中近世の水田跡が検出された遺跡－As-B混入土層水田など：12・13・14・23・31・32・33・35・36・38。As-A層下水田など：12・39・40。復旧溝など：26・29・30・31・32・35・36・37・38・39・40・45・46・48。

１西善鍛治屋遺跡　２西善尺司遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡　３西善尺司Ⅲ遺跡　４徳丸仲田遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡
５徳丸高堰遺跡・徳丸高堰Ⅱ遺跡　６徳丸高堰Ⅲ遺跡・徳丸高堰Ⅳ遺跡　７宮地中田遺跡　８東田遺跡　９川曲遺跡　10 下佐鳥遺跡
11 上佐鳥中原前遺跡・上佐鳥中原前Ⅱ遺跡　12 公田東遺跡　13 公田池尻遺跡　14 亀里平塚遺跡　15 亀里銭面遺跡・亀里銭面Ⅱ遺跡
16 亀里油面Ⅱ遺跡　17 鶴光路練引遺跡　18 村中遺跡　19 村中Ⅱ遺跡　20 西田遺跡　21 西田遺跡・西田Ⅳ遺跡　22 西田Ⅱ遺跡　23 西田Ⅲ遺跡
24 西田Ⅴ遺跡　25 西田Ⅵ遺跡　26 鶴光路榎橋遺跡　27 鶴光路榎橋Ⅱ遺跡　**28 南部拠点地区遺跡群No.１**　29 下阿内壱町畑遺跡　30 下阿内前田遺跡
31 横手湯田遺跡・横手湯田Ⅱ遺跡・横手湯田Ⅲ遺跡・横手湯田Ⅳ遺跡・横手湯田Ⅴ遺跡・横手湯田Ⅵ遺跡　32 横手宮田遺跡　33 横手宮田Ⅱ遺跡
34 井戸南遺跡　35 横手早稲田遺跡　36 横手南川端遺跡　37 西横手遺跡群　38 宿横手三波川遺跡　39 上滝榎町北遺跡　40 上滝五反畑遺跡
41 下滝梅崎遺跡　42 滝川Ｂ遺跡　43 上滝社宮司遺跡　44 滝川Ｃ遺跡　45 天神前遺跡　46 天神前Ⅱ遺跡　47 中道西遺跡　48 一本木遺跡
49 田口下屋敷遺跡　50 金免遺跡　51 砂町遺跡
Ａ亀塚山古墳　Ｂ金冠塚古墳　Ｃ文殊山古墳　Ｄ阿弥陀山古墳　Ｅ下川渕３号古墳　Ｆ浅間神社古墳　ａ力丸城　ｂ宿阿内城　ｃ新堀城

第２図　周辺の遺跡（1/25,000）

Ⅲ 調査の方法と経過

発掘調査は平成20年11月11日から平成21年３月19日にかけて実施した。調査区は事業完了後の道路部分に相当する狭長な範囲で、１・２ａ～ｂ・３・４・５ａ～ｆ区に分かれる[1)]。また、前橋市教育委員会の試掘調査結果を受けて２面の遺構確認面が設定され、第１面がAs-B層下水田、第２面がAs-C混入土層水田の検出を主目的としている。このうち、２ｂ区・３区・５ｂ～ｆ区は第１・２面、１区・２ａ区・５ａ区は第２面のみを対象としていたが、遺構の検出状況から１区南側・２ａ区・５ａ区では第１面の調査も実施した。４区は調査区が狭いため第１面のみを対象とし、２ａ・５ｂ区の第１・２面間ではHr-FA層下水田が見付かったことから調査面を部分的に増やした。なお、第２面は３ｍ幅の試掘坑による調査に切り替えている。

各区調査に際しては、調査範囲・廃土置場等を設定し、安全対策を講じた。第１面は、中近世以降の耕作土等を重機で取り除き[2)]、As-B一次堆積層上面を露呈させた。５ａ区では同層を包含する錯綜した細溝群が認められたが、近現代の工事車両による塡圧を原因とするものと判断された。重機による掘削後は、人力による遺構確認・発掘調査を進めている[3)]。As-B層下水田は、堆積する軽石を除去するとAs-B降下直前段階の水田面や畦畔が現出する。軽石は上位を鋤簾、水田面上を移植ゴテで除去した。As-B層下水田の調査と同時に、As-B降灰以後の遺構確認にも努めている。また、As-B一次堆積層が後世の攪拌により削平された部分では下位の層が露出し、２ａ区ではHr-FA混入土層中に耕作された水田の痕跡が認められた。

第２面は、As-C混入土層上面を調査目的とし、上層のHr-FA混入土層を重機で取り除いた[4)]。その後、人力による遺構確認･発掘調査を進めている[5)]。水田耕作土に比定されるAs-C混入土層は部分的に認められたものの、水田面や畦畔の検出には至らなかった。そこで、As-C降下以降の遺構・遺物検出に尽力した。たとえば、一次堆積のHr-FAを包含する無数の窪みが部分的に検出され、Hr-FA層下で営まれていた水田跡に想定された。なお、第２面調査の完了後、廃土の埋め戻し[6)]をもって各区の発掘調査を終了としている。

遺構の名称は、各区の遺構種類ごとに通し番号を付けたが、２・３区９・10・14・15・24・25、５区11号溝は欠番である。遺構の図化はトータルステーションによる地上測量、遺構写真は35㎜モノクロフィルム、35㎜カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラで、調査の進捗に合わせて随時実施した。ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影も２度併用している[7)]。また、自然科学分析により層位の年代把握などにも努めた[8)]。調査成果の整理作業・報告書作成などは、発掘調査と一部平行して実施した。

註１）本調査に平行して、６・７・８区が南部拠点地区遺跡群№２として前橋市埋蔵文化財発掘調査団により執行されている。６区は１区の南側、７・８区は５区の北側に位置する。
２）１区：１月21日、２区：11月11～13日、３区：11月13～14日、４区：１月21日、５ａ区：12月４～11日、５ｂ～ｆ区１月７～20日。
３）１区：２月９～26日、２区：11月13日～12月３日、３区：11月18日～12月３日、４区：２月11～20日、５区：12月16日～２月27日。
４）１区：11月20～21日・１月21日、２ａ区：11月14～17日、２ｂ区：12月３～４日、３区：12月４日、５区：２月24日～３月５日。なお、１区の表土剥ぎは湧水のため、一時中断している。
５）１区：２月９～26日、２区：11月17日～２月25日、３区：12月９日～２月19日、５区：２月26日～３月17日
６）１区：２月28日～３月２日、２区：２月26～28日、３区：２月25日、４区：３月16日、５区：３月16日～３月19日
７）２・３区第１面：11月27日、１・４・５区第１面、２・３区第２面：２月19日
８）２月23日

Ⅳ 遺跡の概要

１ 遺構・遺物の概要

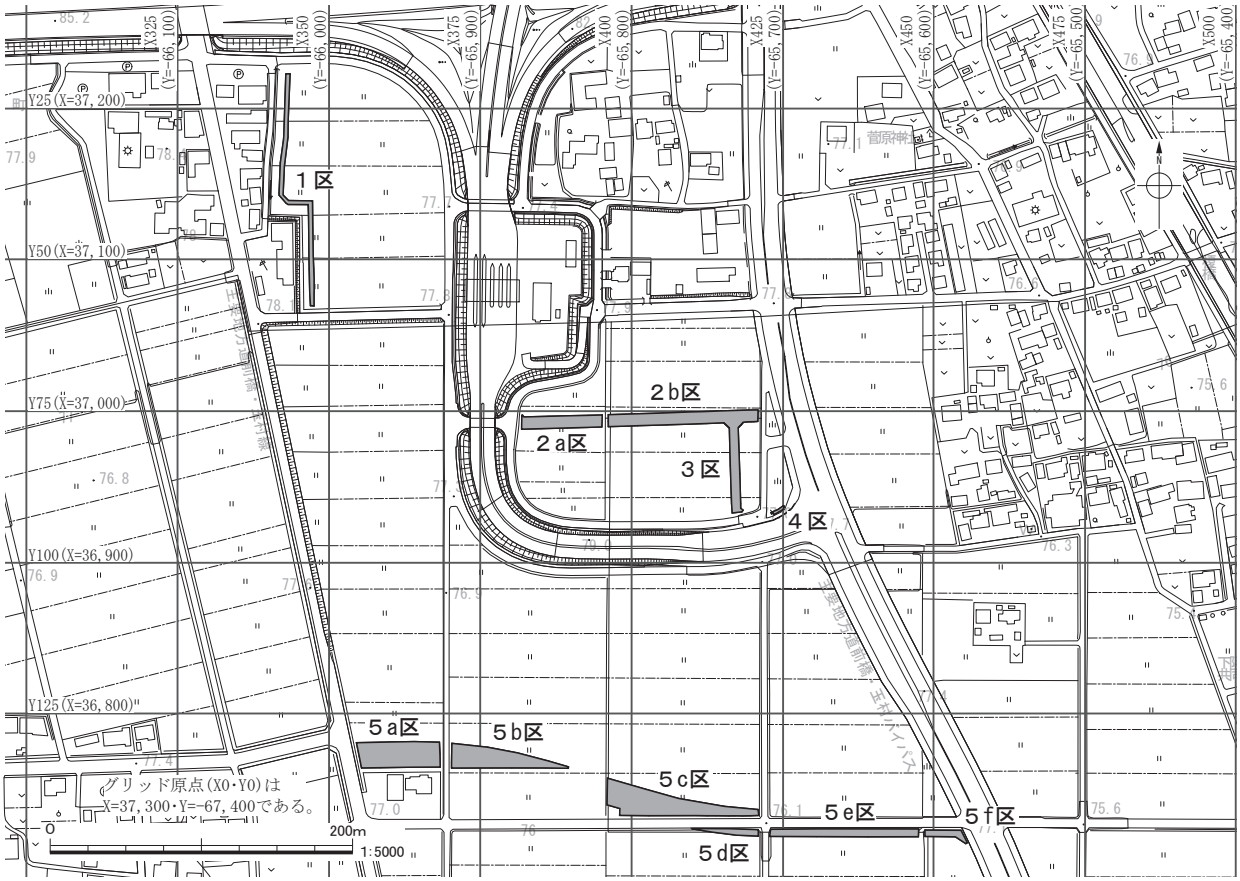
本遺跡では縄文時代から近代に至る遺構・遺物が検出され、中近世以降、平安時代末期、古墳時代から平安時代の３期にわたる土地利用形態を追うことができた。

中近世以降の遺構はAs-B層を攪拌するもので、厳密にはAs-B降下（1108年）以降を対象とする。該期の遺

構として、溝23条・土坑４基・小穴15基が確認された。平安時代末期の遺構はAs-B一次堆積層下で検出されたもので、降下年代である1108年に所産時期が求められる。該期の遺構としてAs-B層下水田71区画・足跡列１条・溝３条・井戸１基・小穴１基が確認された。As-B層下水田はAs-B一次堆積層が良好に残存する１区南端・３区南側・５ｂ～ｅ区で確認された。古墳時代から平安時代の遺構はAs-C層を攪拌し、As-B層下に埋没するもので、厳密にはAs-C降下（４世紀初頭）からAs-B降下までを対象とする。As-C層が明確でない地点の遺構は、埋没状態・出土遺物などで判断した。該期の遺構として、Hr-FA混入土層水田・Hr-FA層下水田・畝状遺構・溝27条・小穴５基が確認されている。Hr-FA混入土層水田は、水田面が残存せず、耕作の鋤き込みが及ばない畦畔部分が「疑似畦畔」として検出された。Hr-FA層下水田はHr-FA一次堆積層が残存する２ａ・５ｂ区で検出されたが、水田面は削平され耕作痕のみが展開する。

出土遺物は、中近世以降の陶磁器類、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器・土製品、縄文時代の土器・石器などが出土している。調査面積に比して出土遺物量は少ない。また、小片資料でほとんど占められている。このうち、古墳時代前期・後期の土師器が卓越し、微高地縁辺に位置する２ａ区に集中する。

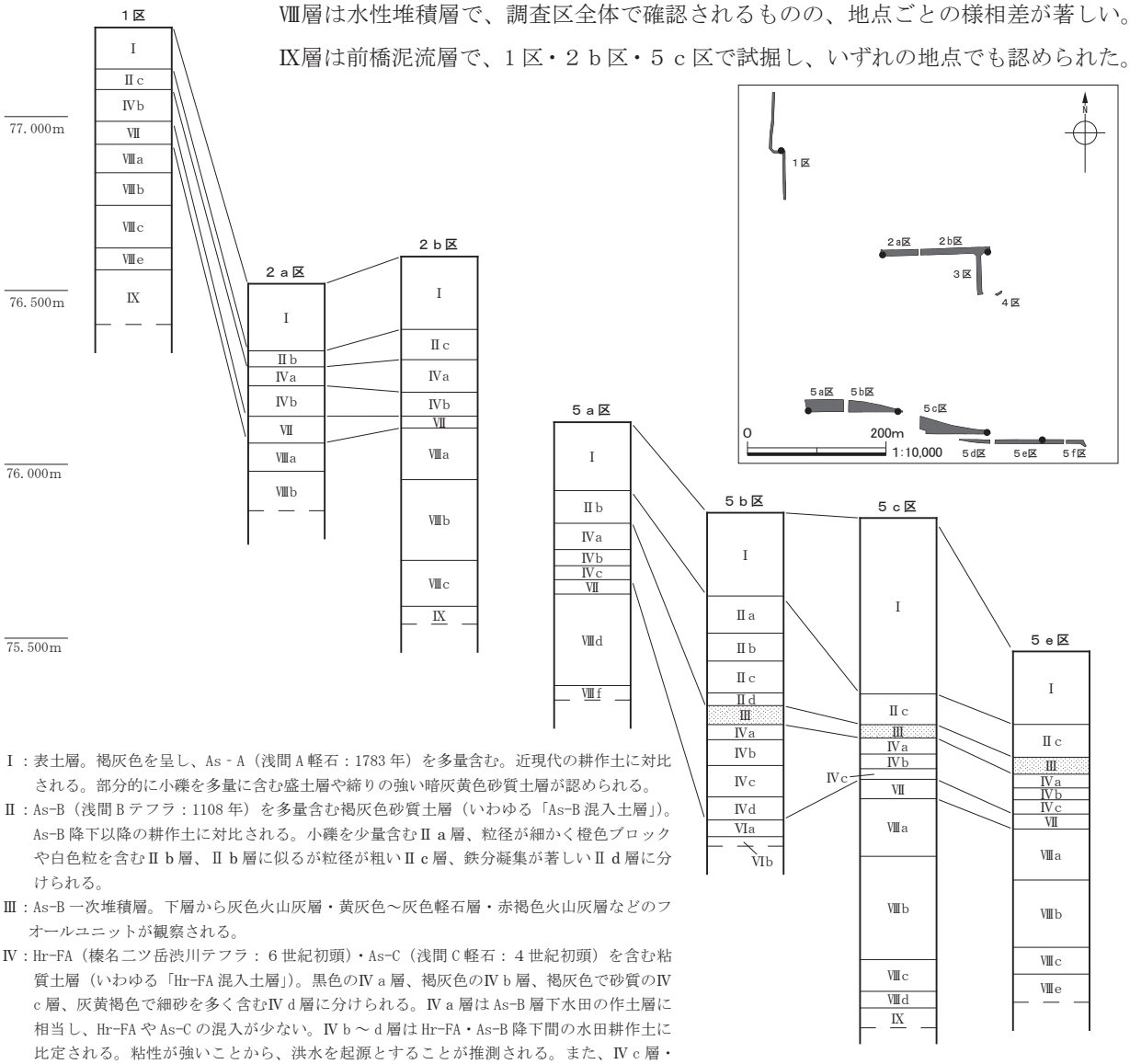
ところで、本遺跡に隣接して、西田遺跡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団、以下前橋市埋文1996・1998・1999・2001、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、以下群馬県埋文2002）、村中遺跡（前橋市埋文2001、群馬県埋文2002）・下阿内壱町畑遺跡（群馬県埋文2001）・下阿内前田遺跡（群馬県埋文2001）などが調査・報告されている（第２図）。これらは本地点と一連の遺跡であり、低地ではAs-B層下水田や溝などが連続する。また、本調査区では明確に確認できなかったHr-FA層下水田やAs-C混入土層水田も検出されている。西田遺跡の微高地上では平安時代（９～10世紀）の住居跡が検出されており、水田を担う集落域に想定された。また、西田遺跡・村中遺跡で中近世の屋敷跡に伴う溝が報告されており、本調査区との関連が予想される。



第３図　調査区の位置

２ 基本層序

調査区は北西から南東に傾斜し、２ａ区が微高地の脇に位置する。基本層序は以下に示すⅠ～Ⅸ層が認められた。Ⅰ層は表土層で、現代の水田耕作土などに対比される。Ⅱ層はAs-Bの混入土層で、全調査区で確認できた。Ⅱａ～ｂ層の４細分が可能で、５ａ・ｂ区において良好に残存する。Ⅲ層はAs-Bの一次堆積層で１区南側・３区・５ｃ～ｅ区で５～10cmほど堆積する。Ⅳ層はHr-FA・As-Cの混入土層で調査区全体で確認できた。Ⅳａ～ｄ層の４細分が可能で、５ｂ区において良好に残存する。Ⅴ層はHr-FAの一次堆積層で、Hr-FA層下水田の分布域（２ａ・５ｂ区）でのみ検出された。Ⅵ層はAs-Cの混入土層で、２ａ区・３区南側・５ｂ区にしか残存していない。５ｂ区でのみⅥａ・ｂ層に細分された。Ⅶ層は黒色粘質土層で、調査区全体に展開する。Ⅷ層は水性堆積層で、調査区全体で確認されるものの、地点ごとの様相差が著しい。Ⅸ層は前橋泥流層で、１区・２ｂ区・５ｃ区で試掘し、いずれの地点でも認められた。



Ⅰ：表土層。褐灰色を呈し、As－A（浅間Ａ軽石：1783年）を多量含む。近現代の耕作土に対比される。部分的に小礫を多量に含む盛土層や締りの強い暗灰黄色砂質土層が認められる。

Ⅱ：As-B（浅間Ｂテフラ：1108年）を多量含む褐灰色砂質土層（いわゆる「As-B混入土層」）。As-B降下以降の耕作土に対比される。小礫を少量含むⅡａ層、粒径が細かく橙色ブロックや白色粒を含むⅡｂ層、Ⅱｂ層に似るが粒径が粗いⅡｃ層、鉄分凝集が著しいⅡｄ層に分けられる。

Ⅲ：As-B一次堆積層。下層から灰色火山灰層・黄灰色～灰色軽石層・赤褐色火山灰層などのフオールユニットが観察される。

Ⅳ：Hr-FA（榛名二ツ岳渋川テフラ：６世紀初頭）・As-C（浅間Ｃ軽石：４世紀初頭）を含む粘質土層（いわゆる「Hr-FA混入土層」）。黒色のⅣａ層、褐灰色のⅣｂ層、褐灰色で砂質のⅣｃ層、灰黄褐色で細砂を多く含むⅣｄ層に分けられる。Ⅳａ層はAs-B層下水田の作土層に相当し、Hr-FAやAs-Cの混入が少ない。Ⅳｂ～ｄ層はHr-FA・As-B降下間の水田耕作土に比定される。粘性が強いことから、洪水を起源とすることが推測される。また、Ⅳｃ層・Ⅳｄ層には鉄分が多く含まれていた。

Ⅴ：Hr-FA一次堆積層。浅黄色テフラが観察される。

Ⅵ：As-Cを含む黒色砂質土層（いわゆる「As-C混入土層」）。黒褐色のⅥａ層とAs-Cを多量に含む黒色のⅥｂ層に分けられる。Ⅵａ層はHr-FA層下水田の耕作土、Ⅵｂ層はAs-C降下以降の耕作土に対比される。

Ⅶ：As-C混入土層水田などの基盤となる黒色の粘質土層。白色粒や鉄分を含み、１区では淡黄色粒が少量認められた。

Ⅷ：水性堆積層。粘質土・砂質土などが互層状に堆積する。複雑な堆積状況を示し、観察地点ごとの様相も異なる。各細別層序は以下のとおりである。
Ⅷａ：灰色粘質土、Ⅷｂ：灰色粘質土（黄灰色粘質土ブロック・白色粒・淡黄色粒・明黄橙色粒を含む）、Ⅷｃ：褐灰色砂質土（白色粒を含む）、Ⅷｄ：灰色砂質土（一部粘質で、白色粒・淡黄色粒を含む）、Ⅷｅ：黒色粘質土（砂を含む）、Ⅷｆ：灰白色粘質土（白色粒・淡黄色粒・砂を含む）

Ⅸ：前橋泥流層。灰白色の粘質土で、赤色礫を含む。鉄分が多く認められる。

第４図　基本層序

Ⅴ　中近世以降の遺構と遺物

１　中近世以降の溝

１区１号溝（遺構：第７図、図版２）

位置：１区南側１面に位置し、東・西側は調査区外にかかる。**形態**：東西に直行し、底面は東側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－91°－Ｅ、残存長 3.00 ｍ、幅 0.75 ～ 1.02 ｍ、確認面からの深さ 16 ～ 17 ㎝。**埋没状態**：上層に As-B を含む黄灰色砂質土、下層に As-B・黒褐色粘質土ブロックを含む黄灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態および As-B 一次堆積層の上面より掘り込まれていることから、中近世以降に比定される。

１区２号溝（遺構：第７図、図版２）

位置：１区北側・中央１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**形態**：南北にやや蛇行して走行し、３条の流路が確認される。土層断面観察地点を除き平面プランのみ調査した。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｗ、残存長 85.00 ｍ、幅 2.23 ～ 2.90 ｍ、壁面で確認した深さ 55 ～ 69 ㎝。**埋没状態**：主に、褐灰色砂質土が堆積し、下層には小礫が混入する。**遺物**：近現代の陶磁器片が少量出土した。**時期**：埋没状態や周辺遺跡との関係より、昭和 40 年代の用水路に想定される。

２・３区８ａ号溝（遺構：第８図）

位置：２ａ区中央１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。Hr-FA 混入土層水田と重複し、本溝が新しい。**形態**：北東－南西に直行し、底面は南側が若干低い。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－６°－Ｅ、残存長 8.00 ｍ、幅 0.35 ～ 0.45 ｍ、壁面で確認した深さ８㎝。**埋没状態**：多量の As-B と黒色粘質土ブロックを含む暗灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

２・３区 11 号溝（遺構：第８図、図版２）

位置：２ｂ区西端１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**形態**：南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－４°－Ｅ、残存長 7.90 ｍ、幅 0.67 ～ 1.15 ｍ、確認面からの深さ 22 ～ 25 ㎝。**埋没状態**：多量の砂と少量の As-B を含む灰色粘質土が堆積する。砂は下層により多い。**遺物**：磁器片・敲石が各１点出土した。**時期**：埋没状態・出土遺物より、中近世以降に比定される。

２・３区 12 号溝（遺構：第８図、図版２）

位置：２ｂ区ほぼ中央１面に位置し、北側は調査区外にかかる。**形態**：南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－２°－Ｅ、残存長 7.36 ｍ、幅 0.40 ～ 0.62 ｍ、確認面からの深さ 25 ～ 27 ㎝。**埋没状態**：As-B を含む灰色砂質土が堆積する。As-B の混入は上層に多い。**遺物**：土師器・軟質陶器・陶器の小片が少量出土した。**時期**：埋没状態・出土遺物より、中近世以降に比定される。

４区１号溝（遺構：第８図、図版２）

位置：４区西側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**形態**：南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－３°－Ｅ、残存長 2.38 ｍ、幅 0.43 ～ 0.56 ｍ、確認面からの深さ 15 ～ 19 ㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態および As-B 混入土層の上より掘り込まれることから、中近世以降に比定される。

５区１号溝（遺構：第９図、図版３）

位置：５ａ区北東端１面に位置し、北側は調査区外にかかる。南側は試掘坑の先で検出されず、試掘坑内で収まるか、浅くなっていくものと推測される。**形態**:南北に直行し、南側は二股に分かれる。底面は南側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－W、残存長 2.36 m、幅 0.26 ～ 0.48 m、確認面からの深さ５～７㎝。**埋没状態**：主に、褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

５区２号溝（遺構：第 10 図、図版３）

位置：５ａ区東側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区５号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北に直行する。南側でａ～ｃの３条に枝分かれし、古い順に２ｂ号溝→２ｃ号溝→２ａ号溝となる。２ｃ号溝は遺構確認面より高い位置を走行するため、平面図には表れていない。底面は南側が若干低い。断面は方形または逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－４°－W、残存長 16.85 m、幅 0.13 ～ 0.25 m、確認面からの深さ７～ 17 ㎝。**埋没状態**：灰黄褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

５区３号溝（遺構：第 10 図、図版３）

位置：５ａ区東側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区４・５・８ｃ号溝と重複し、本溝が５・８ｃ号溝より新しく、４号溝より古い。**形態**：南北にやや屈曲して走行し、底面は南側が若干低い。断面は逆三角形または逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－３°－W、残存長 16.85 m、幅 0.18 ～ 0.34 m、確認面からの深さ９～ 19 ㎝。**埋没状態**：主に、褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：土師器および陶器の小片がわずかに出土している。陶器は、天目茶碗や「志野」が確認された。**時期**：埋没状態・重複関係・出土遺物より、中世（16 世紀）以降に比定される。

５区４号溝（遺構：第 10 図、図版３）

位置：５ａ区東側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区３・５・８ｃ号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北にやや屈曲して走行する。中央から南にかけて幅が狭くなり、この辺りから二股に分かれると推測される。東側は遺構確認面より高い位置を走行するため、平面図には表れていない。底面は南側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－W、残存長 16.85 m、幅 0.34 ～ 0.72 m、確認面からの深さ４～ 21 ㎝。**埋没状態**：主に、灰黄褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：自然科学分析の結果、近世（As-A 降下後）に比定される。

５区５号溝（遺構：第 10 図、図版３）

位置：５ａ区東側１面に位置し、南側は調査区外にかかる。５区２～４号溝と重複し、本溝が古い。**形態**：北西－南東に直行し、南東際で南へ屈曲する。底面は南側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 48°－W、残存長 9.75 m、幅 0.20 ～ 0.35 m、確認面からの深さ４～８㎝。**埋没状態**：褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

５区６号溝（遺構：第 10 図、図版３）

位置:５ａ区中央北側１面に位置し、北側は調査区外にかかる。５区８ｃ・８ｄ号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**:北西－南東に緩やかな弧を描くように走行し、底面は北側が若干低い。断面は西側が弧状を呈し、東側が中位に

段を有して立ち上がる。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 21°－W、残存長 5.18 m、幅 0.58 ～ 0.84 m、確認面からの深さ 18 ～ 21 ㎝。**埋没状態**：主に、褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

５区７号溝（遺構：第９図、図版３）

位置：５ａ区西側１面に位置し、西側は調査区外にかかる。**形態**：東西にやや屈曲して走行し、底面は東側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 89°－Ｅ、残存長 26.52 m、幅 0.36 ～ 0.57 m、確認面からの深さ６～８㎝。**埋没状態**：褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

５区８ａ号溝（遺構：第 10 ～ 11 図、図版３）

位置：５ａ区中央１面に位置し、南側は調査区外にかかる。５区８ｂ・８ｃ号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北に直行するが、北側を捉えることはできなかった。断面は弧状を呈する。溝の両脇には直径３～４㎝程の木杭が打ち込まれていた。**計測値**：主軸方位Ｎ－４°－Ｅ、残存長 3.00 m、幅 0.42 ～ 0.60 m、壁面で確認した深さ 42 ㎝。**埋没状態**：主に、にぶい橙色および灰褐色粘質土が堆積する。最下層には多量の細砂、その上層には少量の小礫が混入する。**遺物**：近世の陶磁器片がわずかに出土した。**時期**：埋没状態・重複関係・出土遺物より、中近世以降に比定される。

５区８ｂ号溝（遺構：第 10 ～ 11 図、図版３～４ / 遺物：第 38 図、表５、図版 15）

位置：５ａ区中央１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区８ａ・８ｃ号溝と重複する。本溝が５区８ｃ号溝より新しく、５区８ａ号溝より古い。**形態**：南北にやや蛇行して走行し、底面は南側が若干低い。断面は逆台形状を呈する。溝の両脇には直径３～４㎝程の木杭が打ち込まれていた。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長 16.88 m、幅 2.80 ～ 3.00 m、壁面で確認した深さ 66 ㎝。**埋没状態**：北側では下層に褐灰色砂礫、中～上層に礫を含む褐灰色砂質土が堆積する。南側では下層に粗砂を含む灰黄褐色粘質土、上層に小礫と粗砂を含む黄灰色粘質土が堆積する。**遺物**:南端底面付近の砂礫層から須恵器皿、上層から近世の陶磁器片が少量出土した。第 38 図 17 の須恵器皿は小型で器高が低く、器厚が厚いなどの特徴から古代末に比定されよう。口縁部内外面に煤が付着しており、灯明皿としての使用が窺われる。**時期**：埋没状態・重複関係・出土遺物より、古代末～中世に比定される。

５区９号溝（遺構：第９図、図版４）

位置：５ａ区西側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**形態**：南北に直行し、中間に 6.40 m程の空間を有する。底面は南側がわずかに低い。断面は浅い弧状または逆台形状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長 16.86 m、北側幅 1.10 ～ 1.23 m、南側幅 1.12 ～ 1.16 m、確認面からの深さ 11 ～ 23 ㎝。**埋没状態**：主に、灰褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

５区 10 号溝（遺構：第９図、図版３）

位置：５ａ区西側１面に位置する。**形態**：北東－南西に直行し、底面は北側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 46°－Ｅ、残存長 7.47 m、幅 0.19 ～ 0.34 m、確認面からの深さ２～４㎝。**埋没状態**:灰褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

５区 12 号溝（遺構：第 12 図、図版４）

位置：５ｃ・ｄ区１面に位置し、北・南側、５ｃ・ｄ区間は調査区外にかかる。５区 As-B 層下水田の小畦畔と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長 18.30 ｍ、幅 0.24 ～ 0.37 ｍ、壁面で確認した深さ 13 ～ 14 ㎝。**埋没状態**：主に、多量の As-B を含む黄灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：As-B 混入土層の上面から掘り込まれており、中近世以降に比定される。

５区 13 号溝（遺構：第 12 図、図版４）

位置：５ｃ区東端１面に位置し、北側は調査区外にかかる。５区 As-B 層下水田の小畦畔と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北に直行する。底面には凹凸が見られ、南側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－３°－Ｗ、残存長 4.28 ｍ、幅 0.62 ～ 0.79 ｍ、確認面からの深さ５～７㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む灰褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

５区 14 号溝（遺構：第 11 図、図版４）

位置:５ｃ区東側１面に位置し、南側は調査区外にかかる。５区 As-B 層下水田の小畦畔と重複し、本溝が新しい。**形態**:調査区内では「コ」字状を呈し、区画溝の形態をとる。底面はほぼ同じ標高で、多数の凹凸が認められる。断面は浅い逆台形状を呈する。溝の区画内に５区２～４号小穴が確認されたものの、配置に規則性はない。**計測値**:南北軸方位Ｎ－１°－Ｗ、東西長 4.63 ｍ、南北長 3.72 ｍ以上、幅 0.23 ～ 0.41 ｍ、確認面からの深さ４～７㎝。**埋没状態**:多量の As-B を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**:出土しなかった。**時期**:埋没状態・重複関係より、中近世以降に比定される。

５区 15 号溝（遺構：第 12 図、図版８）

位置：５ｅ区東側１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区 As-B 層下水田の坪境に当たる２号大畦畔の西脇を並走する。**形態**：南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－２°－Ｗ、残存長 5.06 ｍ、幅 1.46 ～ 1.50 ｍ、確認面からの深さ 44 ～ 46 ㎝。**埋没状態**:下層に黒褐色砂質土、上層に小礫を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：近現代の陶磁器・瓦の小片が多量に出土した。**時期**：埋没土３層中からビニールが出土しており、近現代の用水路と推定される。

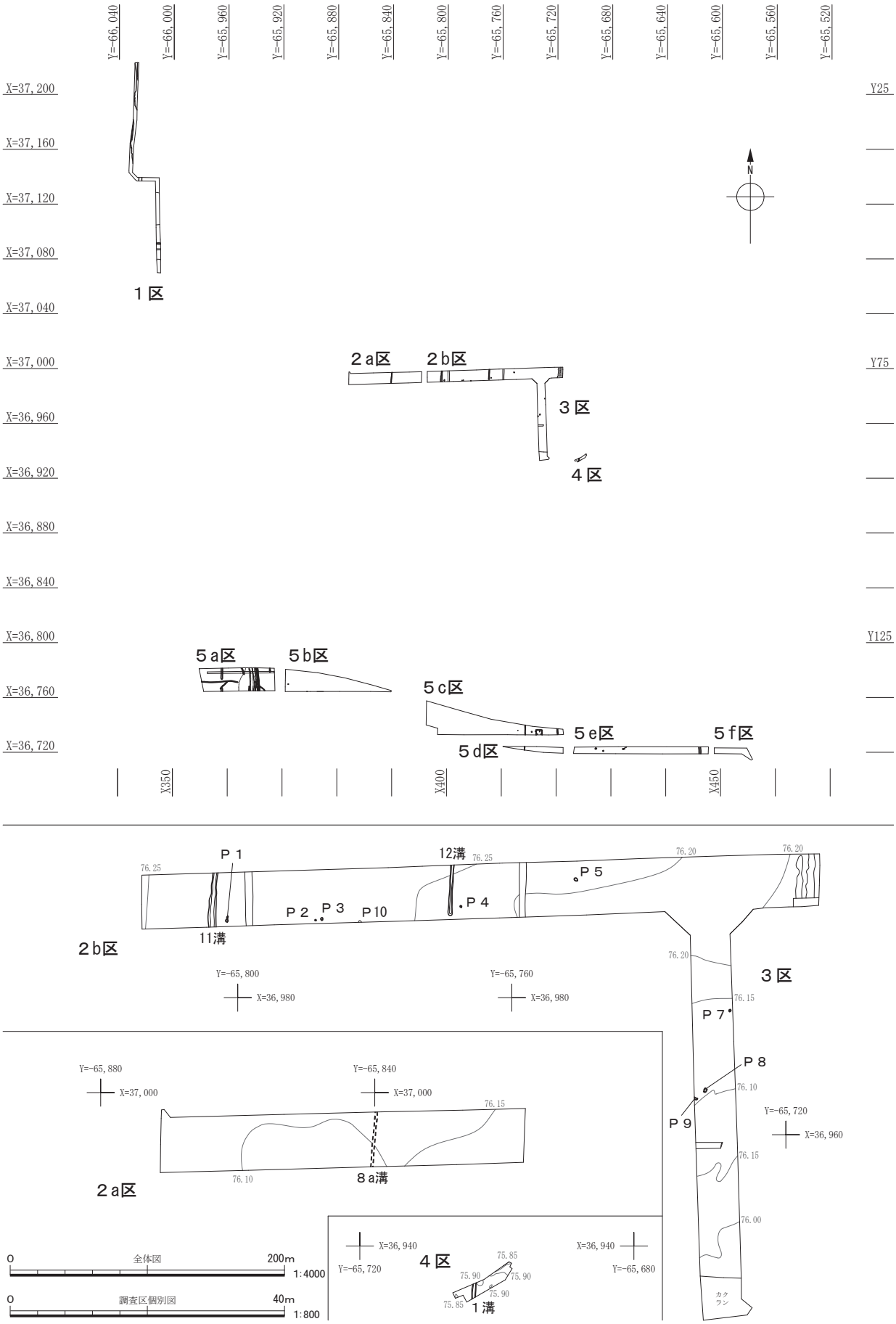
２　中近世以降の土坑・小穴（ピット）（遺構：第５～６図、表１、図版４）

土坑は５ｅ区で４基が検出された。形態・規模・埋没状態ともに類似していることから、同一の性格を有するものと推測される。小穴は２ｂ区で６基、３区で３基、５ｂ区で１基、５ｃ区で４基、５ｅ区で１基が検出された。配置に規則性を見出すことはできなかった。土坑・小穴ともに多量の As-B を含む褐灰色砂質土が埋没する。

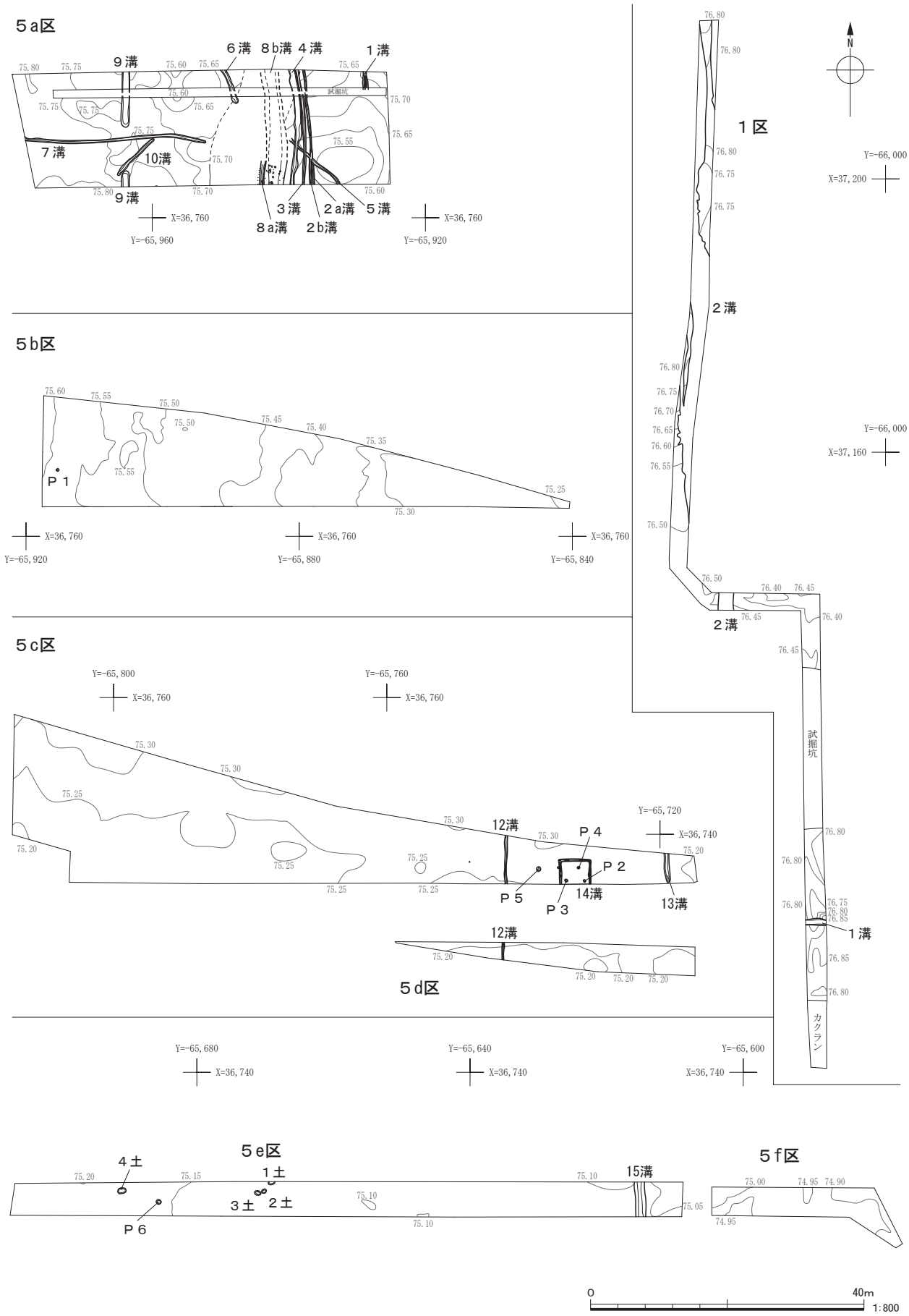
表１　中近世以降の土坑・小穴計測表

単位：㎝

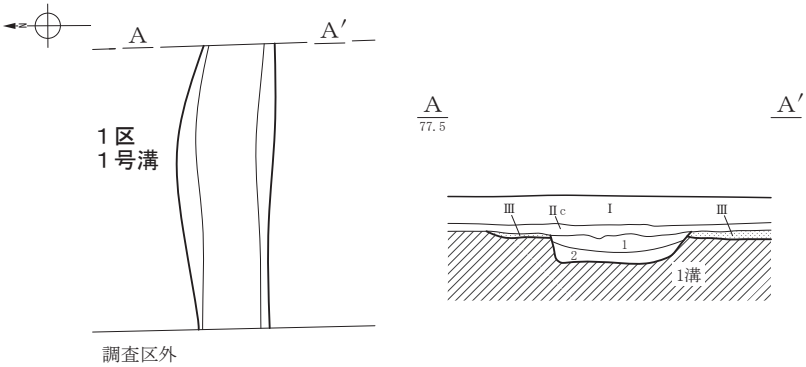
遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ
５区１号土坑	92・44・19	５区２号土坑	75・62・16	５区３号土坑	95・68・20	５区４号土坑	122・82・15
２・３区Ｐ１	45・40・17	２・３区Ｐ２	24・21・17	２・３区Ｐ３	45・35・３	２・３区Ｐ４	34・30・11
２・３区Ｐ５	60・43・２	２・３区Ｐ７	40・34・20	２・３区Ｐ８	63・44・33	２・３区Ｐ９	50・38・５
２・３区Ｐ 10	45・26・５	５区Ｐ１	39・38・61	５区Ｐ２	37・32・32	５区Ｐ３	46・39・25
５区Ｐ４	36・34・26	５区Ｐ５	28・24・13	５区Ｐ６	74・64・16		



第５図　中近世以降の全体図（１）

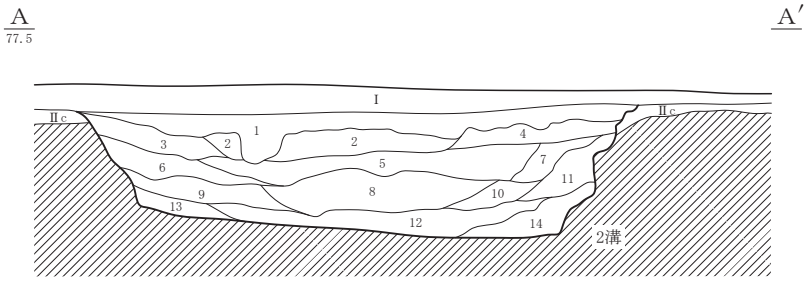


第６図　中近世以降の全体図（２）



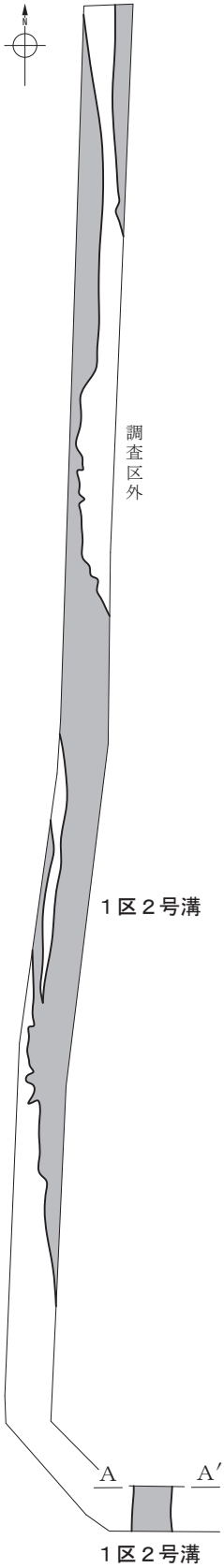
1区1号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
1：黄灰色砂質土層。As-B を大量含む。しまりがやや弱く、粘性がない。
2：黄灰色砂質土層。As-B を大量、黒褐色粘質土ブロックを少量含む。しまりが弱く、粘性がない。



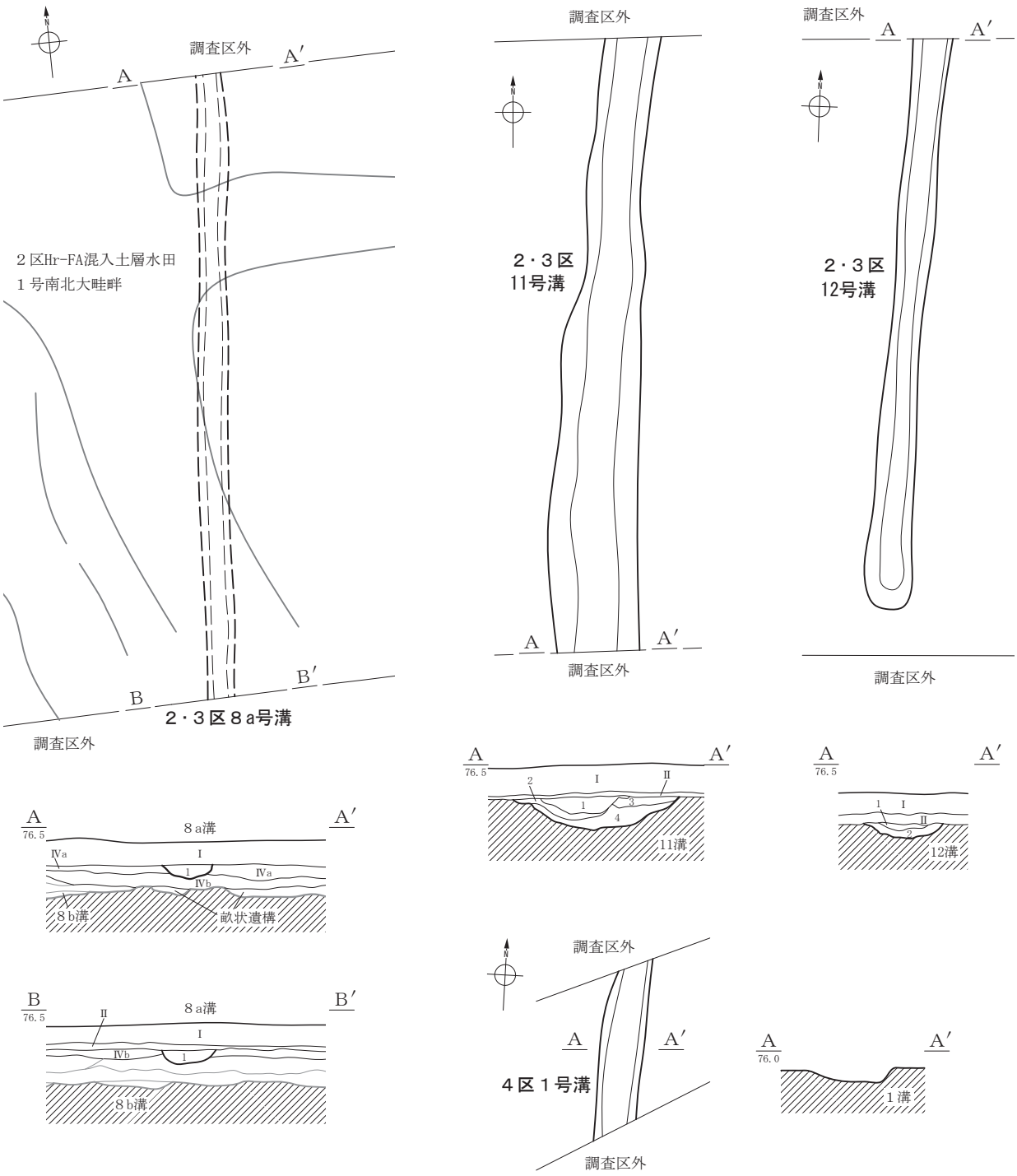
1区2号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
1：褐灰色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。
2：灰褐色粘質土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりが強く、粘性がある。
3：灰黄褐色砂質土層。白色微粒子・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。
4：灰黄褐色砂質土層。白色微粒子を大量、鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。
5：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。
6：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。
7：にぶい黄褐色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。
8：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、φ５～10㎜の礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
9：にぶい黄橙色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。
10：褐灰色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。
11：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。
12：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、φ10～20㎜の礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
13：褐灰色粘質土層。鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。
14：褐灰色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりが強く。粘性がややある。



0　1区2号溝平面　20m　1:400　　0　1区1号溝平面　2m　1:80　　0　断面　1m　1:40

第７図　中近世以降の溝（１）



２・３区８ａ号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
１：暗灰色砂質土層。As-B を大量、黒色粘質土ブロック・白色粒・鉄分を多量、Hr-FA を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がややある。

４区１号溝埋没土層

１：褐灰色砂質土。As-B を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。

２・３区 11 号溝埋没土層

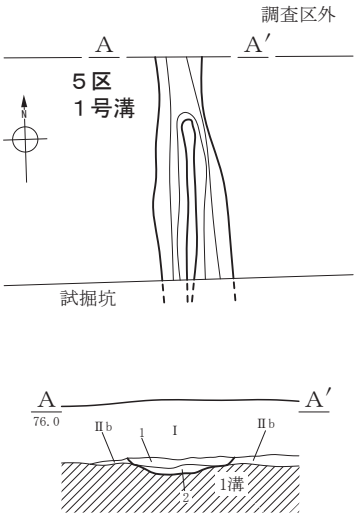
Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
１：灰色粘質土層。白色粒・砂・As-B・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。
２：灰色粘質土層。鉄分を大量、白色粒・砂を多量、As-B を少量含む。しまりが強く、粘性がある。
３：灰色粘質土層。砂を大量、鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。
４：灰色粘質土層。砂を大量、白色粒・As-B・鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がある。

２・３区 12 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
１：灰色砂質土層。As-B を大量、白色粒・鉄分を多量含む。しまりが非常に強く、粘性がない。
２：灰色砂質土層。白色粒を多量、As-B・鉄分を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がない。

0　2m　1:80
0　断面　1m　1:40

第８図　中近世以降の溝（２）



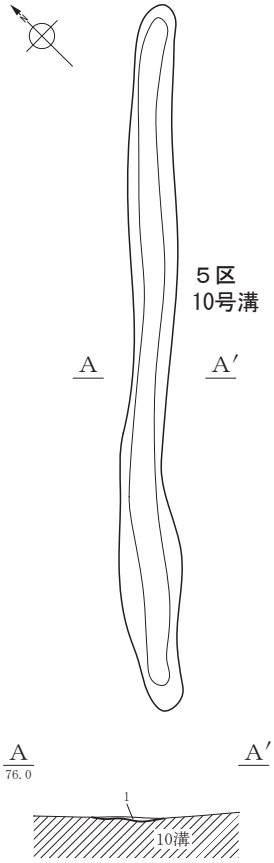
5区1号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

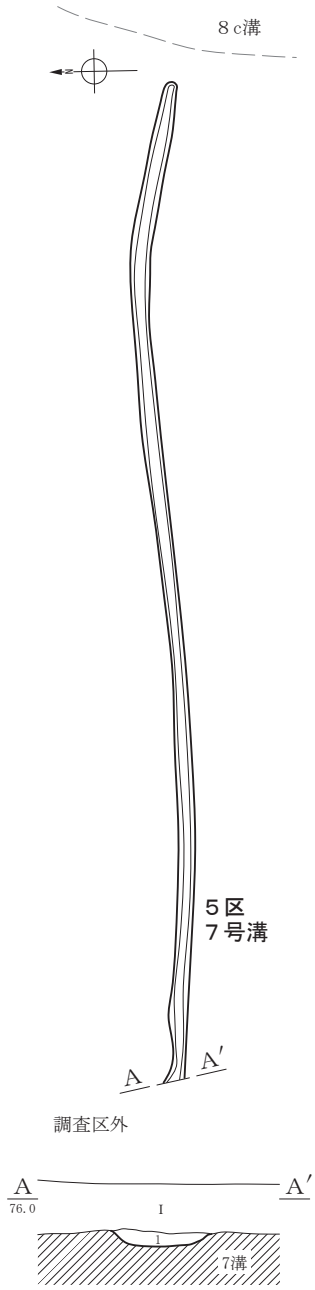
1：灰黄褐色土層。白色微粒子を多量含む。下層に鉄分沈着。しまりが強く、粘性がややある。

2：褐灰色土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。



5区10号溝埋没土層

1：灰褐色砂質土層。砂・白色微粒子・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。



5区7号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

1：褐灰色砂質土層。砂を大量、白色微粒子・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。

5区9号溝埋没土層

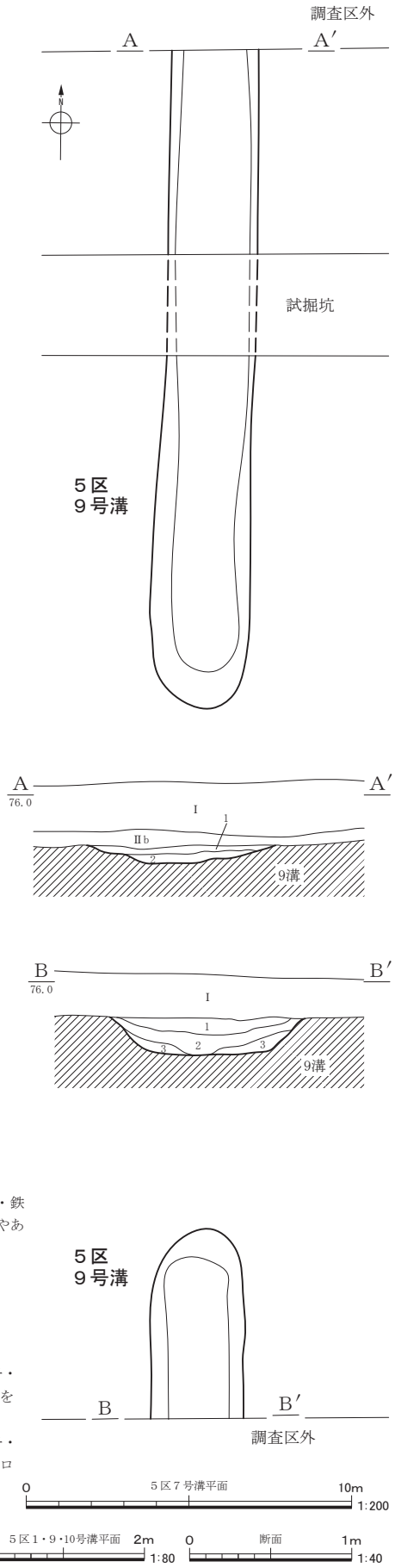
Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

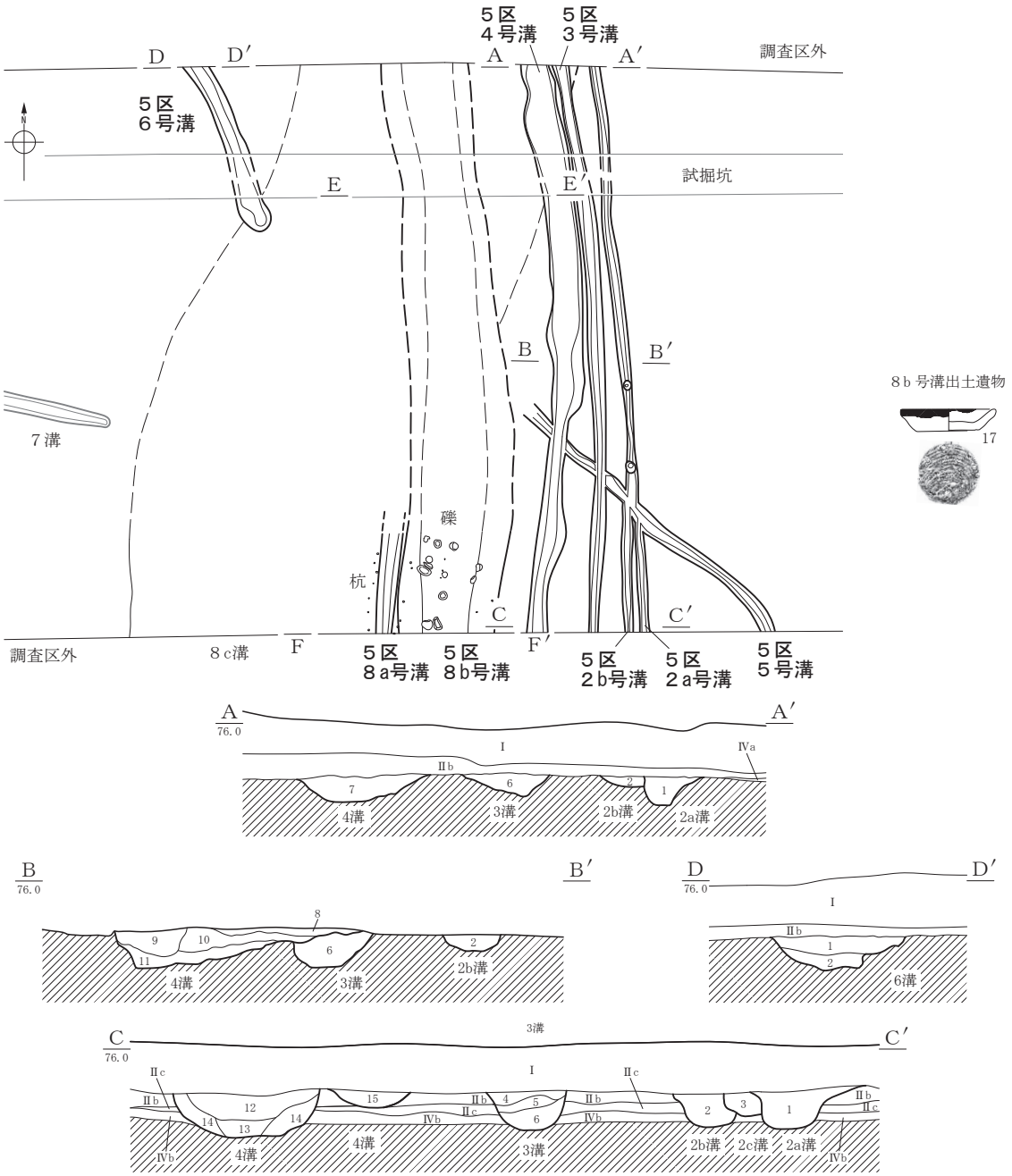
1：灰褐色砂質土層。砂を大量、白色微粒子・φ 50 ～ 100㎜の灰色粘質土ブロック・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性が若干ある。

2：灰褐色砂質土層。砂を大量、白色微粒子・鉄分を多量、φ 10 ～ 20㎜の灰色粘質土ブロックを少量含む。しまりが強く、粘性が若干ある。

3：灰色粘質土層。砂を少量含む。しまりが強く、粘性がある。



第９図　中近世以降の溝（３）



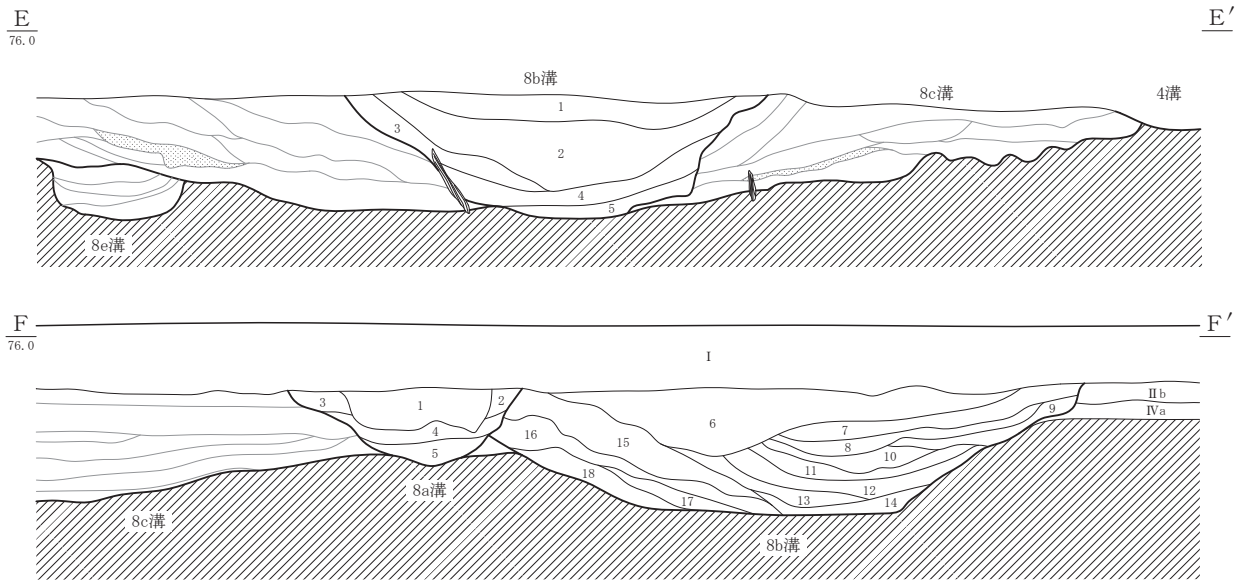
5区2～5号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。　　Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
1：灰黄褐色砂質土層。砂を大量、白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。２ａ溝。
2：灰黄褐色砂質土層。砂を大量、φ 10 ～ 40㎜の礫を所々含む。しまりがやや強く、粘性がややある。２ｂ溝。
3：灰黄褐色砂質土層。砂・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。２ｃ溝。
4：灰黄褐色粘質土層。しまりが強く、粘性がある。３溝。
5：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。３溝。
6：褐灰色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。３溝。
7：灰黄褐色砂質土層。As-B を大量含む。しまりがやや強く、粘性がある。４溝。
8：灰黄褐色粘質土層。しまりが強く、粘性がある。４溝。
9：灰黄褐色砂質土層。白色粒を多量、鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がある。４溝。
10：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。４溝。
11：灰黄褐色砂質土層。白色粒を多量、鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がある。４溝。
12：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。４溝。
13：褐灰色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。４溝。
14：灰褐色砂質土層。白色粒・鉄分を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。４溝。
15：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。４溝。

5区6号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
1：灰褐色砂質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性が若干ある。
2：褐灰色砂質土層。砂を大量、白色微粒子・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がややある。

第 10 図　中近世以降の溝（４）



５区８ｂ号溝埋没土層（Ｅ－Ｅ′）

１：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒・橙色粒を中量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

２：褐灰色砂質土層。φ５～60㎜の礫、鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

３：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、φ50～60㎜の小礫を少量、φ200㎜の礫を微量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

４：褐灰色砂礫層。鉄分を多量、褐灰色粘質土を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。

５：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、φ５～10㎜の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

５区８ａ号溝埋没土層（Ｆ－Ｆ′）

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

１：褐灰色粘質土層。白色粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

２：橙色粘質土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

３：にぶい褐色粘質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

４：灰褐色粘質土層。φ20～30㎜の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

５：にぶい橙色粘質土層。細砂を多量含む。下層に鉄分沈着。しまりがやや強く、粘性がある。

５区８ｂ号溝埋没土層（Ｆ－Ｆ′）

６：灰黄色粘質土層。白色粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

７：黄灰色粘質土層。粗砂を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

８：黄灰色粘質土層。粗砂を多量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

９：黄灰色粘質土層。粗砂を層状、φ30㎜の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

10：黄灰色粘質土層。しまりがやや強く、粘性がある。

11：灰黄色粘質土層。粗砂を層状に含む。しまりがやや強く、粘性がある。

12：黄灰色粘質土層。粗砂を層状、φ10～30㎜の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

13：灰黄褐色粘質土層。砂を多量、φ５～６㎜の砂礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

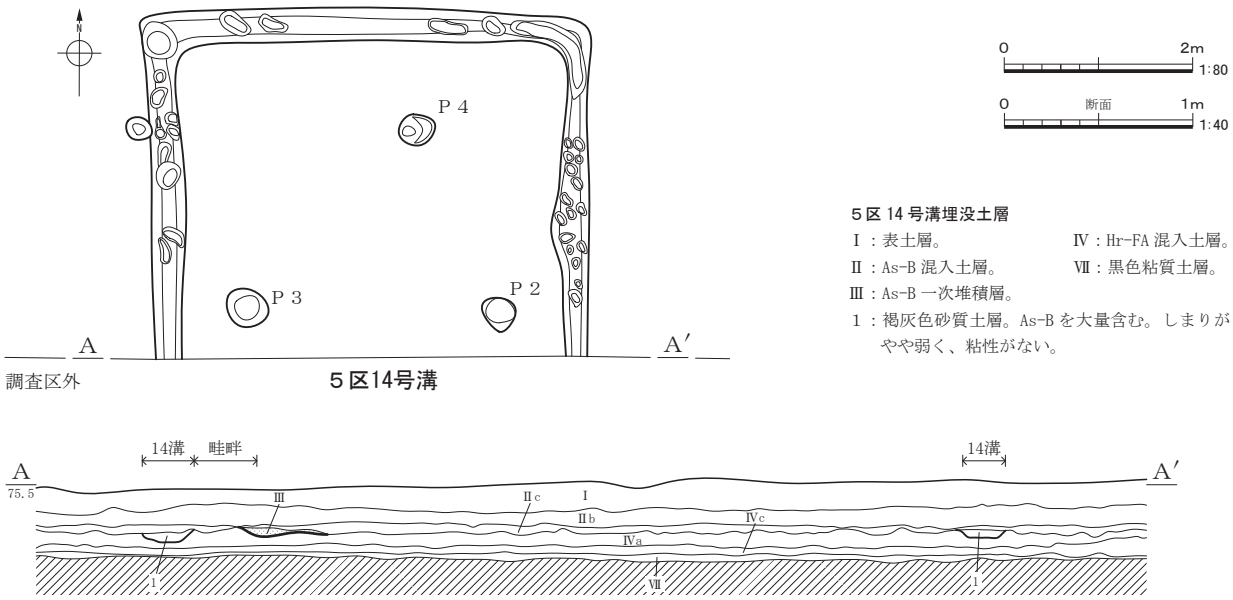
14：灰色細砂層。しまりが弱く、粘性がない。

15：にぶい黄橙色粘質土層。白色粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

16：褐灰色粘質土層。細砂を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

17：灰黄褐色粘質土層。粗砂を層状に含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

18：褐灰色砂質土層。底面に鉄分沈着。しまりがやや強く、粘性がややある。



５区 14 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

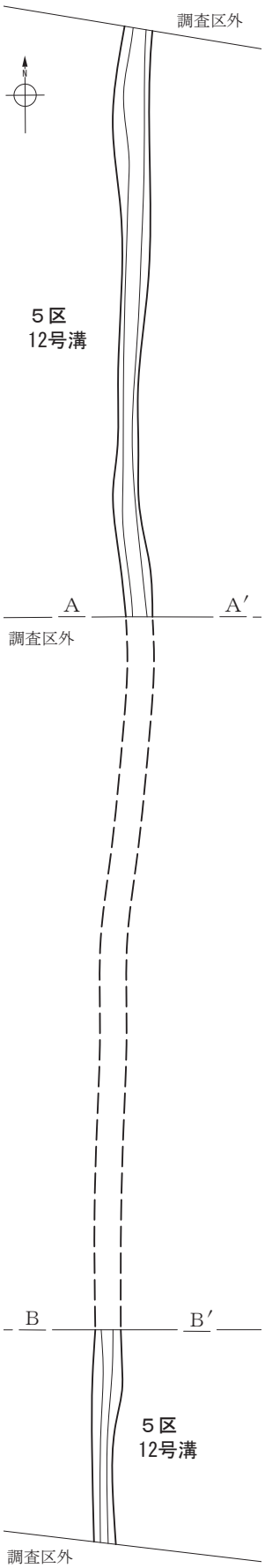
Ⅲ：As-B 一次堆積層。

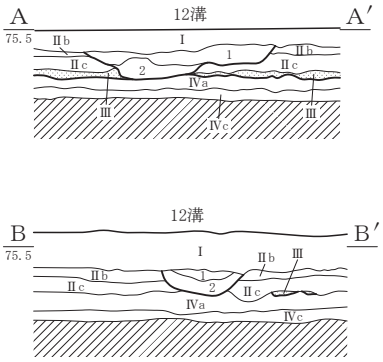
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

Ⅶ：黒色粘質土層。

１：褐灰色砂質土層。As-B を大量含む。しまりがやや弱く、粘性がない。

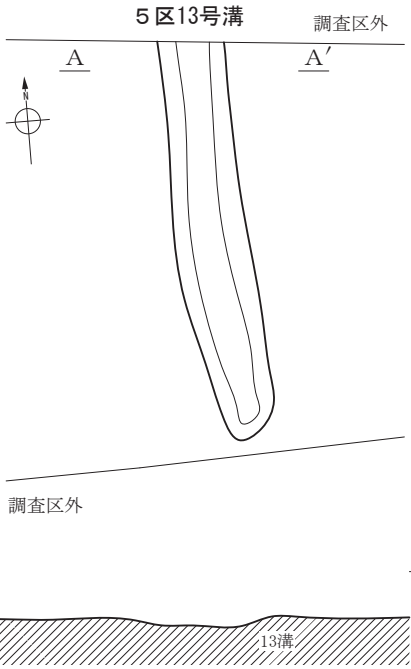
第 11 図　中近世以降の溝（５）

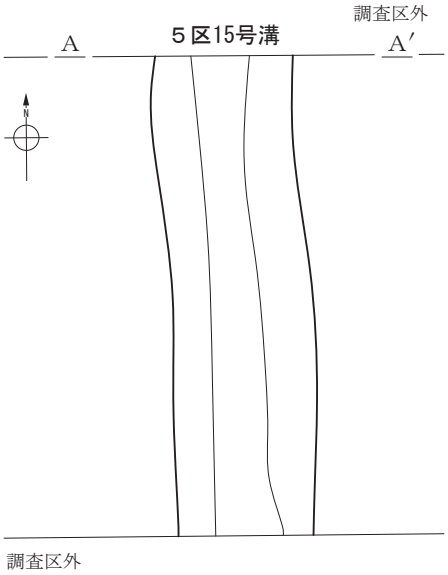




5区12号溝埋没土層

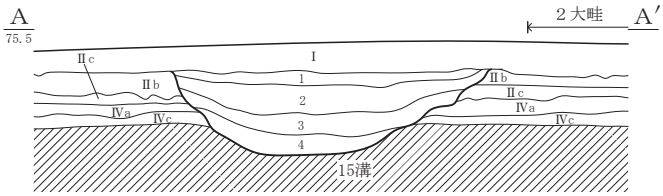
Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
1：黄灰色砂質土層。As-B を大量含む。しまりがやや弱く、粘性がない。
2：黄灰色砂質土層。As-B を多量含む。しまりが弱く、粘性がない。





5区15号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
1：灰黄褐色砂質土層。白色粒を多量、鉄分を少量、黒褐色粘質土を微量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
2：褐灰色砂質土層。白色粒・φ５～10mm の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
3：黒褐色砂質土層。白色粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
4：黒褐色砂質土層。３層より砂の粒径が大きい。しまりがやや強く、粘性がややある。



第 12 図　中近世以降の溝（６）

Ⅵ 平安時代末期（As-B 層下面）の遺構と遺物

１ As-B 層下水田

As-B 一次堆積層が１区南端・３区南側・５ｂ～ｅ区で良好に残存しており、これを取り除くと、降灰時の1108 年に所産時期が求められる As-B 層下水田が検出された。後世の耕作により水田面が検出されなかった１区北側・３区北側・４区についても、周辺遺跡の状況を鑑みて本来は水田が存在していたと判断される。

水田面は北から南へ、さらに西から東へとゆるやかに傾斜する。標高は１区で 76.84 ｍ、５ｅ区で 75.09 ｍを測り、直線 540 ｍの距離で比高は 1.80 ｍとなる。畦畔は頂部が削られているものの、比較的明瞭に確認できた。区画は基本的には南北・東西に走行する畦畔により長方形を志向しているが、５区の区画 57 ～ 60 のように東西畦畔を斜めに設定し、変形区画を採用しているものもある。狭長な調査区のため面積を把握できる区画は少ないが、最小で 14.95 ㎡、最大で 236.54 ㎡以上を確認している。水田耕作土は Hr-FA の混入する黒褐色粘質土で、粘性は非常に強い。水田面の状態は区画により違いが看取される。２ｂ区東側では南西―北東方向に直行する足跡列が検出された。なお、水田全体から後世の水田耕作に起因する As-B を二次的に包含する窪みが多数検出され、特に、５ｃ区では大型の不整形な穴が顕著に見られた。灌漑用の基幹水路には５区８ｃ号溝が想定される。

１区 As-B 層下水田（遺構：第 15 図、表２、図版５）

位置：１区南端１面に位置する。**残存状況**：南端で３～５㎝程の As-B 一次堆積層が水田面上を覆っていた。北側は１区２号溝の存在および後世の耕作で残存しておらず、水田の痕跡は確認できなかった。**地形**：北から南へ緩傾斜する。水田面の最高位は 76.85 ｍ、最低位は 76.80 ｍである。**区画**：東西の小畦畔が１条検出されたのみで、区画は不明である。**畦畔**：幅は 105 ～ 140 ㎝、水田面との比高は２～３㎝である。畦畔は低く崩れた印象を受けるが、上面に As-B 一次堆積層が薄く残存していることから、As-B 降下時には既に現況を呈していたと推測される。**水口**：畦畔が途切れる東側に存在する可能性がある。**水田面の状態**：なだらかで浅い凹凸が見られる。**遺物**：出土しなかった。

３区 As-B 層下水田（遺構：第 15 図、表２、図版５）

位置：３区南側１面に位置する。**残存状況**：南側で３～５㎝程の As-B 一次堆積層が水田面上を覆っていた。**地形**：概ね、北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は 76.12 ｍ、最低位は 76.08 ｍである。北から南へと段差を付けて耕作され、各水田面間の比高は、北から南へ１～５㎝、西から東へ０～１㎝である。段差は東西方向に比べ、南北方向が高い。**区画**：８区画が確認されたものの、全容が把握できる区画はない。**畦畔**：幅は南北畦畔が 60 ～ 108 ㎝、東西畦畔が 43 ～ 101 ㎝である。水面との比高は、南北畦畔が２～７㎝、東西畦畔が３～５㎝である。南北畦畔は１町方格地割の坪境に位置しており、１号大畦畔と呼称した。方位はＮ－２°－Ｗを示す。**水口**：３ヵ所で確認された。すべて東西畦畔の端に設けられ、幅は 18 ～ 22 ㎝である。**水田面の状態**：なだらかで浅い凹凸が見られる。**遺物**：出土しなかった。

５区 As-B 層下水田（遺構：第 16 ～ 21 図、表２・３、図版６～９）

位置：５ｂ～ｆ区１面に位置する。５区 12 ～ 15 号溝、５区１～４号土坑、５区１～５号ピットと重複し、本水田が古い。**残存状況**：５ｂ～ｅ区で１～９㎝程の As-B 一次堆積層が水田面上を覆っていた。５ｂ区東側が最も良好に残存し、一部で、赤褐色火山灰のユニットも確認できた。逆に、５ｃ区北西・南東側、５ｅ区南西側、５ｆ区には後世の耕作による撹乱が及んでいた。**地形**：概ね、北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は 75.60 ｍ、最低位は 75.05 ｍである。水田面は北から南、西から東へと段差を付けて構築される。

各水田面間の比高は、５ｂ区が北から南へ１～２㎝・西から東へ１～８㎝、５ｃ～ｅ区が北から南へ１～６㎝・西から東へ０～２㎝である。５ｂ区は東西方向の段差が高く、逆に、５ｃ～ｅ区では南北方向の段差が高いという異なる様相を示す。**区画**：63 区画が確認されたものの、全容が把握できたのは４区画のみであった。面積は、最小が区画６の 14.95 ㎡、最大が区画 21 の 236.54 ㎡以上である。平面形は、直線的な畦畔による長方形区画が大半を占めるが、中には畦畔がやや弧状を呈すもの（区画 11・12）や、北東－南西方向の斜畦畔により変形区画をなすもの（区画 57 ～ 60）も散見される。**畦畔**：一町方格地割の坪境には、２条の南北畦畔が検出され、西から１・２号大畦畔と呼称した。方位はＮ－０～１°－Ｗを示す。大畦畔の幅は 129 ～ 178 ㎝である。５ｃ区１号大畦畔のみ幅 63 ～ 105 ㎝と狭い。水田面との比高は６～９㎝である。なお、５ｄ区１号大畦畔の中央からは、幅 57 ～ 60 ㎝の浅い溝が確認された。小畦畔の幅は、南北が 30 ～ 124 ㎝で平均 57 ㎝、東西が 30 ～ 110 ㎝で平均 59 ㎝である。水田面との比高は、頂部まで As-B 一次堆積層が覆っている畦畔で４～８㎝を計測した。畦畔の機能を鑑みると低い印象を受ける。また、斜畦畔による変形区画 59・60 は、明確な畦畔の高まりを持たない。**水口**：５ｃ区で３ヵ所、５ｅ区で４ヵ所が確認された。いずれも東西畦畔に設置される。５ｃ区では一辺の東端に設けられ、区角 29･31 で幅 28 ～ 31 ㎝、区角 41 で幅 93 ㎝である。５ｅ区では一辺の東および西端に設けられ、幅 15 ～ 25 ㎝である。**水田面の状態**：水田面は１号大畦畔を境に差異が見られる。１号大畦畔の西側はなだらかで凹凸が浅く、明確に足跡と判別できるものも少ない。対して東側は凹凸が大きく深めで、５ｅ区では区画 54・57 に瘤状の土塊（長径 12 ～ 20 ㎝、高さ３～４㎝）が多々見られる。東側では、区画 27 で北西―南東方向に走行する円形の窪み列や、区画 28 で南北小畦畔と並行する浅い窪み列なども見られる。**遺物**：５ｂ区から土師器坏および須恵器甕胴部の小片が各１点出土している。

表２　As-B 層下水田区画計測表（１）　面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画№	面積（㎡）	長軸（ｍ）	短軸（ｍ）	田面中央標高（ｍ）	田面比高（㎝）	南北畦畔高（㎝）	南北畦畔幅（㎝）	東西畦畔高（㎝）	東西畦畔幅（㎝）	備考
１区	1	—	—	—	76.84	1	—	—	—	—	
	2	—	—	—	76.83	1	—	—	3	105 ～ 140	
３区	1	—	—	—	76.10	2	—	—	—	—	
	2	—	—	6.55	76.08	3	—	—	3	60 ～ 70	水口あり
	3	—	—	5.40	76.03	1	—	—	3	42 ～ 72	水口あり
	4	—	—	—	76.01	2	—	—	5	48 ～ 53	
	5	—	—	—	76.08	1	3	60 ～ 77	—	—	水口あり
	6	—	—	10.60	76.06	2	2	73 ～ 108	4	92 ～ 101	水口あり
	7	—	—	6.05	76.00	1	7	70 ～ 80	4	76 ～ 89	
	8	—	—	—	75.98	0	4	85 ～ 90	5	62 ～ 73	
５ｂ区	1	—	—	—	75.64	0	—	—	—	—	
	2	—	6.95	—	75.59	2	6	72 ～ 85	—	—	
	3	—	8.79	—	75.51	0	8	54 ～ 58	—	—	
	4	—	—	—	75.50	0	7	39 ～ 55	—	—	
	5	—	—	—	75.64	0	—	—	1	49 ～ 51	
	6	14.95	7.05	2.12	75.58	1	7	68 ～ 82	3	46 ～ 65	
	7	21.84	8.40	2.60	75.50	5	6	35 ～ 64	6	32 ～ 54	
	8	—	—	2.05	75.49	2	6	41 ～ 48	5	30 ～ 46	
	9	—	—	—	75.48	0	5	48 ～ 50	—	—	
	10	—	—	—	75,61	2	—	—	5	64 ～ 71	
	11	—	—	11.13	75.55	4	5	50 ～ 68	5	62 ～ 74	
	12	—	—	9.95	75.47	0	5	48 ～ 76	5	57 ～ 71	
	13	—	—	7.80	75.45	4	6	44 ～ 60	6	50 ～ 78	
	14	—	—	10.70	75.39	8	6	40 ～ 79	7	50 ～ 60	
	15	—	—	5.50	75.32	1	3	40 ～ 72	—	—	１号井戸と重複
	16	—	—	11.45	75.28	0	6	44 ～ 56	—	—	
	17	—	—	—	75.27	0	7	42 ～ 45	—	—	

表３　As-B 層下水田区画計測表（２）　　面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画№	面積（㎡）	長軸（ｍ）	短軸（ｍ）	田面中央標高（ｍ）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔幅（cm）	備考
５ｃ区	18	—	—	—	75.27	2	—	—	—	—	
	19	—	—	—	75.19	1	—	—	6	80 ～ 102	
	20	—	—	—	75.19	0	—	—	4	53 ～ 62	
	21	—	21.12	—	75.30	4	4	39 ～ 72	—	—	
	22	—	—	5.25	75.28	3	1	51 ～ 69	—	—	
	23	(79.58)	11.45	6.95	75.28	0	3	55 ～ 72	5	59 ～ 86	
	24	61.41	8.90	6.90	75.24	3	4	43 ～ 72	3	45 ～ 80	
	25	34.71	6.70	5.18	75.28	0	1	50 ～ 70	5	43 ～ 63	
	26	—	—	—	75.22	2	—	—	4	63 ～ 87	
	27	—	14.25	—	75.20	1	6	51 ～ 71	4	50 ～ 82	
	28	—	15.65	—	75.32	0	4	47 ～ 64	—	—	水口あり
	29	130.40	16.00	8.15	75.28	2	6	30 ～ 55	3	53 ～ 84	水口あり
	30	—	8.20	—	75.24	0	9	32 ～ 45	6	58 ～ 64	
	31	—	8.20	—	75.25	0.5	2	46 ～ 49	2	45 ～ 71	水口あり
	32	—	18.95	—	75.28	1	2	48 ～ 62	—	—	
	33	—	19.23	—	75.26	2	2	56 ～ 68	3	52 ～ 75	
	34	—	13.20	—	75.28	1	3	61 ～ 86	—	—	
	35	—	(13.20)	—	75.25	3	4	54 ～ 57	0.5	49 ～ 72	
	36	—	8.80	—	75.27	1	2	43 ～ 51	—	—	
	37	—	8.80	—	75.23	2	—	—	0.5	47 ～ 55	
	38	—	—	4.20	75.27	0	4	91 ～ 105	—	—	
	39	—	—	4.78	75.22	0	6	83 ～ 92	3	70 ～ 80	
	40	—	—	4.40	75.28	0	0	58 ～ 69	—	—	水口あり
	41	—	—	4.35	75.24	1	8	59 ～ 69	2	77 ～ 88	
５ｄ区	42	—	—	—	75.21	0	—	—	—	—	
	43	—	11.23	—	75.19	4	4	65 ～ 80	6	42 ～ 71	
	44	—	—	—	75.24	0	—	—	—	—	
	45	—	—	—	75.23	0	5	46 ～ 55	—	—	
	46	—	9.70	—	75.19	0	3	41 ～ 47	7	47 ～ 70	
	47	—	8.80	—	75.19	2	8	153 ～ 178	—	—	
	48	—	—	—	75.21	0	1	47 ～ 65	—	—	
５ｅ区	49	—	—	—	75.17	0	—	—	—	—	
	50	—	19.52	—	75.17	0	5	85 ～ 113	—	—	水口あり
	51	—	19.60	—	75.17	0	0.5	90 ～ 92	0	30 ～ 82	水口あり
	52	—	5.80	—	75.16	2	3	66 ～ 105	—	—	水口あり
	53	—	11.80	—	75.14	4	0.5	106 ～ 124	5	57 ～ 93	水口あり
	54	—	18.51	—	75.13	4	8	57 ～ 85	—	—	
	55	—	8.10	—	75.10	0	0.5	29 ～ 52	1	60 ～ 79	
	56	—	3.45	—	75.11	0	2	30 ～ 31	4	69 ～ 72	
	57	—	18.40	—	75.15	1	3	58 ～ 95	—	—	
	58	—	10.05	—	75.12	2	—	—	4	62 ～ 110	
	59	—	19.65	—	75.10	3	3	67 ～ 95	—	—	
	60	—	10.15	—	75.09	0	—	—	2	—	
	61	—	—	—	75.09	0	8	129 ～ 150	—	—	
５ｆ区	62	—	—	—	—	—	—	65 ～ 70	—	—	
	63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

２　As-B 層下足跡列

２・３区１号足跡列（遺構：第 22 図、図版９）

位置：２ｂ区東側１面に位置する。北東・南西側が調査区外にかかる。**残存状況**：足跡の中にのみ、As-B 一次堆積層が残存していた。**形態**：南西－北東方向に直行する。**計測値**：走行方位Ｎ－ 23°－Ｅ、残存長 9.60 ｍ、幅 0.25 ～ 0.30 ｍ。**遺物**：出土しなかった。

3　平安時代末期の溝

２・３区 13 号溝（遺構：第 22 図、図版９）

位置：２ｂ区東側・３区北側１面に位置する。**形態**：南北に直行する。底面の高低差はほとんどない。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－W、残存長 5.00 m、幅 0.22 ～ 0.43 m、確認面からの深さ６㎝。**埋没状態**：下層は黒褐色粘質土、上層は As-B 一次堆積層が埋没する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より平安時代末期に比定され、その前段階から使用されていたと推測される。

２・３区 16 号溝（遺構：第 22 図、図版９）

位置：３区北側１面に位置し、東側は調査区外にかかる。**形態**：北西－南東に直行する。底面は南東側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 52°－W、残存長 3.30 m、幅 0.20 ～ 0.51 m、確認面からの深さ３㎝。**埋没状態**:下層は黒褐色粘質土、上層は As-B 一次堆積層により埋没する。**遺物**:出土しなかった。**時期**：埋没状態より平安時代末期に比定され、その前段階から使用されていたと推測される。

５区８ｃ号溝（遺構：第 23 図、図版３）

位置：５ａ区中央１面に位置し、北・南側は調査区外にかかる。５区６号溝および５区８ａ・ｂ・ｄ・ｅ号溝と重複する。本溝が５区８ｄ・ｅ号溝より新しく、５区８ａ・ｂ号溝より古い。**形態**：南北にやや蛇行して走行し、底面は南側が若干低い。断面は弧状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 17°－Ｅ、残存長 16.90 m、幅 7.90 ～ 8.10 m、壁面で確認面した深さ 62 ㎝。**埋没状態**：北側では部分的に As-B 層が検出された。これを境にして下層に褐灰色砂質土、上層に礫を含む灰褐色砂質土が堆積する。南側は下層に小礫を含む灰色粗砂および灰黄色砂質土が堆積し、中～上層は褐灰色砂質土と褐灰色粘質土の互層となる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：重複関係・埋没状態より平安時代末期に比定され、As-B 降下前・後も機能していたと推測される。

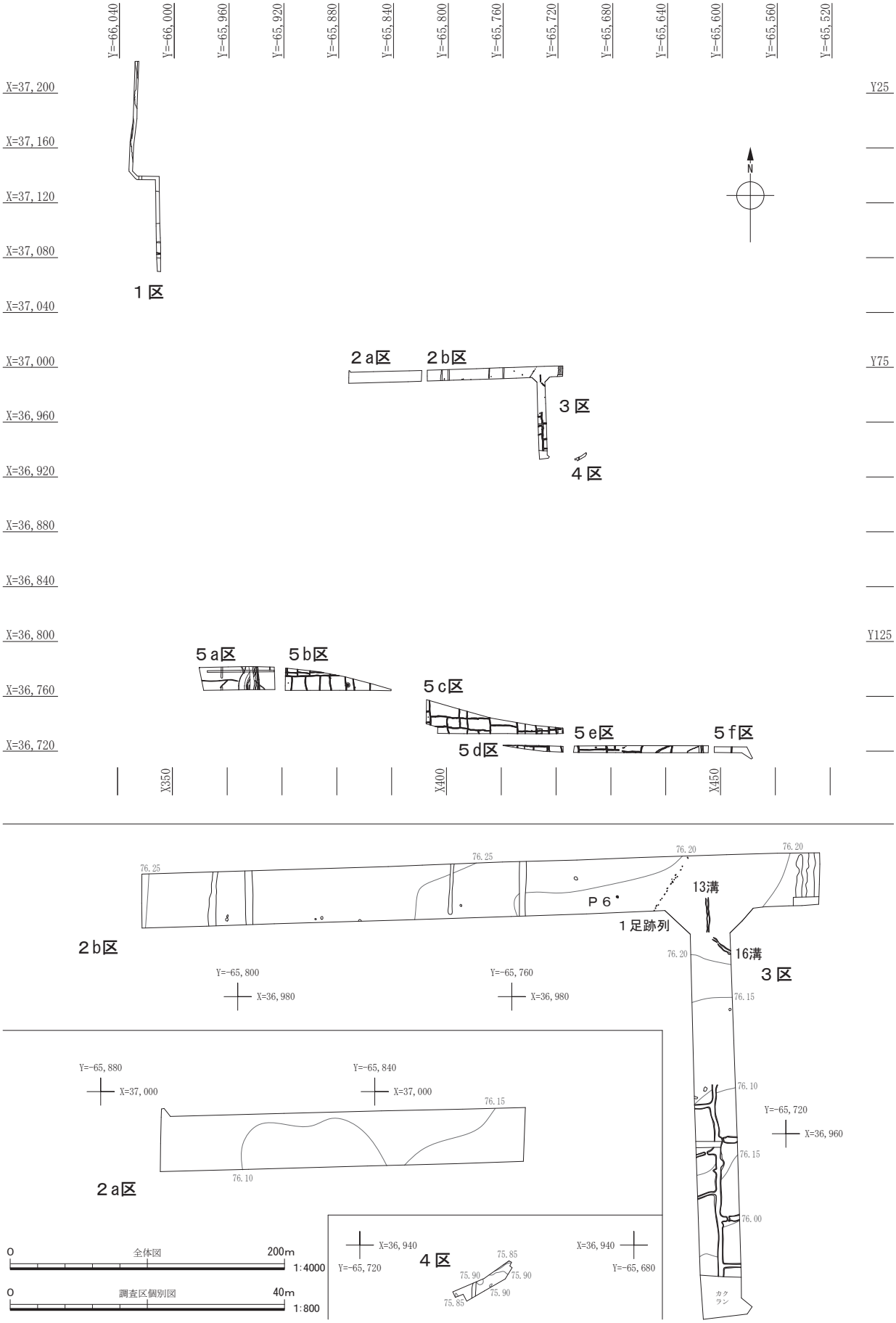
4　平安時代末期の井戸

５区１号井戸（遺構：第 22 図、図版９）

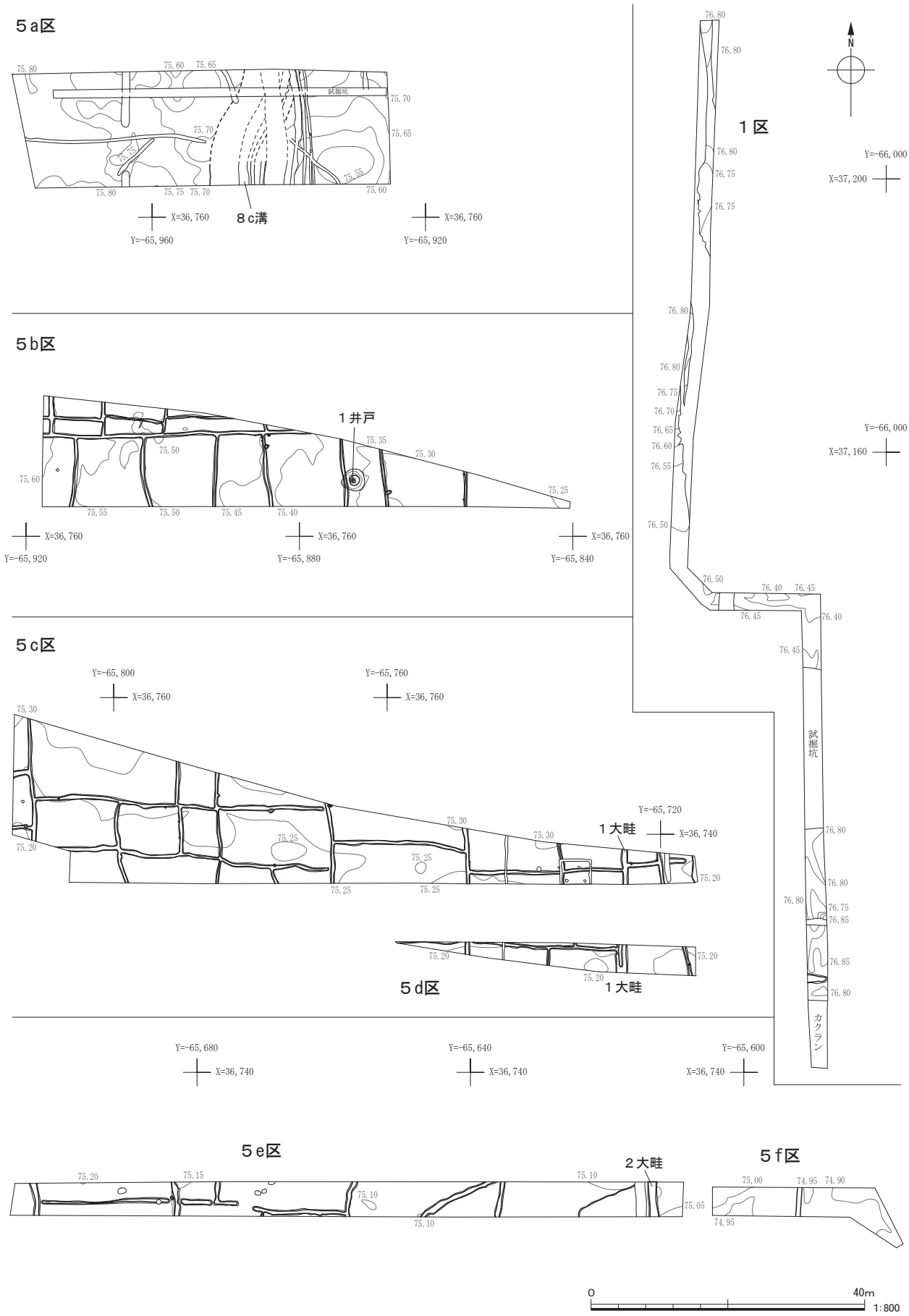
位置：５ｂ区東側１面に位置する。周堤の高まりが As-B 層下水田の区画 15 南北小畦畔と一体化するが、本井戸が新しいと推察される。**形態**：平面はほぼ円形を呈する。壁は西側が直線的に、東側が段を持って立ち上がる。掘り込みの周囲には、堤状に土が寄せられている。この土は水田土壌と同じ黒褐色粘質土で、As-B の混入は認められない。周堤と As-B 層下水田面との比高は最高７㎝である。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ。掘り込みの長径 1.48 m、短径 1.45 m。周堤範囲の長径 3.43 m、短径 3.18 m。As-B 層下水田面からの深さ 77 ㎝。**埋没状態**:上層には砂と黒褐色粘質土ブロックを含む灰色粘質土が堆積し、人為的に埋め戻された状況を示していた。最下層にはにぶい黄褐色砂質土が堆積している。周堤は As-B 一次堆積層で覆われていた。**遺物**:出土しなかった。**時期**:埋没状態・重複関係より、As-B 降下時には埋められていたと判断される。

5　平安時代末期の小穴（ピット）（遺構：第 13 図）

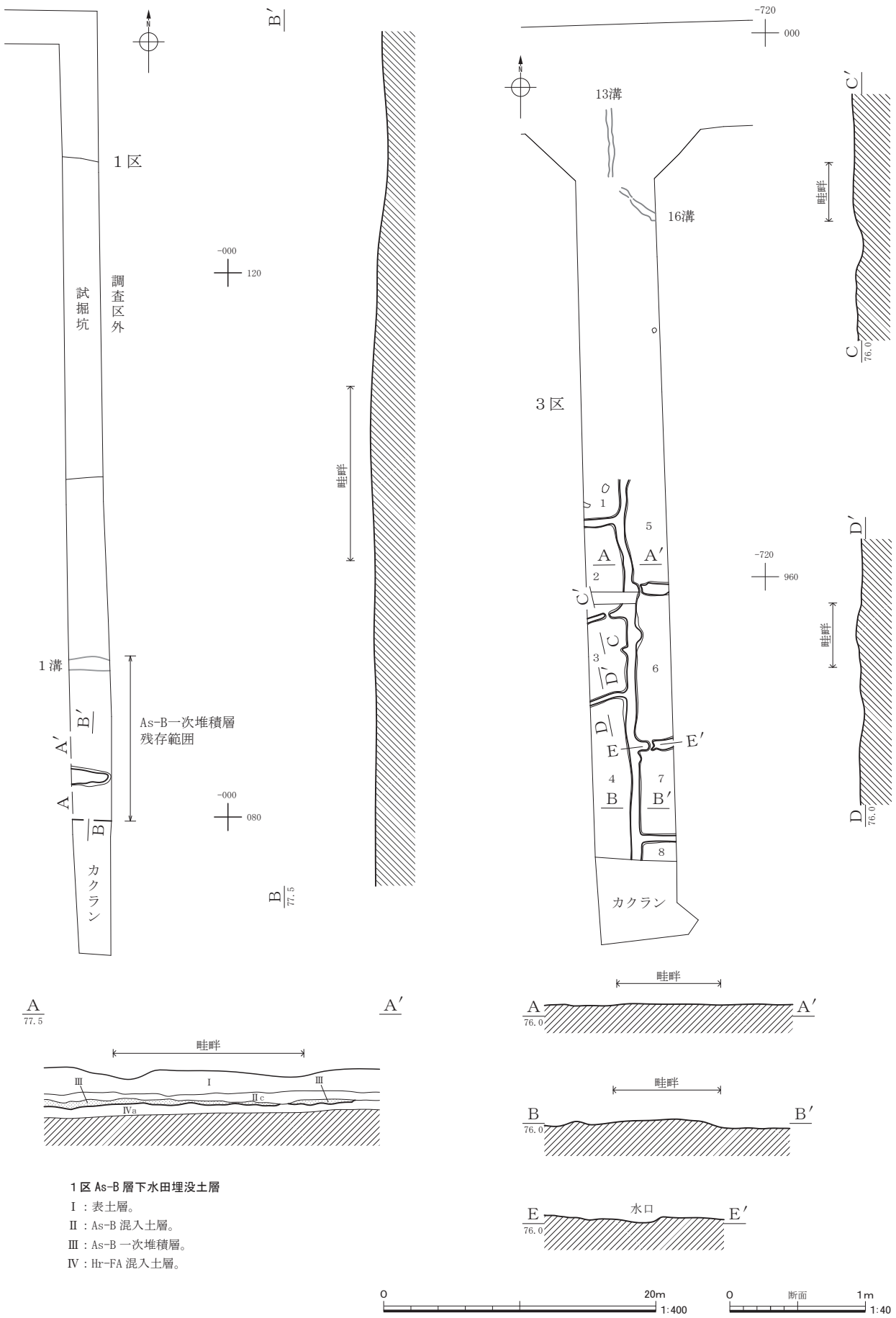
平安時代末期の小穴として、２ｂ区東側１面で１基が検出された。２・３区６号ピットが該当し、As-B 一次堆積層で埋没する。平面はほぼ円形を呈し、規模は長径 34 ㎝、短径 28 ㎝、底面までの深さは８㎝である。遺物は出土しなかった。



第 13 図　平安時代末期の全体図（１）



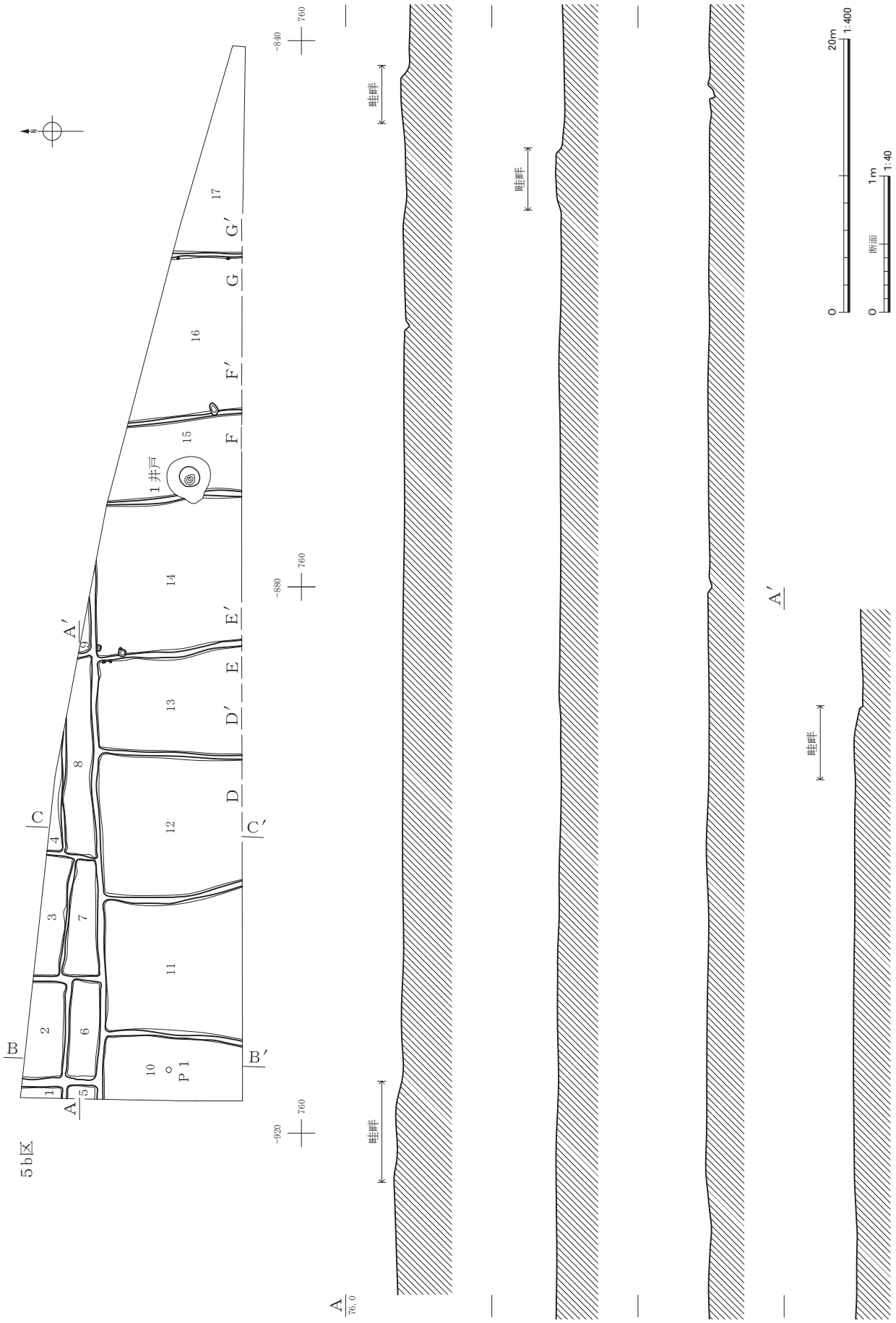
第 14 図　平安時代末期の全体図（２）



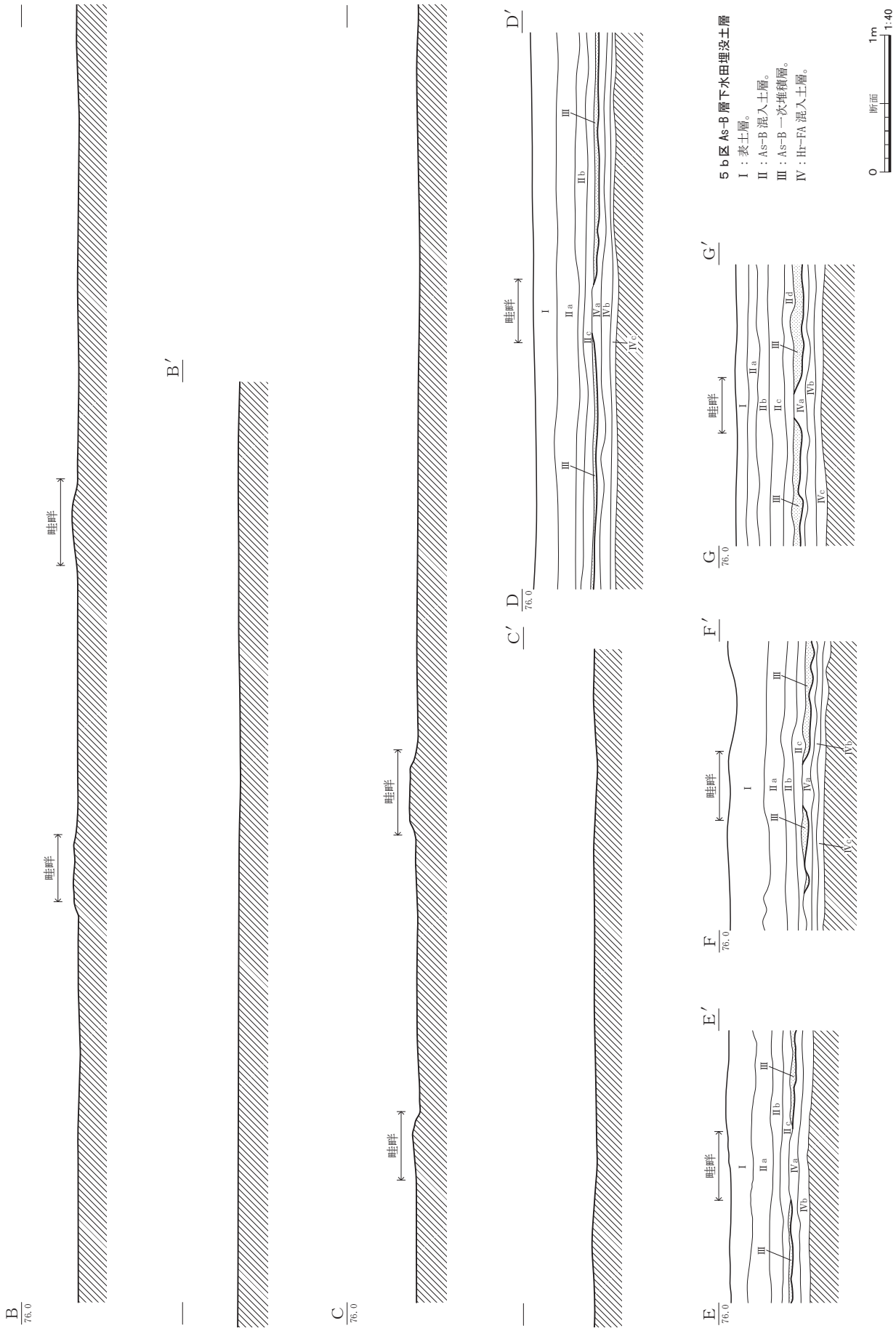
1区 As-B 層下水田埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

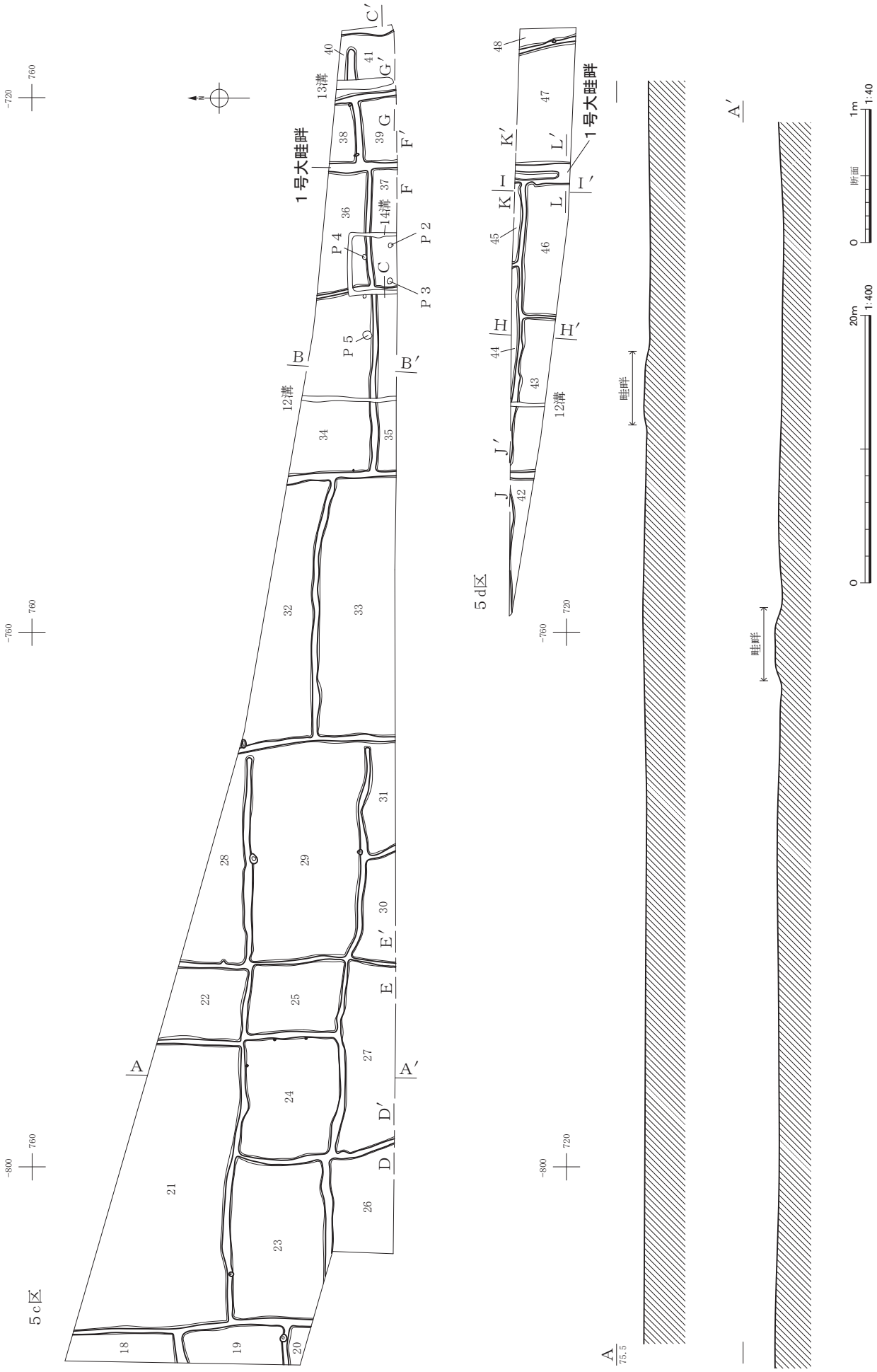
第 15 図　As-B 層下水田（1）



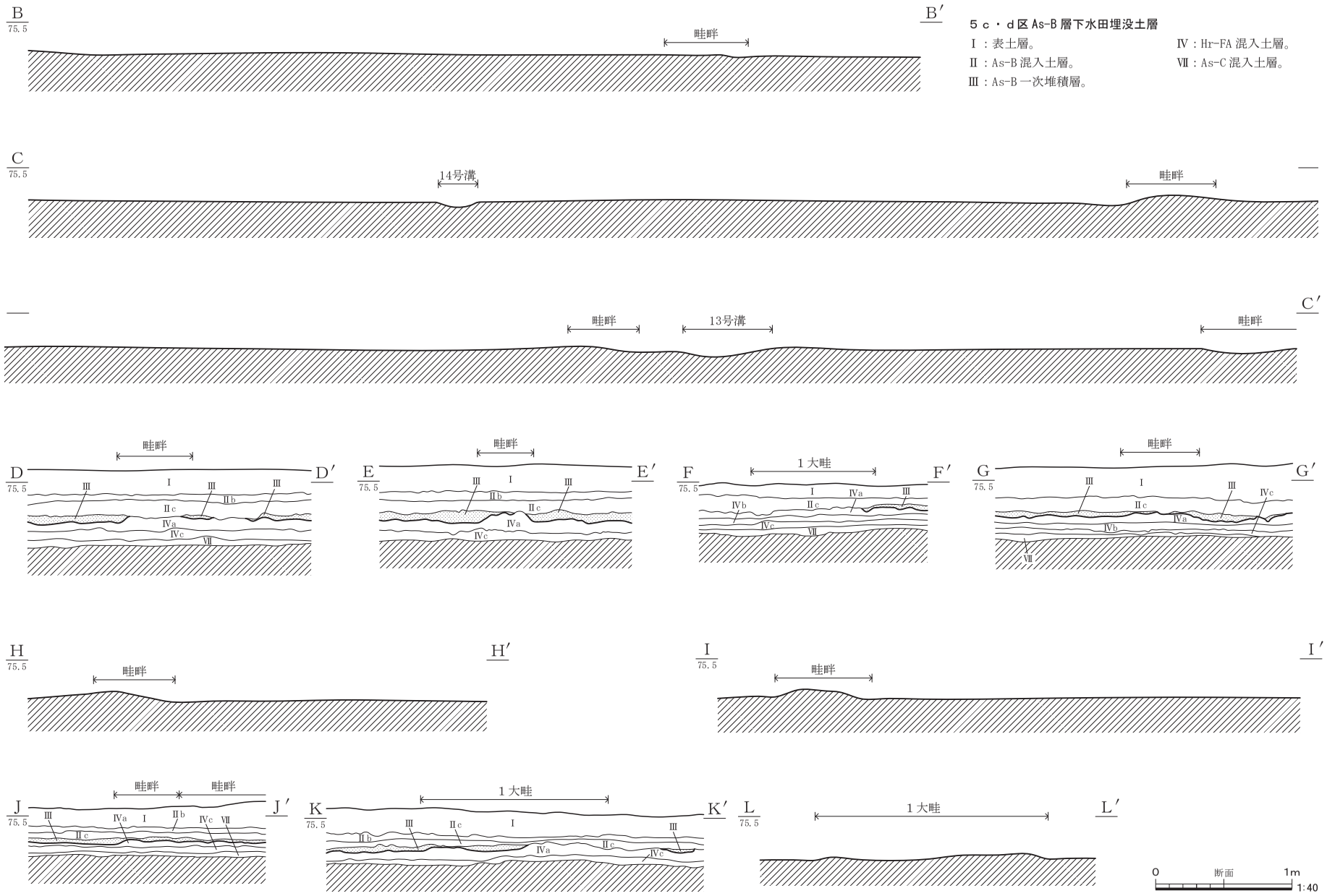
第16図　As-B層下水田（2）



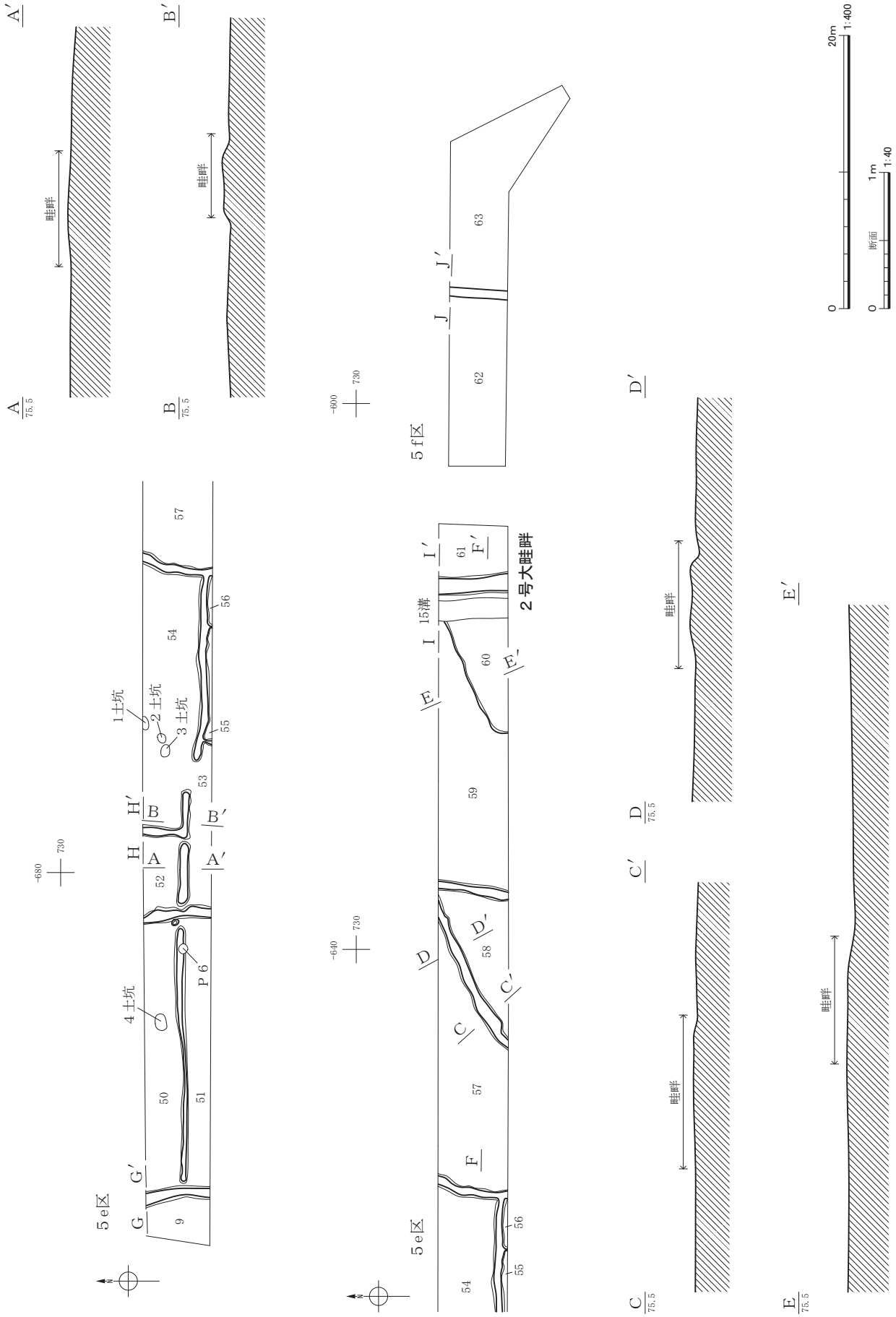
第17図　As-B層下水田（3）



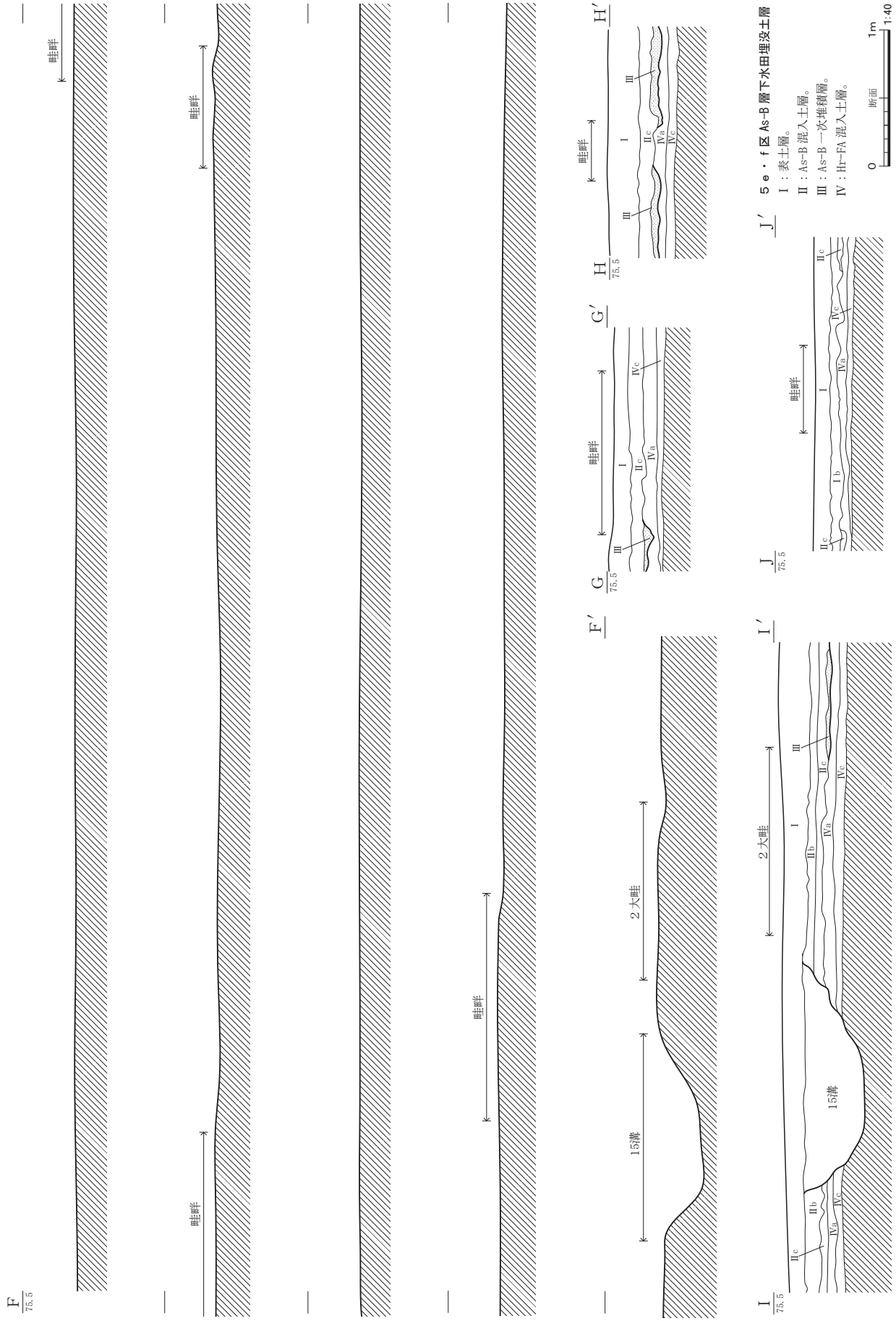
第18図　As-B層下水田（4）



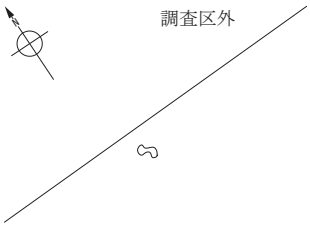
第19図　As-B 層下水田（5）



第20図　As-B層下水田（6）



第21図　As-B層下水田（7）

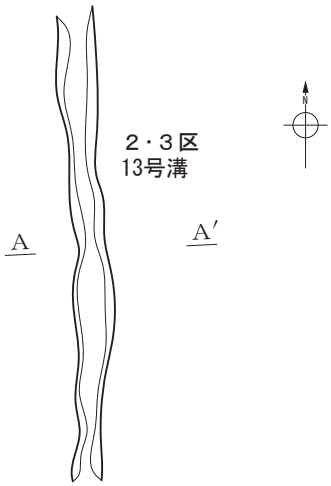


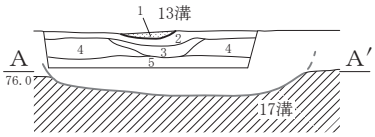
２・３区 13 号溝埋没土層

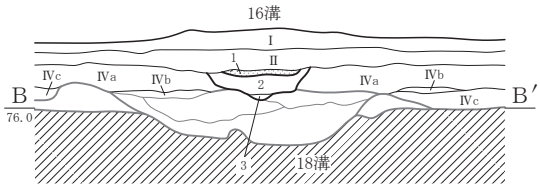
１：As-B 一次堆積層。
２：黒褐色粘質土層。鉄分を大量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
３：黒褐色粘質土層。鉄分を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
４：黒褐色粘質土層。色調は３層より明るい。鉄分を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
５：灰褐色砂質土層。鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がない。

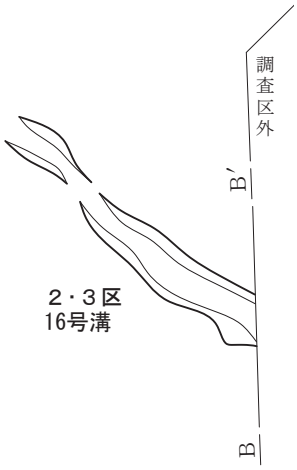
２・３区 16 号溝埋没土層

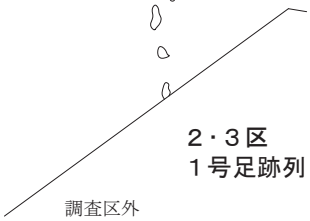
Ⅰ：表土層。　　Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
１：As-B 一次堆積層。
２：黒色粘質土層。白色粒を少量、赤色粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
３：黒色粘質土層。白色粒を大量、赤色粒を微量含む。しまりが強く、粘性がある。

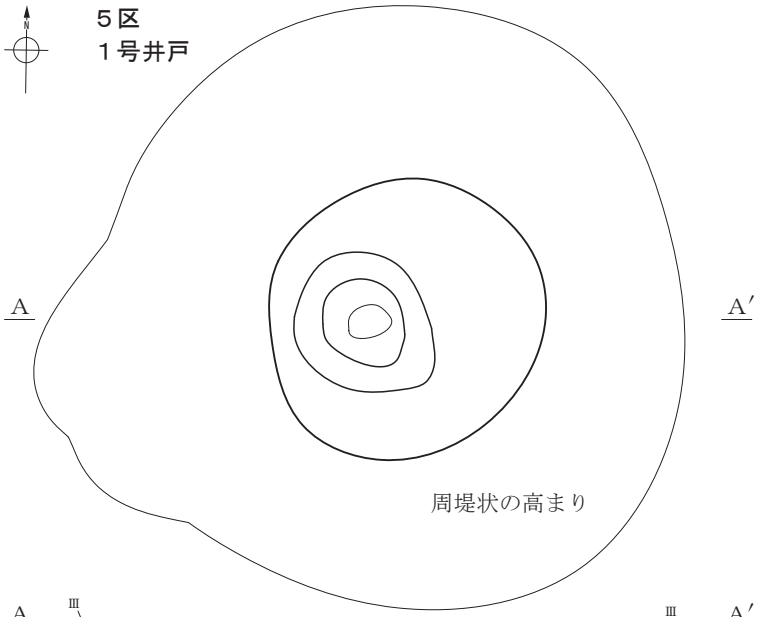






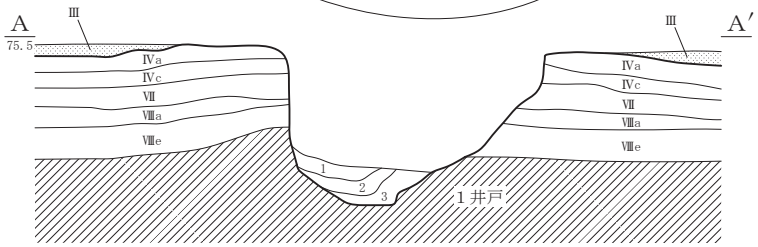






５区１号井戸埋没土層

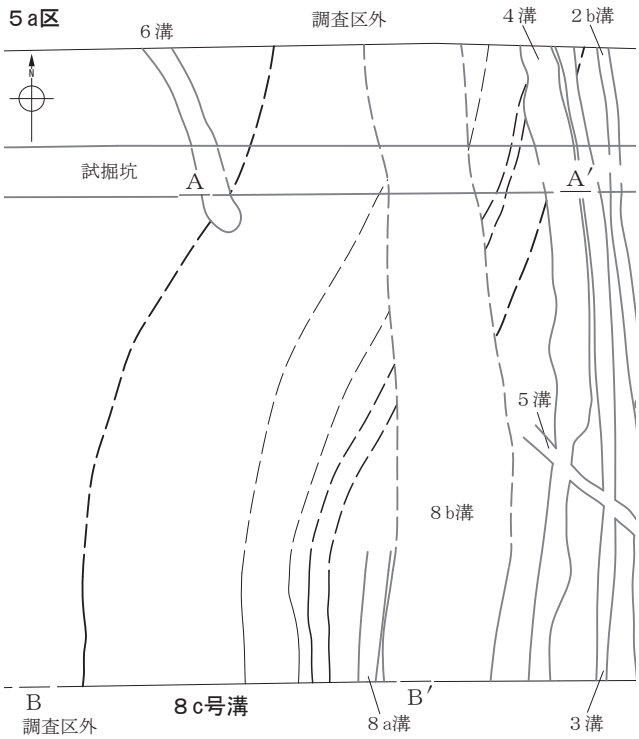
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
Ⅶ：黒色粘質土層。
Ⅷ：水性堆積層。
１：灰色粘質土層。砂・黒褐色粘質土ブロックを大量に含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
２：暗灰色粘質土層。しまりが強く、粘性がある。
３：にぶい黄褐色砂質土層。しまりがやや弱く、粘性がややある。

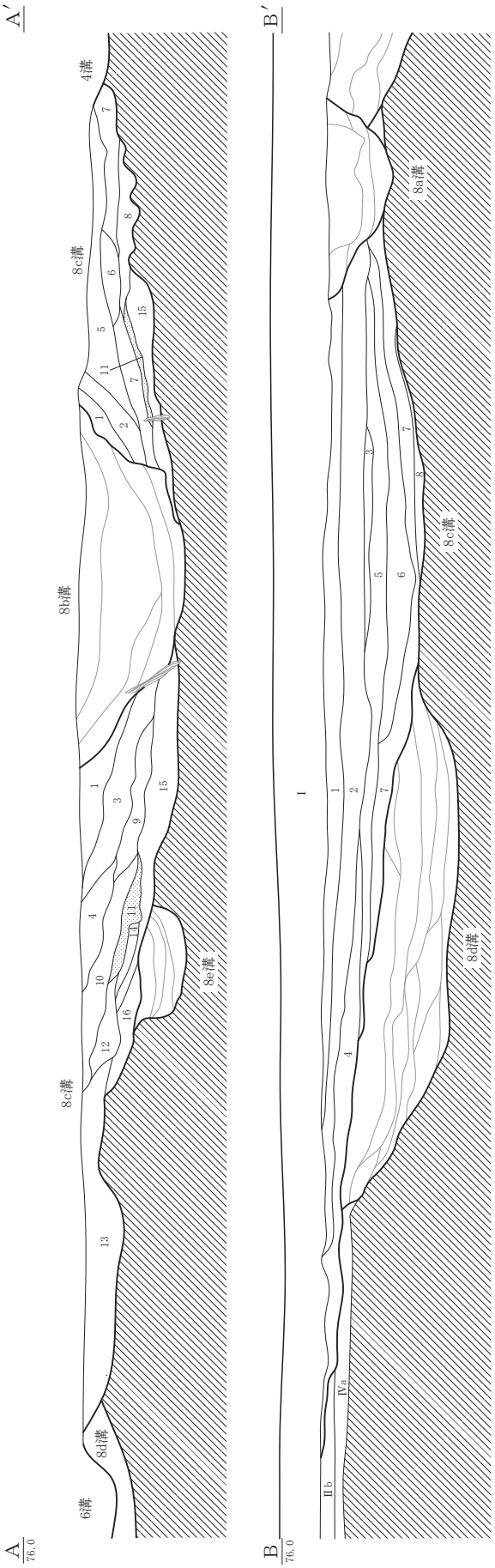


0　溝平面・足跡列　2m　1:80

0　溝断面・井戸　1m　1:40

第 22 図　平安時代末期の足跡列・溝（１）・井戸





5区8ｃ号溝埋没土層（Ａ－Ａ′）

1：灰黄褐色砂質土層。白色粒・粗砂・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
2：橙色砂質土層。白色粒を中量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
3：灰黄褐色砂質土層。層状の砂、φ 50 ～ 60 ㎜の小礫を少量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
4：灰黄褐色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
5：灰褐色砂質土層。しまりがやや強く、粘性がややある。
6：灰褐色砂層。しまりが弱く、粘性がない。
7：灰褐色砂質土層。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
8：灰色砂質土層。砂を層状に含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
9：灰黄褐色砂質土層。砂を層状に含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
10：灰褐色砂質土層。細砂を層状に含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
11：As-B 層一次堆積層。しまりが弱く、粘性がない。
12：褐灰色砂質土層。橙色粘質土ブロック・白色粒を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
13：褐灰色砂質土層。層状の砂、φ 100 ～ 150 ㎜の赤礫を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
14：灰褐色砂質土層。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
15：灰褐色砂質土層。砂を多量、φ 30 ～ 40 ㎜の小礫を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
16：褐灰色砂質土層。橙色粘質土粒を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。

5区8ｃ号溝埋没土層（Ｂ－Ｂ′）

Ⅰ：表土層。 Ⅱ：As-B 混入土層。 Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
1：褐灰色粘質土層。白色粒・橙色粒・砂・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
2：褐灰色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
3：褐灰色粘質土層。細砂を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
4：灰褐色粘質土層。鉄分を多量、白色粒・砂を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
5：褐灰色粘質土層。細砂を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
6：褐灰色砂層。褐灰色粘質土を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
7：灰黄褐色砂質土層。下層にφ 20 ～ 30 ㎜の小礫を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
8：灰色粗砂層。φ 20 ～ 30 ㎜小礫を少量含む。しまりが弱く、粘性がない。

0 断面 1m 1:40
0 10m 1:200

第 23 図　平安時代末期の溝（２）

Ⅶ 古墳時代から平安時代の遺構と遺物

１ Hr-FA 混入土層水田

耕作により Hr-FA（６世紀初頭降下）が混入する層と畦畔部分に相当する帯状の無耕作部分（いわゆる「疑似畦畔」により、水田区画を確認することができた。水田面はⅣ層中に想定されるが、判別は難しい。

２区 Hr-FA 混入土層水田（遺構：第 26 図、図版 10）

位置：２ａ区１面に位置する。２・３区８ａ号溝と重複し、本水田が古い。１号南北大畦畔は条里型地割の坪境に位置し、２・３区８ｂ号溝上に構築されている。**水田面の状態**：上位はⅡ層に削平され、当時の地表面を窺うことは難しい。**区画**：７区画が検出されたものの、全容を把握できる区画はない。東西長は、区画２で 13.50 ｍ、区画５で 12.80 ｍ、区画６で 10.25 ｍを測る。南北軸はＮ－ 11 ～ 14°－Ｗを示し、やや西に傾く。**畦畔**：１号南北大畦畔は幅 137 ～ 242cm を測る。他の畦畔は、南北畦畔が 73 ～ 258cm、東西畦畔が 25 ～ 112cm である。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。また、畦畔の位置から、As-B 層下水田（1108 年）地割との関係が窺われる。

２ Hr-FA 層下水田

Hr-FA（６世紀初頭降下）一次堆積層の浅黄色テフラを包含する小窪み群が検出され、Hr-FA 層（Ⅴ層）下で耕作された水田の痕跡に想定された。水田面は残存しない。明瞭な区画は認められなかったが、小窪み群の展開から、自然地形に沿った造成が窺われた。水田は２ａ区・５ｂ区の狭い範囲で確認されており、後世の削平を免れ得た当時の低位面に位置するものと推測される。灌漑用の水路には、水田と同様の主軸を有する５区 18 号溝や Hr-FA 一次堆積層で埋没する５区 19 号溝が想定され、水田内やその脇に配されている。

２区 Hr-FA 層下水田（遺構：第 27 図、図版 10）

位置：２ａ区西側２面に位置し、およそ２・３区１号溝より南東側に展開する。南側は調査区外にかかる。**水田面の状態**：Ⅳｂ層に削平され、水田面は残存しない。Hr-FA 層を包含する小窪みが散在する。**区画**：区画となる畦畔は認められなかった。小窪み群によって示される主軸方位はＮ－ 40°－Ｗであるが、隣接する下阿内壱町畑遺跡（群馬県埋文 2001）の成果を参照すると、北東－南西方向に展開するようである。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期（６世紀初頭）に比定される。

５区 Hr-FA 層下水田（遺構：第 27 ～ 28 図、図版 10 ）

位置：５ｂ区東側２面に位置し、５区 18 号溝より東側に展開する。南北側は調査区外にかかる。**水田面の状態**：Ⅳｄ層に削平され、水田面は残存しない。Hr-FA 層を包含する小窪みが群在し、その分布は５区 18・19 号溝間により集中する。**区画**：明瞭な区画は認められなかった。小窪み群が示す主軸方位はＮ－ 18°－Ｗで、５区 18 号溝に近似する。**畦畔**：５区 18 号溝の東脇に小窪み群が分布しない帯状の部分が認められ、耕作の及ばない畦畔を反映したものと推測された。この畦畔は水田域と水路を区画する機能が看取される。畦畔の幅は 35 ～ 83cm を呈する。**水路**：５区 19 号溝が同時に使用されていた水路に推定される。５区 18 号溝は、畦畔の走行に近似することから本水田との関連が予想されるものの、Hr-FA 降下時には埋没していたものと見受けられる。**遺物**：古墳時代後期の土師器坏片が２点認められた。**時期**：埋没状態・出土遺物より、古墳時代後期（６世紀初頭）に比定される。

３　畝状遺構

２・３区畝状遺構（遺構：第 29 図、図版 10）

位置：２ａ区中央２面に位置し、北側が調査区外にかかる。南側は残存状態が悪く、不明瞭である。２・３区８ｂ号溝の東側に配列する。**形態**:細長い土坑が 20 ～ 40cm 程の間隔で並列する。上位はⅣｂ層に削平されていた。**計測値**：小溝の主軸方位：Ｎ－ 77 ～ 79°－Ｅ、長さ：2.44 ～ 2.72 ｍ、幅：15 ～ 50cm、壁面で確認した深さ８cm。**埋没状態**:黒色粘質土ブロックや Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**:出土しなかった。**時期**:２・３区８ｂ号溝との位置関係より、平安時代に想定される。

４　古墳時代から平安時代の溝

２・３区１ａ号溝（遺構：第 30 図、図版 11 / 遺物：第 38 図、表５、図版 15）

位置:２ａ区西端２面に位置し、北･西側が調査区外にかかる。２･３区１ｃ号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**:北東－南西にやや屈曲して走行し､底面は南西側が低い。断面は薬研状で屈曲部などの壁が棚状を呈する。また、張り出し状を呈する部分も認められる。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 48 ～ 73°－Ｅ､残存長 15.18 ｍ､幅 1.14 ～ 2.26 ｍ、確認面からの深さ 18 ～ 40cm。**埋没状態**：主に、Hr-FA 軽石粒を含む黒色・暗灰色粘質土が堆積し、砂が互層状に認められる。**遺物**：多量の土師器、須恵器・縄文土器片が出土した。古墳時代前期の小片資料でほとんど占められるものの、破損の少ない古墳時代後期の模倣坏が中層で検出された（第 38 図 11)。また、少量の大型礫が下層や張り出し部分の上層で散見された。それらは円・角礫の安山岩で、折損やタールの付着が認められる。**時期**：走向・埋没状態・出土遺物より、古墳時代後期（６世紀後半～７世紀初頭）に比定される。

２・３区１ｂ号溝（遺構：第 30 図、図版 11）

位置：２ａ区西端２面に位置し、北・西側が調査区外にかかる。２・３区１ａ号溝に近接して並走する。**形態**：北東－南西にほぼ直行し、底面は南西側が若干低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 56°－Ｅ、残存長 5.63 ｍ、幅 0.18 ～ 0.35 ｍ、確認面からの深さ２～６cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む暗灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、古墳時代後期に比定される。

２・３区１ｃ号溝（遺構：第 30 図、図版 11）

位置：２ａ区西端２面に位置する。北西側で２・３区１ａ号溝と直交し、本溝が古い。**形態**：残存状態が良くない。北西－南東に走行し、断面は非常に浅い逆台形状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 40°－Ｗ、残存長 1.51 ｍ、幅 0.46 ｍ、確認面からの深さ 11cm。**埋没状態**：Hr-FA 浅黄色テフラを含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期（６世紀前半）に比定される。

２・３区２ａ号溝（遺構：第 31 図、図版 11）

位置：２ａ区西側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。２・３区１ａ号溝に並走する。北東側で２・３区１ａ・２ｂ・５号溝、南東側で２・３区３号溝と重複し、本溝が２・３区１ａ・２ｂ号溝より新しい。**形態**：北東－南西にほぼ直行し、底面は南西側が若干低い。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 46 ～ 61°－Ｅ、残存長 11.76 ｍ、幅 0.19 ～ 0.33 ｍ、壁面で確認した深さ 16cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒や多くの褐灰色砂・黒色粘質土ブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、古墳時代後期に比定される。

２・３区２ｂ号溝（遺構：第 31 図、図版 11 / 遺物：第 38 図、表５、図版 15）

位置：２ａ区西側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。北東側で２・３区１ａ・２ａ・５号溝、南西側で２・３区３・４号溝と重複し、いずれよりも本溝が古い。**形態**：北東－南西にほぼ直行し、底面は南西側が低い。断面は薬研状を呈し、北東側は上位の幅が不整に広がる。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 47°－Ｅ、残存長 12.63 ｍ、幅 0.61 ～ 1.94 ｍ、壁面で確認した深さ 20㎝。**埋没状態**：主に、As-C 粒を含む黒褐色粘質土・暗灰色砂質土などが堆積し、北東側の上層に黒色粘質土・黄灰色粘質土・灰色砂質土・Hr-FA 浅黄色テフラが混入する。**遺物**：多量の土師器片が出土した。古墳時代前期の資料でほとんど占められるが、古墳時代後期のものも散見される。また、土製の管玉が特記されよう。**時期**：埋没状態・遺物の出土傾向より、古墳時代前期に比定される。ただし、北東部の不整な部分は古墳時代後期（６世紀前半）に形成された可能性がある。

２・３区３号溝（遺構：第 32 図、図版 11 ～ 12 / 遺物：第 38 図、表５、図版 15）

位置：２ａ区南側２面に位置し、南東側が調査区外にかかる。２・３区４号溝に並走し、As-B 層下水田で見出された条里型地割における東西方向の坪境に当たる。西側で２・３区２ａ・２ｂ・５号溝、中央で２・３区８ｂ号溝、東側で４号溝と重複し、本溝が２・３区２ａ・２ｂ・５・８ｂ号溝より新しく、２・３区４号溝より古い。ただし、２・３区８ｂ号溝の下層は同時に使用されていた可能性がある。**形態**：東西にやや蛇行しながら走行し、底面は東側が若干低い。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 90°－Ｅ、残存長 45.88 ｍ、幅 0.45 ～ 0.75 ｍ、確認面からの深さ３～ 20㎝。**埋没状態**：主に、Hr-FA 軽石粒を含む暗灰褐色粘質土や灰色砂質土などが堆積し、多量の黒色粘質土が部分的に認められる。**遺物**：少量の土師器・須恵器片が出土した。古墳時代の小片資料が多いものの、比較的残存率の良好な平安時代の須恵器坏（第 38 図 16）も下層で認められた。**時期**：走向・埋没状態・出土遺物より、平安時代（９世紀中葉以降）に比定される。

２・３区４号溝（遺構：第 32 図、図版 11 ～ 12）

位置：２ａ区南側２面に位置し、南側が調査区外にかかる。２・３区３号溝と並走し、As-B 層下水田で見出された条里型地割における東西方向の坪境に当たる。西側で２・３区２ｂ・５号溝、中央で２・３区８ｂ号溝、東側で３号溝と重複し、いずれよりも本溝が新しい。ただし、２・３区８ｂ号溝は同時に使用されていた可能性がある。**形態**：東西にほぼ直行し、底面は東側が低い。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 89°－Ｅ、残存長 35.20 ｍ、確認面からの深さ６～ 25㎝。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土、暗灰色・灰色砂質土などが堆積する。部分的に灰白色シルトや黒色粘質土が層状に認められる。**遺物**：少量の土師器片が出土した。古墳時代の資料が多い。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区５号溝（遺構：第 31 図、図版 12）

位置：２ａ区西側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。北側で２・３区２ａ・２ｂ号溝、南側で２・３区３・４号溝と重複し、本溝が２・３区２ｂ号溝より新しく、２・３区３・４号溝より古い。**形態**：南北にほぼ直行し、底面は南側が低い。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－９°－Ｗ、残存長 8.10 ｍ、幅 0.23 ～ 0.31 ｍ、確認面からの深さ７～ 11㎝。**埋没状態**：黒色粘質土・Hr-FA 浅黄色テフラを含む灰色粘質土などが堆積し、部分的に砂が認められる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期（６世紀前半）に比定される。

２・３区６号溝（遺構：第 33 図、図版 12）

位置：２ａ区中央２面に位置し、北側が調査区外にかかる。**形態**：残存状態が良くない。南北に走行し、南側が浅くなって途切れる。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 15°－Ｗ、残存長 1.16 ｍ、幅 0.61 ｍ、

壁面で確認した深さ 13cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：少量の土師器片が出土した。古墳時代の資料が多い。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

２・３区７号溝（遺構：第 33 図、図版 12）

位置：２ａ区中央２面に位置し、北側が調査区外にかかる。**形態**：残存状態が良好でない。南北に蛇行しながら走行し、南側が浅くなって途切れる。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－７°－Ｅ、残存長 3.68 ｍ、幅 0.26 ～ 0.59 ｍ、壁面で確認した深さ９㎝。**埋没状態**：主に、灰色粘質土、Hr-FA 浅黄色テフラを含む灰色砂質土などが堆積する。**遺物**：少量の土師器片が出土した。古墳時代前期の資料が多い。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期（６世紀前半）に比定される。

２・３区８ｂ号溝（遺構：第 33 図、図版 12）

位置：２ａ区中央２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。南側で２・３区３・４号溝と重複し、同時に使用されていた可能性がある。また、２区 Hr-FA 混入土層水田の１号南北大畦畔が直上に構築されていた。**形態**：南北に直行する。底面は南側が低く、凹凸が著しい。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－５°－Ｅ、残存長 8.22 ｍ、幅 1.20 ～ 2.00 ｍ、壁面で確認した深さ 28㎝。**埋没状態**:主に、暗灰色粘質土･灰色砂が堆積し、下層には黒色粘質土層が認められる。本溝の埋没後、その両脇が Hr-FA 混入土層水田の耕作土（Ⅳａ・ｂ層）によって撹拌されていた。**遺物**：古墳時代前～後期の土師器片が少量出土した。**時期**:走向･埋没状態より、開削は平安時代に比定される。また、Ⅳａ・ｂ層を耕作土とする Hr-FA 混入土層水田の構築前に埋没している。

２・３区 17 号溝（遺構：第 34 図、図版 12 ～ 13）

位置：２ｂ区東側・３区北側２面に位置し、北側が調査区外にかかる。As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。ほぼ同じ走行で As-B 一次堆積層を包含する２・３区 13 号溝（第 22 図）と重複し、本溝が古い。南側では２・３区 18 号溝と接しており、同時に使用されていた可能性が見受けられる。**形態**：南北にほぼ直行する。北側の残存状態が悪く、一部浅くなって途切れていた。分岐が予想される張り出し部分が中央および南側に認められる。底面は南側が低く、断面は不整形である。周囲に Hr-FA 軽石粒を含む小窪み群が集中する。**計測値**：主軸方位Ｎ－４°－Ｗ、残存長 12.23 ｍ、幅 0.33 ～ 1.44 ｍ、確認面からの深さ５～ 18㎝。**埋没状態**:Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**:出土しなかった。**時期**:走向･埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区 18 号溝（遺構：第 34 図、図版 12 ～ 13）

位置：３区北側２面に位置し、東西側が調査区外にかかる。As-B 層下水田で見出された条里型地割における坪境の交点に当たる。２・３区 16（第 22 図）・17・19 号溝と重複し、本溝が As-B 一次堆積層を包含する２・３区 16 号溝より古い。２・３区 17・19 号溝は同時に使用されていた可能性が見受けられる。また、西側に２・３区３・４号溝がつながると予想される。**形態**：東西に走行するが、西半部が溜井状に著しく広がる。東側の壁は不整な棚状を呈する。底面は西側が低く、断面は不整形である。周囲に Hr-FA 軽石粒を含む小窪み群が集中する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 83°－Ｅ、残存長 6.28 ｍ、幅 1.18 ～ 5.70 ｍ、壁面で確認した深さ 30 ～ 32㎝。**埋没状態**:上層に Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土、下層に砂が堆積する。**遺物**:古墳時代後期の土師器坏片が１点出土した。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区 19 号溝（遺構：第 34 ～ 35 図、図版 12 ～ 13）

位置：３区北東側２面に位置し、南側が調査区外にかかる。As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。２・３区 18・20・22 号溝と重複し、本溝が２・３区 22 号溝より新しい。２・３区 18 号溝とは同時に使用されていた可能性が見受けられる。**形態**：ほぼ南北に蛇行しながら走行し、底面は南側が低い。断面は弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－６°－W、残存長 31.70 m、幅 0.50 ～ 1.55 m、確認面からの深さ９～ 14cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土・砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区 20 号溝（遺構：第 34 ～ 35 図、図版 12 ～ 13）

位置:３区やや北側２面に位置し、As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。２・３区 19 号溝と重複する。**形態**：南北に走行し、底面は南側が低い。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－２°－Ｅ、残存長 10.50 m、幅 0.10 ～ 0.27 m、確認面からの深さ２cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区 21 号溝（遺構：第 34 ～ 35 図、図版 12 ～ 13）

位置：３区２面に位置し、As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。２・３区 22 号溝と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北に直行し、南側で不整楕円状に広がる部分が認められる。底面は南側が低くなり、不整楕円状部分で途切れる。また、径 20 ～ 30cm・深さ 20cm 程の小穴が連続する。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－W、残存長 45.40 m、幅 0.25 ～ 1.85 m、深さ２～ 10cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態より、平安時代に比定される。

２・３区 22 号溝（遺構：第 34 ～ 35 図、図版 12 ～ 13）

位置：３区中央２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。２・３区 19・21 号溝と重複し、本溝が古い。なお、本溝の南側に As-C 混入土層（Ⅵ層）が残存していた。**形態**：北西－南東に直行し、底面は南東側が低い。断面は弧状・逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 26°－W、残存長 12.17 m、幅 0.22 ～ 0.56 m、確認面からの深さ４～８cm。**埋没状態**：As-C 軽石粒を含む黒色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・遺物の出土傾向より、古墳時代前期に比定される。

２・３区 23 号溝（遺構：第 35 図、図版 13）

位置：２ｂ区東側２面に位置し、北側が調査区外にかかる。**形態**：北東－南西に直行し、底面は南西側が若干低い。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 77°－Ｅ、残存長 7.96 m、幅 0.16 ～ 0.34 m、確認面からの深さ４cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

２・３区 26 号溝（遺構：第 35 図、図版 14）

位置：２ｂ区東側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。**形態**：残存状態が悪く、一部途切れる。北東－南西に走行し、断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 62°－Ｅ、残存長 7.45 m、幅 0.12 ～ 0.22 m、壁面で確認した深さ６cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

２・３区 27 号溝（遺構：第 35 図、図版 14）

位置：２ｂ区東側２面に位置する。**形態**：残存状態が良好でない。北東－南西に直行し、両端が浅くなって途切れる。断面は浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 66°－Ｅ、残存長 1.50 ｍ、幅 0.07 ～ 0.17 ｍ、確認面からの深さ２㎝。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

５区８ｄ号溝（遺構：第 36 図、図版３）

位置：５ａ区中央２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。平安時代末期から中近世の５区６・８ｃ号溝下で確認されており、本溝が古い。**形態**：残存状態は良好でない。南北に直行し、底面は南側が若干低い。断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－２°－Ｗ、残存長 16.90 ｍ、幅 3.10 ～ 4.40 ｍ、壁面で確認した深さ 56 ～ 58㎝。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む褐灰色・灰色粘質土、灰色砂質土などが堆積し、底面に砂礫層が認められる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態・重複関係より、平安時代に比定される。

５区８ｅ号溝（遺構：第 36 図、図版３）

位置：５ａ区中央２面に位置する。As-B 層下水田で見出された条里型地割における南北方向の坪境に当たる。平安時代末期の５区８ｃ号溝下で確認されており、本溝が古い。**形態**：残存状態が良好でない。南北に直行し、断面は長方形状を呈する。部分的な検出のため高低差は不明である。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長 1.22 ｍ、幅 0.80 ｍ、壁面で確認した深さ 30㎝。**埋没状態**：褐灰色・暗灰色砂が堆積し、上層に粗砂が多い。**遺物**：出土しなかった。**時期**：走向・埋没状態・重複関係より、平安時代に比定される。

５区 16 号溝（遺構：第 37 図、図版 14）

位置：５ｂ区西側２面に位置する。**形態**：南北に直行し、断面は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長 1.86 ｍ、幅 0.17 ～ 0.25 ｍ、確認面からの深さ６㎝。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

５区 17 号溝（遺構：第 37 図、図版 14）

位置：５ｃ区中央２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。**形態**：北東－南西に直行する。底面は数条に分かれ、凹凸が著しい。南西側が低くなる。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 62°－Ｅ、残存長 10.42 ｍ、幅 2.40 ～ 2.56 ｍ、壁面で確認した深さ 16㎝。**埋没状態**：主に、Hr-FA 軽石粒を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：古墳時代後期の土師器片が数点出土した。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

５区 18 号溝（遺構：第 37 図、図版 14）

位置：５ｂ区東側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。本溝の東側に５区 Hr-FA 層下水田が展開していた。**形態**：北西－南東に直行し、底面は南東側が低い。断面は逆台形状で西壁が棚状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－ 20°－Ｗ、残存長 3.76 ｍ、幅 1.19 ～ 2.02 ｍ、壁面で確認した深さ 24㎝。**埋没状態**：As-C 軽石粒を含む粘質土・砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態・配置より、古墳時代後期初頭に比定される。

５区 19 号溝（遺構：第 37 図、図版 14）

位置：５ｂ区東側２面に位置し、南北側が調査区外にかかる。本溝の周囲に５区 Hr-FA 層下水田が展開していた。

形態:北西－南東に直行する。底面は南東側が低く、小窪みが多く認められる。断面は浅い弧状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－ 40°－W、残存長 4.65 m、幅 0.54 ～ 0.72 m、壁面で確認した深さ 10cm。**埋没状態**：Hr-FA 一次堆積層を包含し、５区 Hr-FA 層下水田に連続する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期（６世紀初頭）に比定される。

５区 20 号溝（遺構：第 37 図、図版 14）

位置：５ｅ区東側２面に位置する。南側が調査区外にかかる。**形態**：残存状態が良好でない。南北に直行し、北側が浅くなって途切れる。断面は弧状を呈する。**計測値**:主軸方位Ｎ－６°－W、残存長 2.90 m、幅 0.27 ～ 0.59 m、確認面からの深さ 12cm。**埋没状態**：Hr-FA 軽石粒を含む黒褐色・褐灰色粘質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期～平安時代に比定される。

５　古墳時代から平安時代の小穴（ピット）（遺構：第 24 ～ 25 図、表４）

古墳時代から平安時代の小穴として２ａ区で２基、５ａ区で１基、５ｂ区で２基が確認された。当該期の溝と同様の Hr-FA 軽石粒が混入する灰色粘質土などが埋没する。規模は平面径 21 ～ 49cm・深さ 13 ～ 18cm を呈する。それぞれ規則的な配置や出土遺物は認められなかった。

表４　古墳時代から平安時代の小穴計測表

単位：cm

遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ	遺構名	長径・短径・深さ
２・３区Ｐ 11	21・17・13	２・３区Ｐ 12	46・36・14	５区Ｐ７	40・28・15	５区Ｐ８	35・33・13
５区Ｐ９	49・47・18						

６　古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物（遺物：第 38 図、表５、図版 15）

本節では、表採、表土層・撹乱内、As-B 層より下位の包含層から出土したもの、二次的に混入した遺構内出土遺物などを対象とする。土師器・須恵器が出土し、土師器の小片がほとんどを占める。

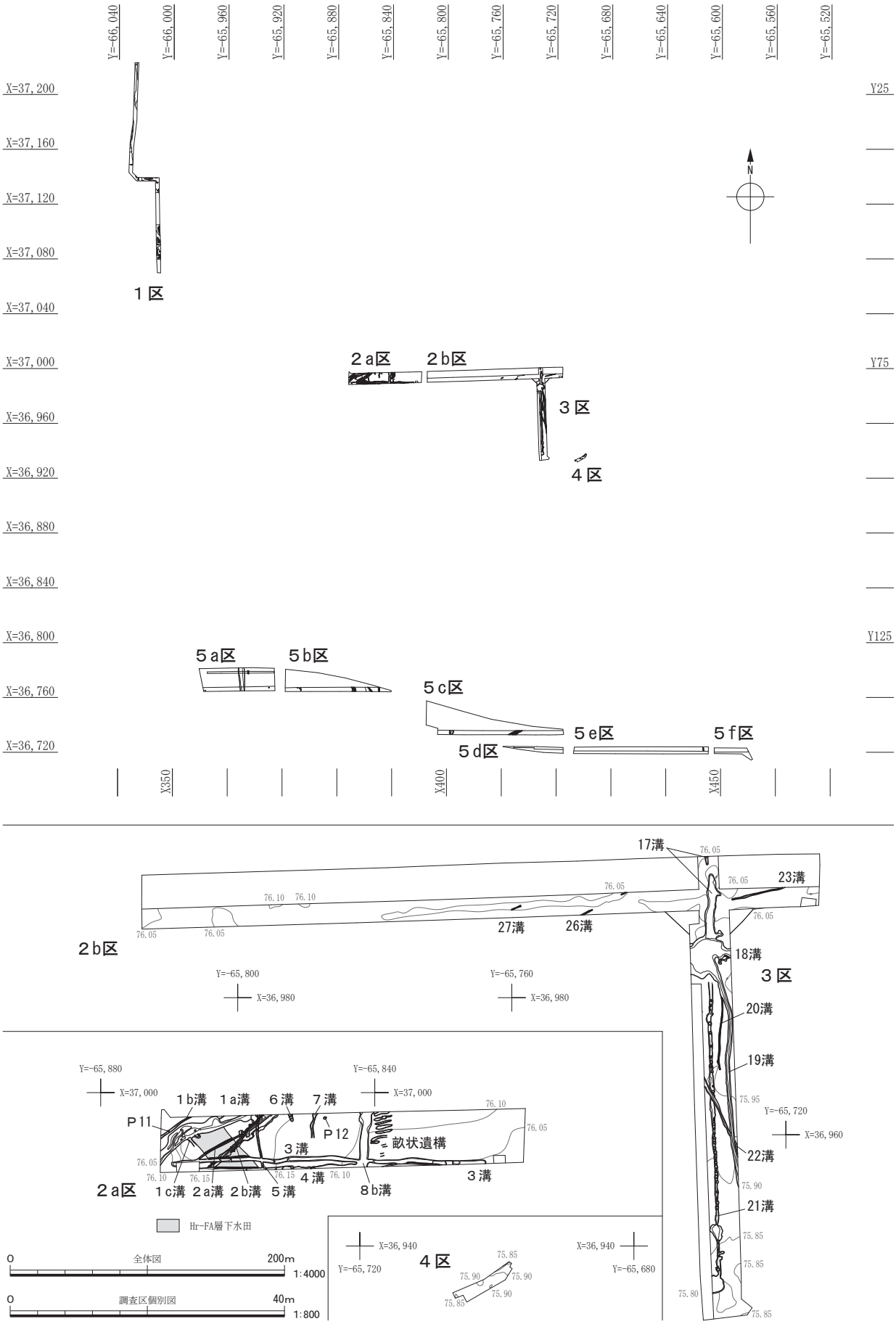
土師器・須恵器は調査区全体で検出されたが、２ａ区に偏在する。古墳時代前期～平安時代の資料が認められ、古墳時代前期のものが多い。Hr-FA 混入土層（Ⅳ層）では比較的残りの良い７世紀前半の土師器坏（第 38 図 18）や９世紀初頭の須恵器坏（第38図19）が認められ、Hr-FA混入土層形成に係わる水田の運営時期などが示唆される。この出土傾向は、隣接する西田遺跡南側や下阿内壱町畑遺跡北西側と同様の傾向が窺われる。

Ⅷ　縄文時代の遺物（遺物：第 38 図、表５、図版 15）

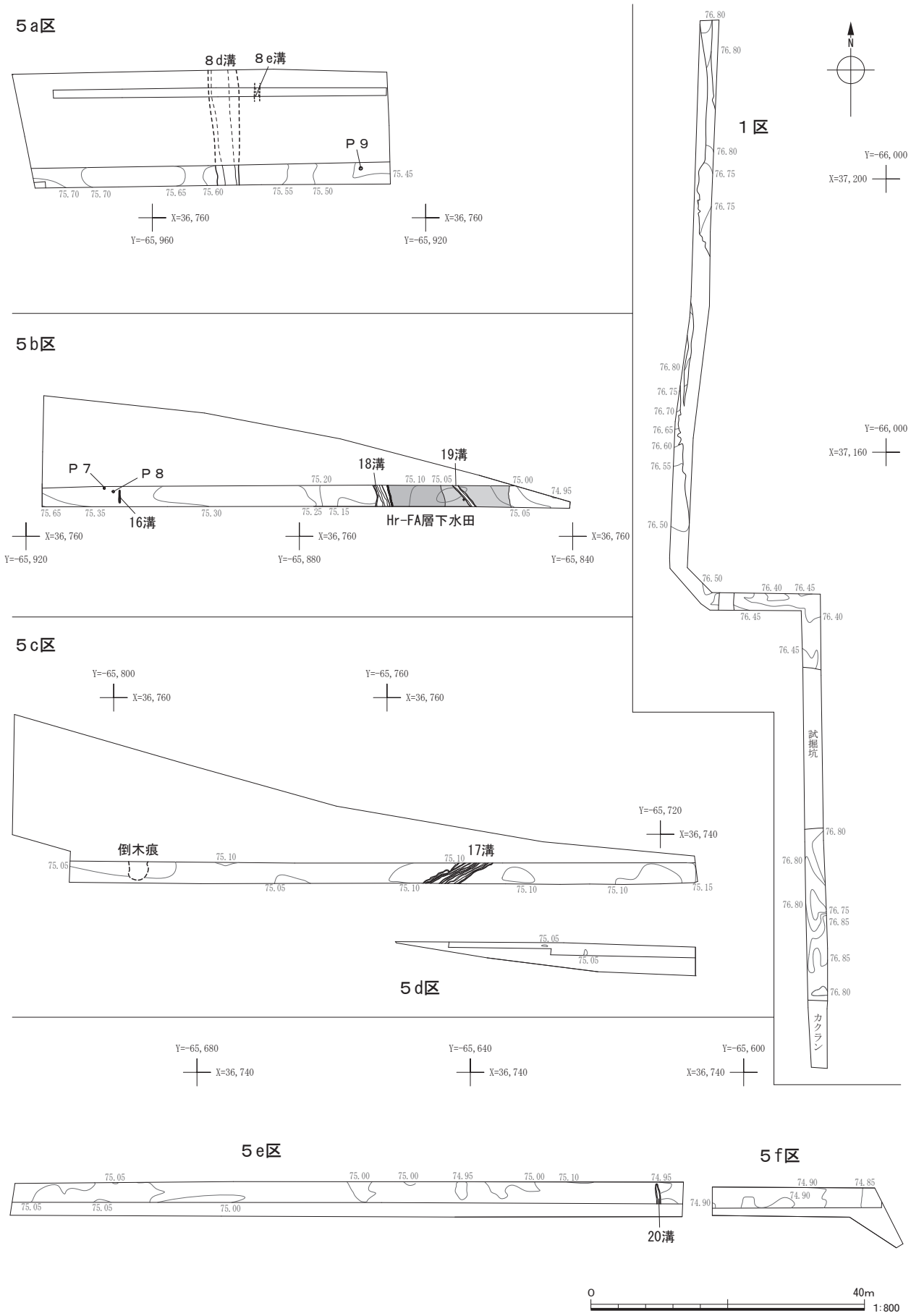
縄文時代の遺物として縄文土器や石器が少量検出された。当該期の遺構は認められず、遺物は古墳時代～平安時代の遺構や Hr-FA 混入土層（Ⅳ層）から出土した。２ａ区の２・３区１ａ・２ｂ号溝内に偏在する。

縄文土器はいずれも小片である。型式の判明するものは後期前葉堀之内２式（第 38 図 20・21）に比定された。２ａ区に偏る分布は西田遺跡南側・下阿内壱町畑遺跡北西側の微高地における活動を反映したものと推測される。下阿内壱町畑遺跡の１号円形建物跡は、当該期の住居跡である可能性も視野に入れる必要があろう。

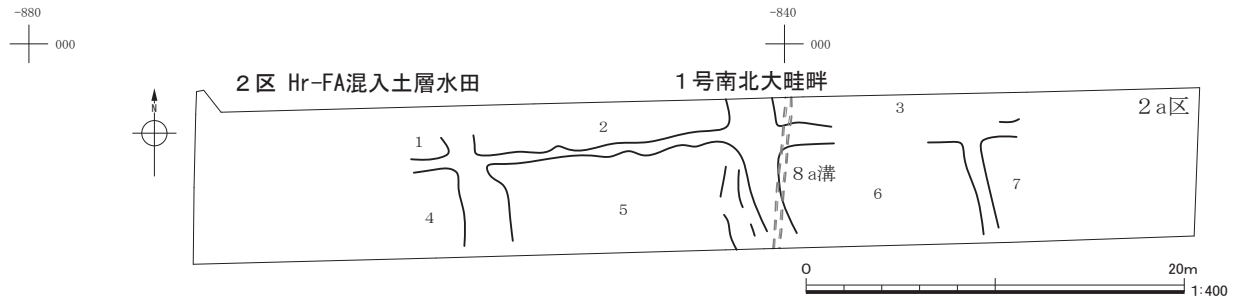
石器は石鏃（第 38 図 22・23）と敲石が認められた。石鏃はいずれも黒曜石製である。第 38 図 22 は２ａ区の２・３区４号溝で検出されており、縄文土器の出土傾向に沿うものと推測される。敲石は安山岩製で、折損していた。



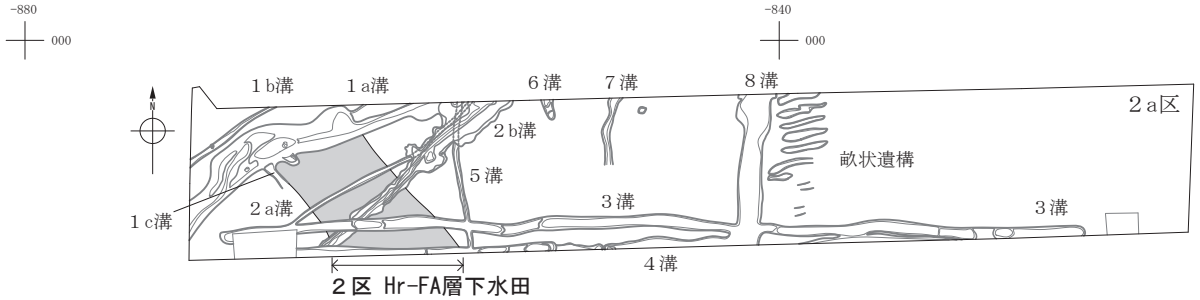
第 24 図　古墳時代から平安時代の全体図（１）

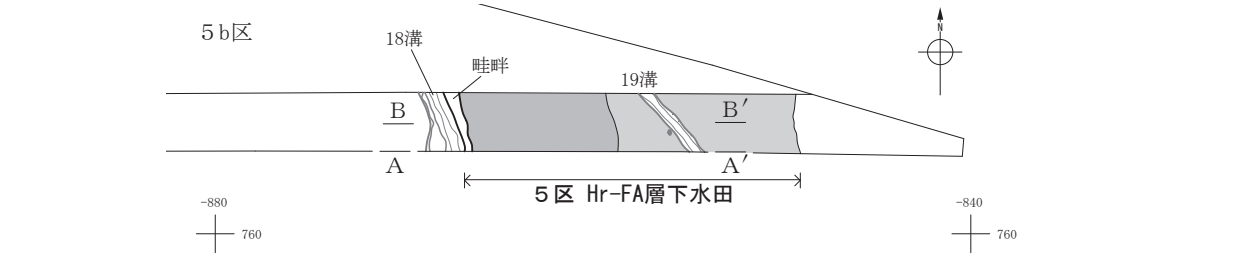


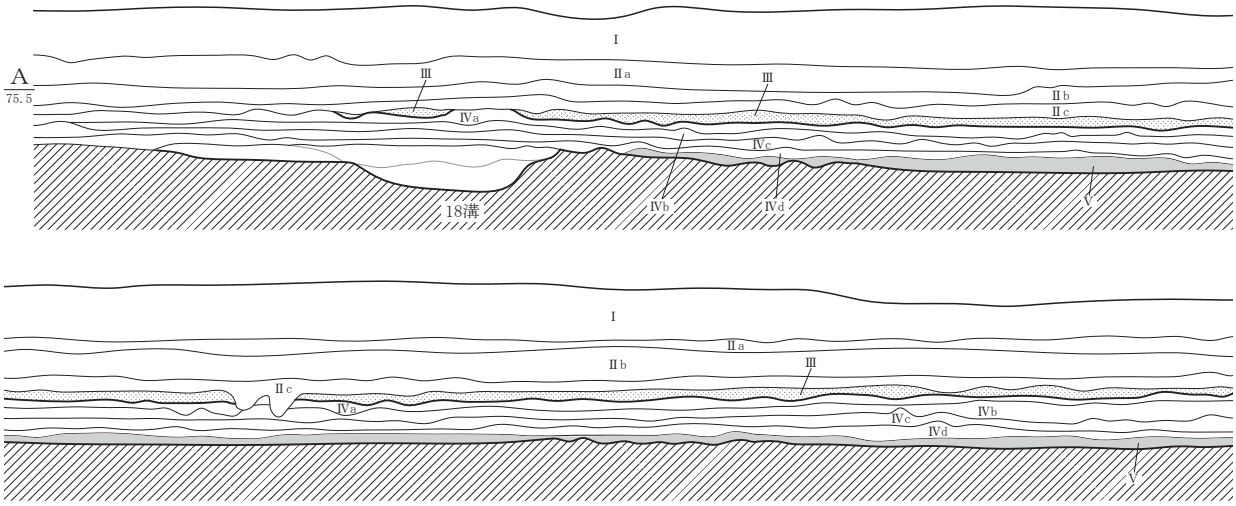
第 25 図　古墳時代から平安時代の全体図（２）

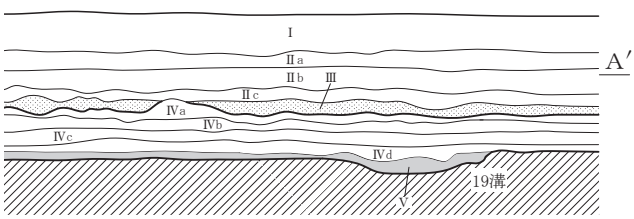


第 26 図　Hr-FA 混入土層水田









５区 Hr-FA 層下水田埋没土層

Ⅰ：表土層。　　Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

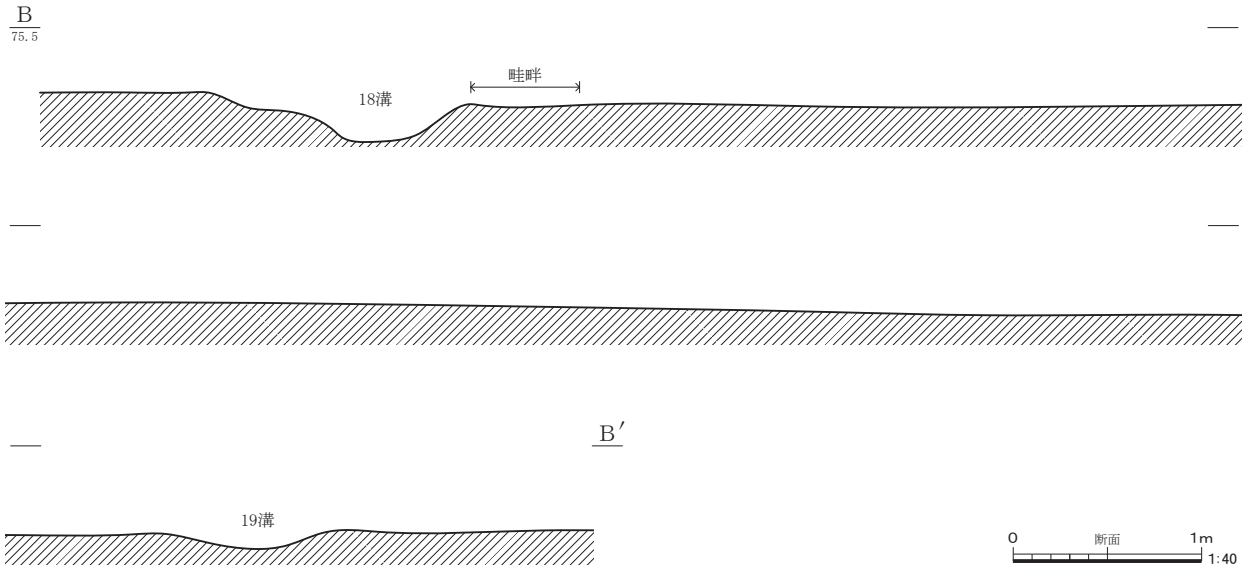
Ⅱ：As-B 混入土層。　　Ⅴ：Hr-FA 一次堆積層。

Ⅲ：As-B 一次堆積層。

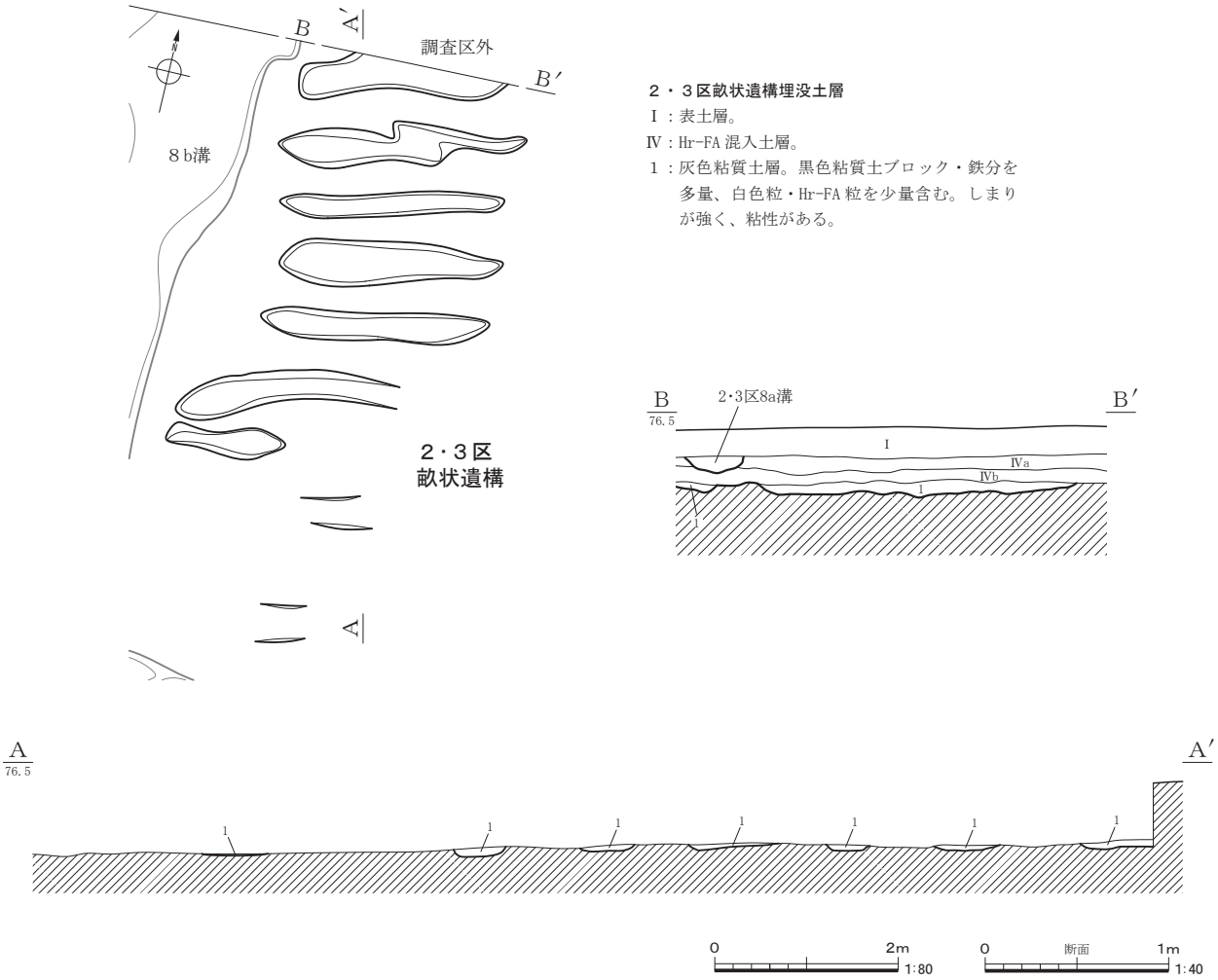
0　20m　1:400

0　断面　1m　1:40

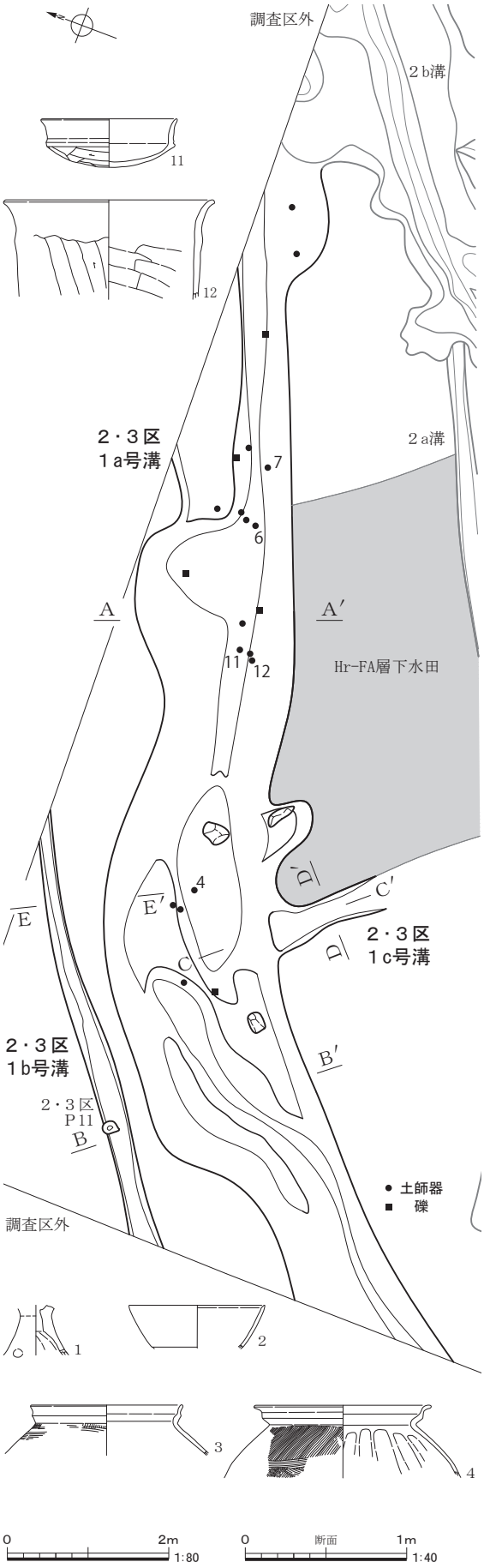
第 27 図　Hr-FA 層下水田（１）

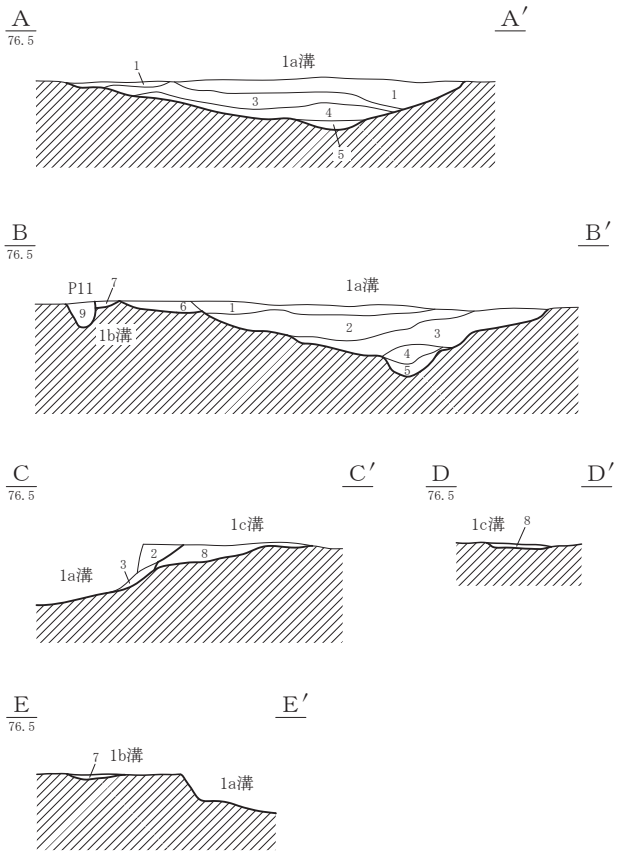


第 28 図　Hr-FA 層下水田（２）



第 29 図　畝状遺構





2・3区1号溝埋没土層

1：暗灰色粘質土層。白色粒・Hr-FA粒・鉄分を多量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。1a溝。

2：黒色粘質土層。白色粒・灰色砂・鉄分を多量、Hr-FA粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。1a溝。

3：灰色砂層。黒色粘質土ブロック・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA粒を微量含む。しまりがやや弱く、粘性がある。1a溝。

4：黒色粘質土層。鉄分を多量、白色粒・灰色砂・Hr-FA粒を少量含む。しまりがやや弱く、粘性がある。1a溝。

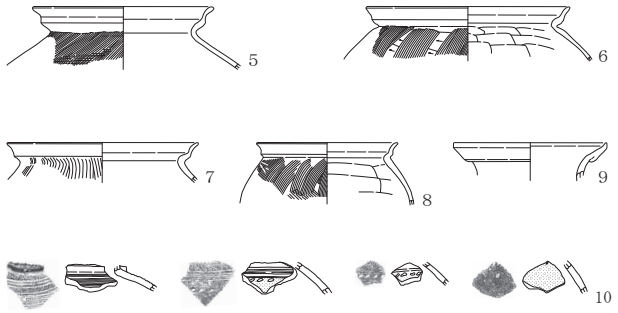
5：青灰色砂層。鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりがやや弱く、粘性がない。1a溝。

6：暗灰色粘質土層。白色粒を大量、Hr-FA粒・鉄分を多量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。1a溝。

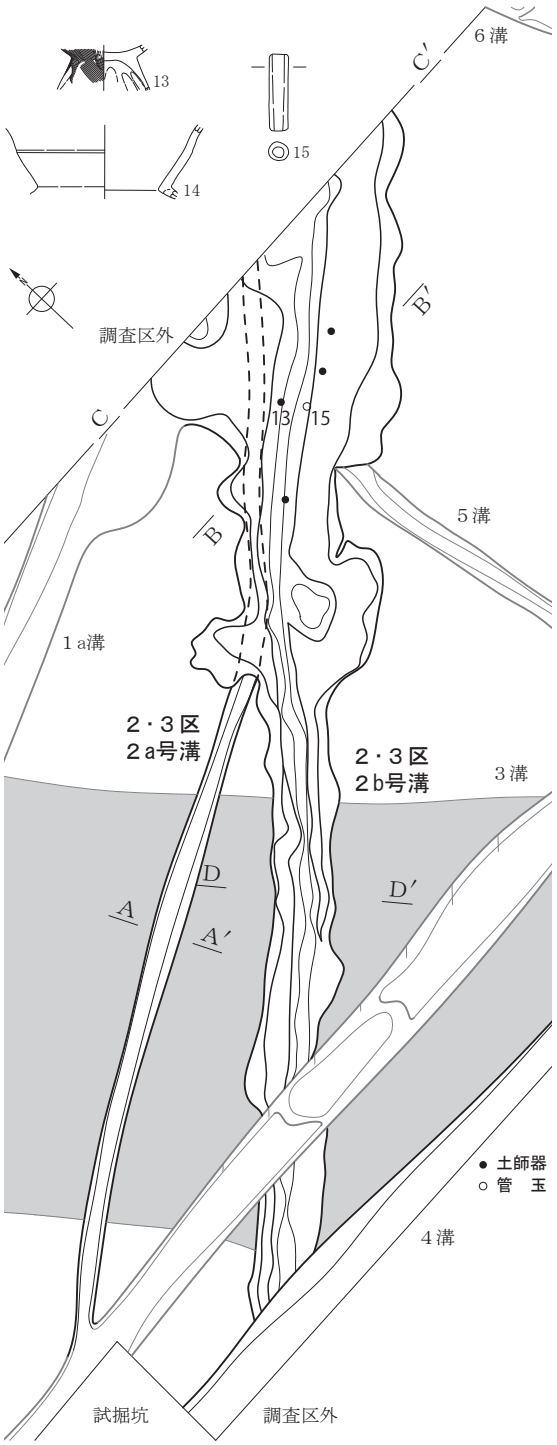
7：暗灰色粘質土層。Hr-FA粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。1b溝。

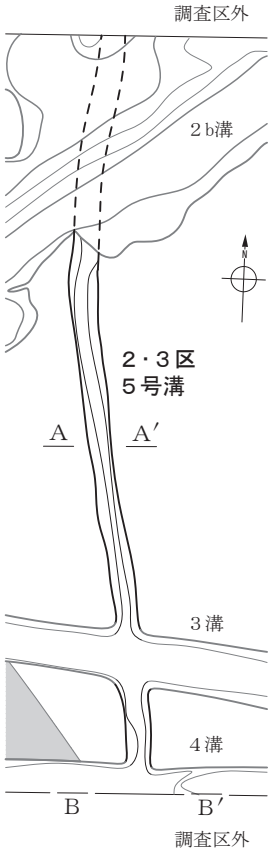
8：灰色粘質土層。浅黄色シルト質ブロック（Hr-FA）・白色粒・Hr-FA粒・鉄分を多量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。1c溝。

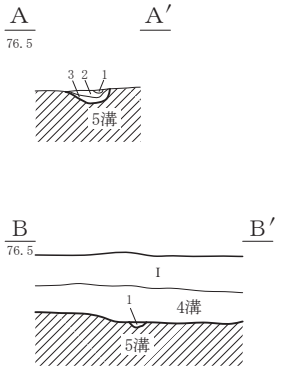
9：青灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒・Hr-FA粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性が若干ある。P11。



第30図　古墳時代から平安時代の溝（1）







２・３区５号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

１：黒色粘質土層。Hr-FA 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。

２：灰色粘質土層。浅黄色シルト質ブロック（Hr-FA）・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。

３：灰色砂層。鉄分を多量、白色粒を微量含む。しまりが強く、粘性がない。

２・３区２号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

１：暗灰色粘質土層。褐灰色砂を大量、黒色粘質土ブロック・白色粒・鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性が若干ある。２ａ溝。

２：灰色砂質土層。浅黄色シルト質ブロック（Hr-FA）・鉄分を多量、暗灰色粘質土ブロック・白色粒・Hr-FA を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がない。２ｂ溝。

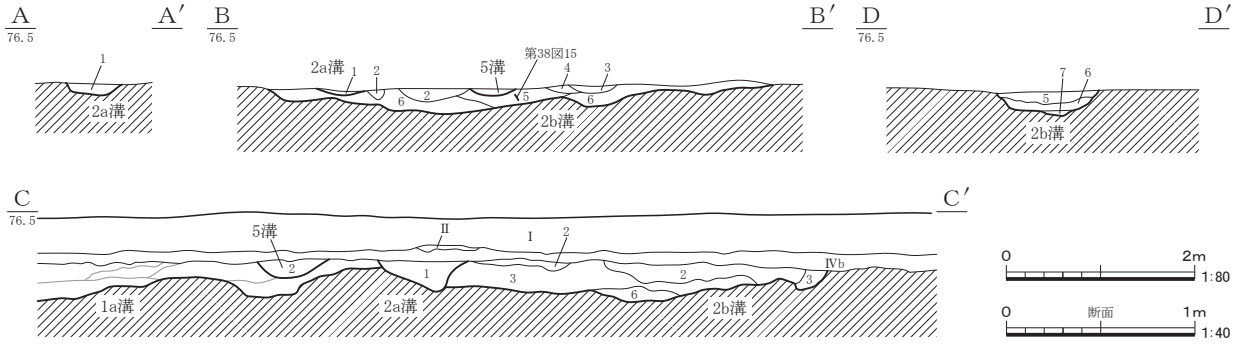
３：黒色粘質土層。白色粒・鉄分を少量、Hr-FA 粒を微量含む。北側のみ暗灰色粘質土ブロック・浅黄色シルト質ブロック（Hr-FA）を少量含む。しまりが強く、粘性がある。２ｂ溝。

４：黄灰色粘質土層。黄灰色砂を多量、白色粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。２ｂ溝。

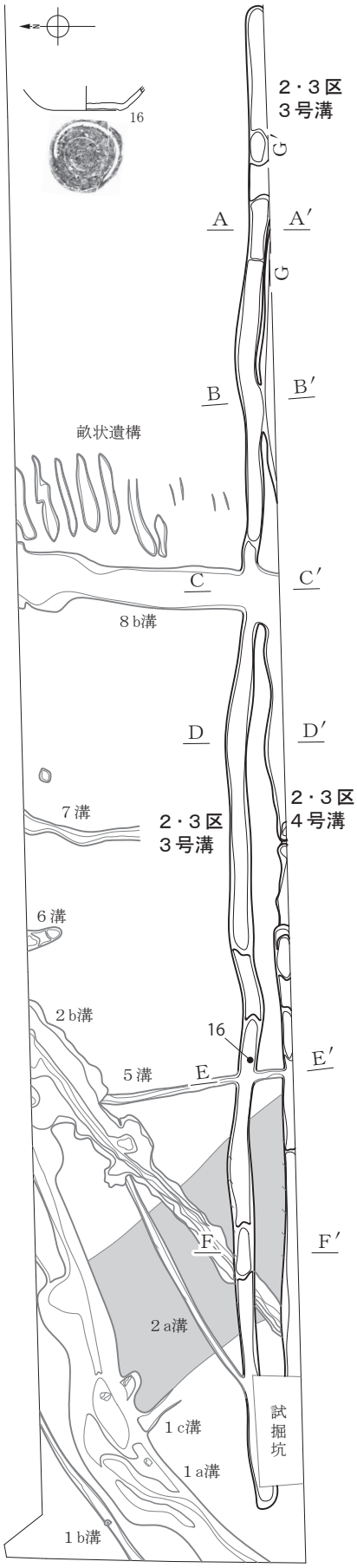
５：暗灰色砂質土層。白・青灰色砂を多量、白色粒を少量含む。しまりが強く、粘性が若干ある。２ｂ溝。

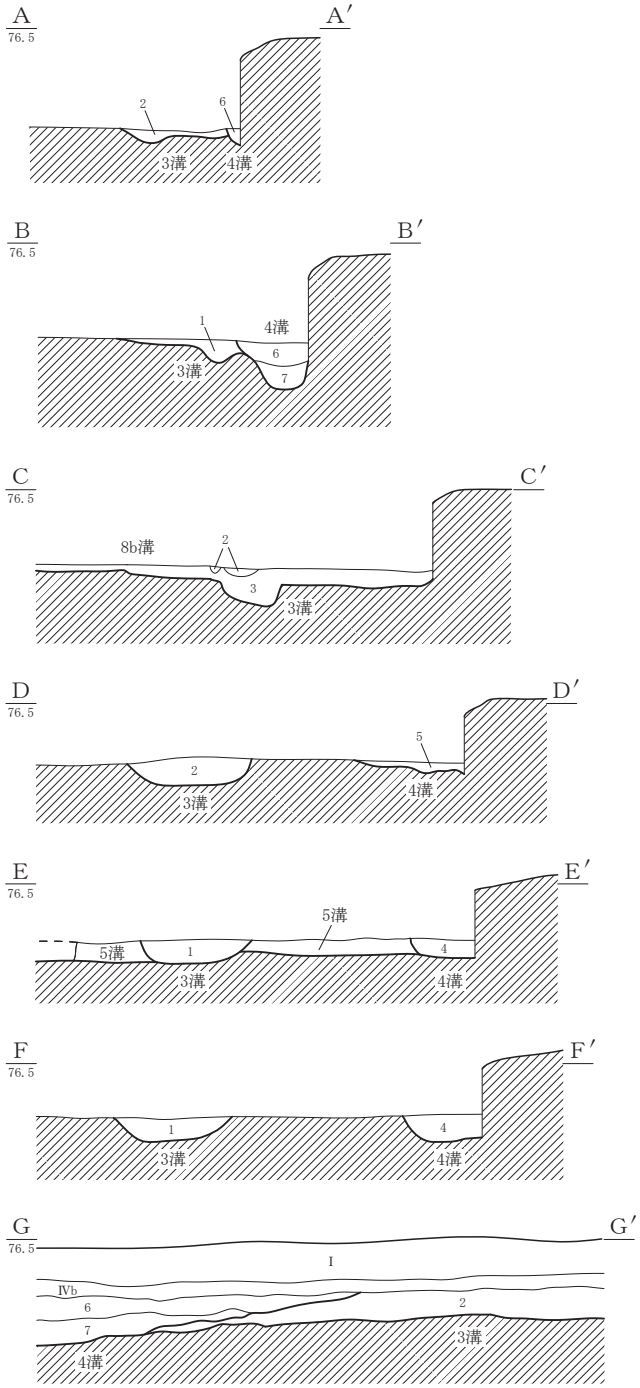
６：黒褐色粘質土層。白色粒・鉄分を多量、褐灰色砂ブロック・As-C 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。２ｂ溝。

７：黒褐色砂層。鉄分を大量、As-C 粒を多量含む。しまりが非常に強く、粘性がない。２ｂ溝。



第 31 図　古墳時代から平安時代の溝（２）





２・３区３・４号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

１：暗灰褐色粘質土層。白色粒・鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。３溝。

２：灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒・Hr-FA 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がない。３溝。

３：黒色粘質土層。黒色粘質土ブロックを主体とし、灰色砂ブロック・鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。３溝。

４：灰色粘質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。４溝。

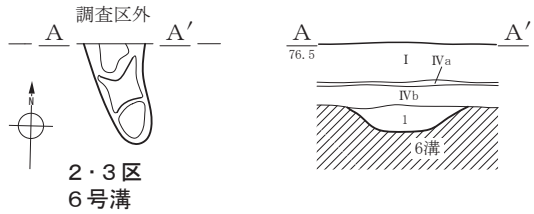
５：暗灰色砂質土層。白色粒・鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。４溝。

６：灰色粘質土層。白色粒・灰色砂・鉄分を多量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが強く、粘性がある。４溝。

７：灰色砂質土層。鉄分を大量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。部分的に薄い黒色粘質土層が認められる。しまりが非常に強く、粘性がある。４溝。

0　10m　1:200　　0　断面　1m　1:40

第 32 図　古墳時代から平安時代の溝（３）

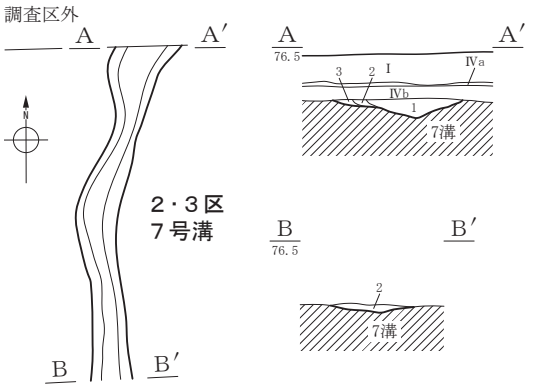


2・3区6号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

1：灰色砂質土層。鉄分を多量、灰色粘質土ブロック・白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。



2・3区7号溝埋没土層

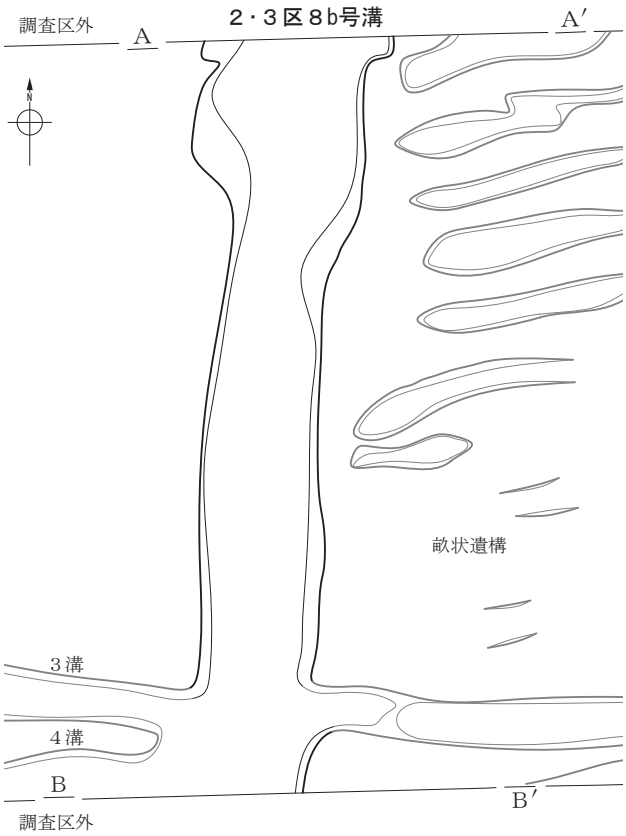
Ⅰ：表土層。

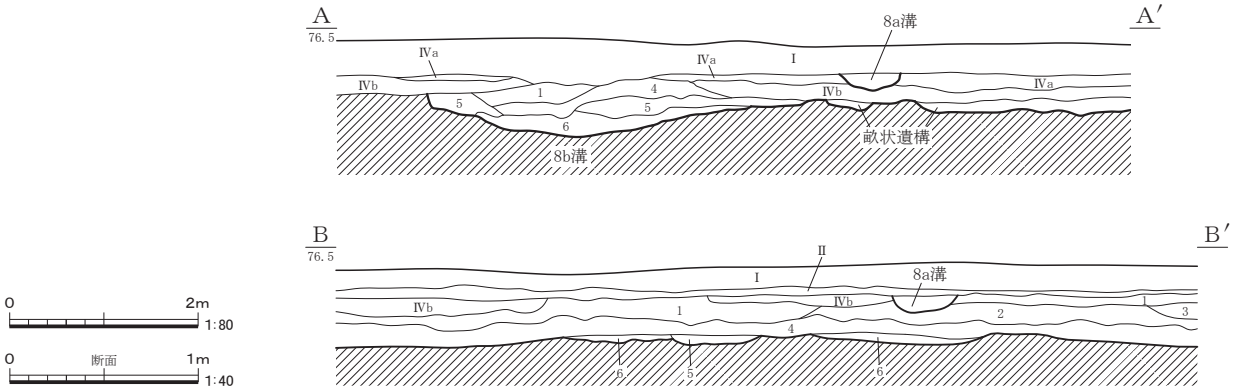
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

1：灰色砂質土層。灰色砂・鉄分を多量、浅黄色シルト質ブロック（Hr-FA）を微量含む。しまりが強く、粘性がない。

2：灰色粘質土層。鉄分を多量、灰色砂を少量、白色粒を微量含む。しまりが強く、粘性がある。

3：灰色砂質土層。鉄分を大量、灰色粘質土ブロックを少量、白色粒を微量含む。しまりが強く、粘性がない。





2・3区8b号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

1：暗灰色粘質土層。白色粒・灰色砂・鉄分を多量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。

2：灰色粘質土層。灰色砂を大量、白色粒・鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。

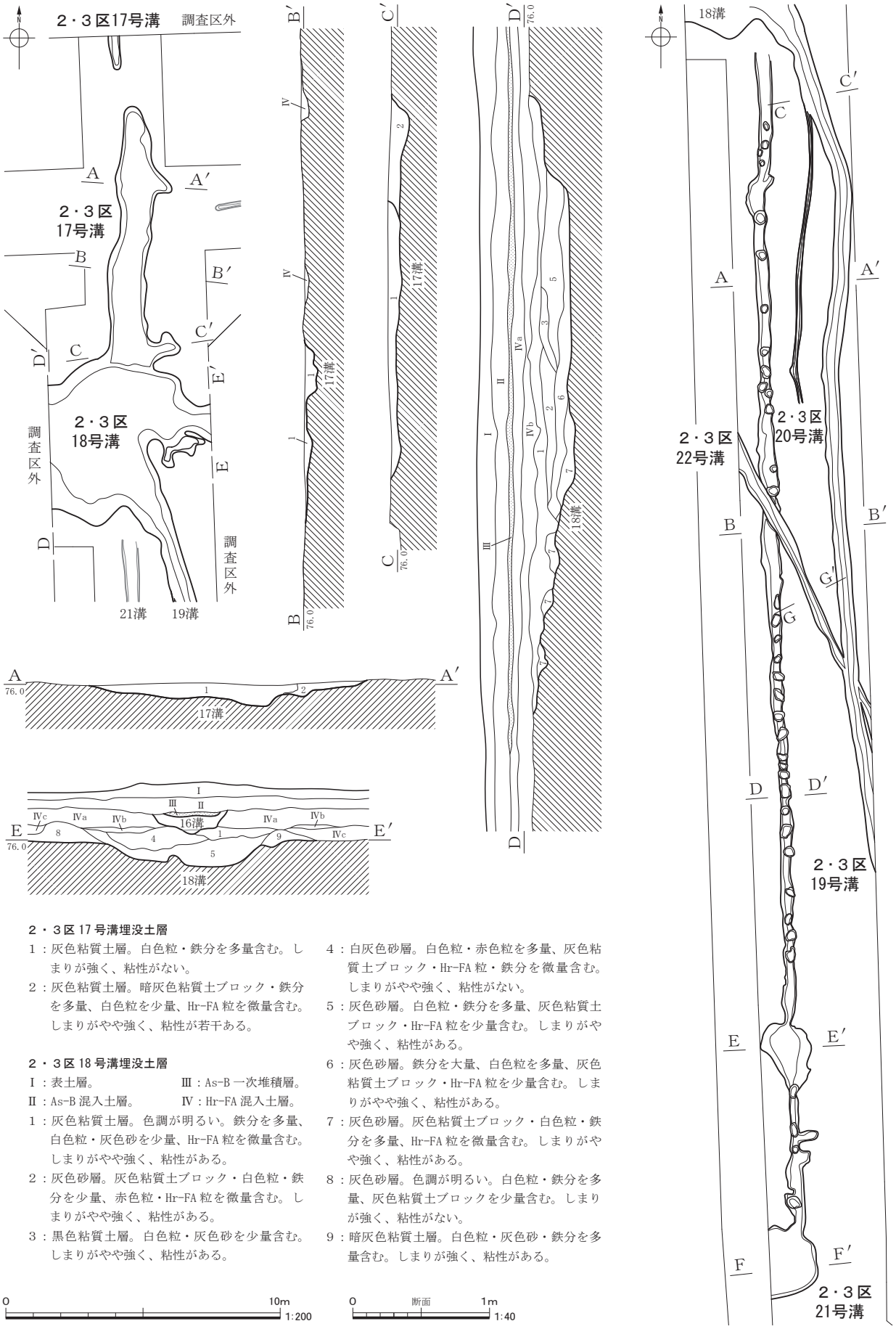
3：暗灰色粘質土層。白色粒・鉄分を多量、黒色粘質土ブロックを少量、灰色砂・Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。

4：灰色砂層。白色粒・黄灰色砂・鉄分を多量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がややある。

5：灰色砂層。鉄分を大量、白色粒を多量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりが非常に強く、粘性がない。

6：黒色粘質土層。黒色粘質土ブロックを主体とし、灰色砂ブロック・鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。

第 33 図　古墳時代から平安時代の溝（4）



2・3区17号溝埋没土層

1：灰色粘質土層。白色粒・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がない。

2：灰色粘質土層。暗灰色粘質土ブロック・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。

2・3区18号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。　Ⅲ：As-B一次堆積層。

Ⅱ：As-B混入土層。　Ⅳ：Hr-FA混入土層。

1：灰色粘質土層。色調が明るい。鉄分を多量、白色粒・灰色砂を少量、Hr-FA粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

2：灰色砂層。灰色粘質土ブロック・白色粒・鉄分を少量、赤色粒・Hr-FA粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

3：黒色粘質土層。白色粒・灰色砂を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

4：白灰色砂層。白色粒・赤色粒を多量、灰色粘質土ブロック・Hr-FA粒・鉄分を微量含む。しまりがやや強く、粘性がない。

5：灰色砂層。白色粒・鉄分を多量、灰色粘質土ブロック・Hr-FA粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

6：灰色砂層。鉄分を大量、白色粒を多量、灰色粘質土ブロック・Hr-FA粒を少量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

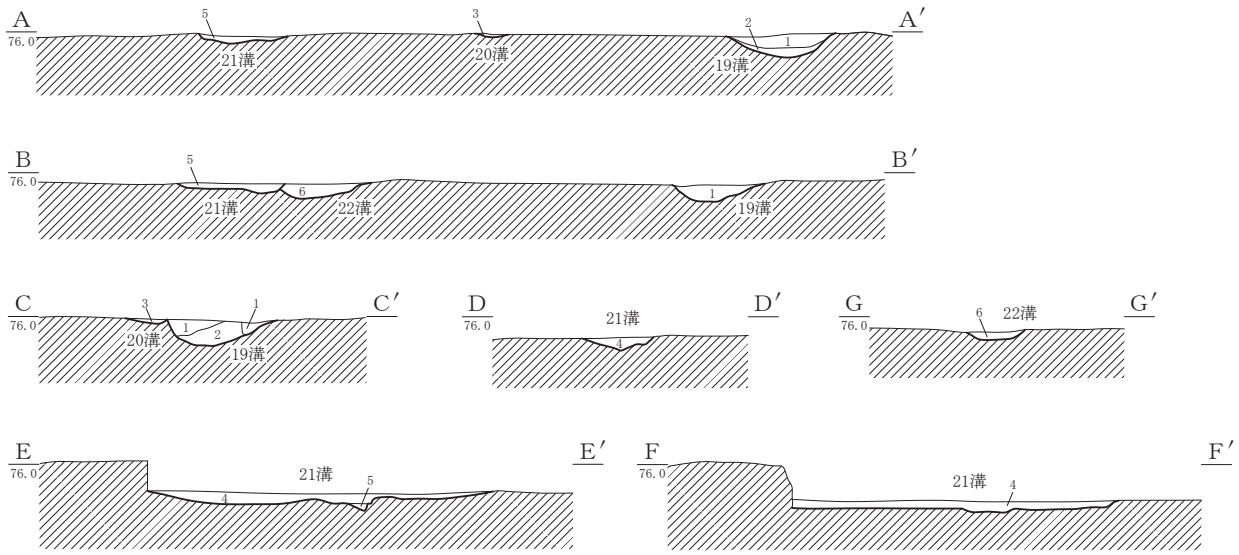
7：灰色砂層。灰色粘質土ブロック・白色粒・鉄分を多量、Hr-FA粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

8：灰色砂層。色調が明るい。白色粒・鉄分を多量、灰色粘質土ブロックを少量含む。しまりが強く、粘性がない。

9：暗灰色粘質土層。白色粒・灰色砂・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。

0　10m　1:200　　0　断面　1m　1:40

第34図　古墳時代から平安時代の溝（5）



２・３区 19・20・21・22 号溝埋没土層

１：灰色粘質土層。灰色砂・鉄分を少量含む。しまりがやや弱く、粘性がある。19 溝。

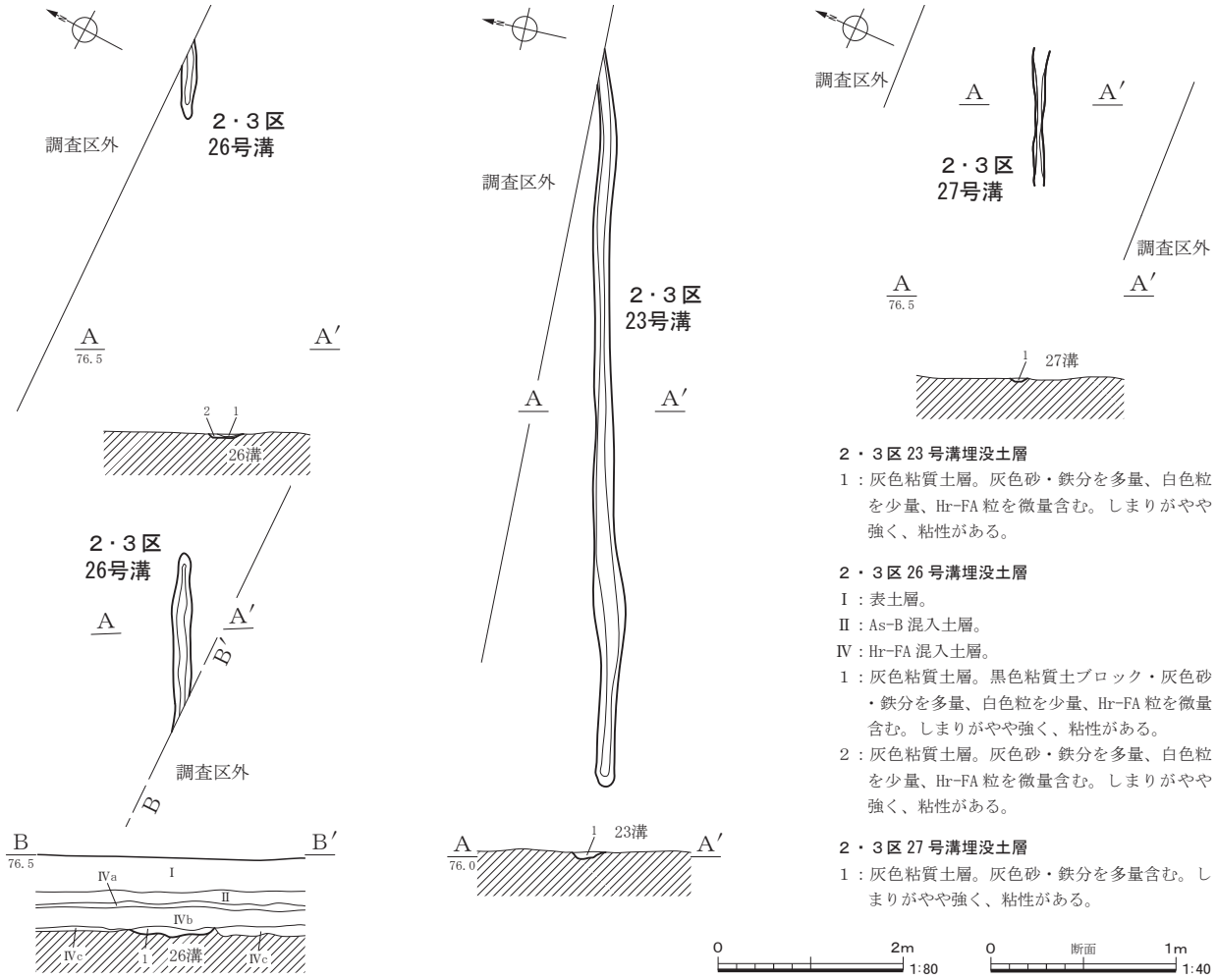
２：灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。部分的に薄い灰色砂層が認められる。しまりがやや強く、粘性がややある。19 溝。

３：灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。20 溝。

４：灰色砂質土層。黒色粘質土ブロック・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。21 溝。

５：灰色砂質土層。鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。21 溝。

６：黒色砂質土層。白色粒（As-C）・鉄分を多量含む。しまりが弱く、粘性がややある。22 溝。



２・３区 23 号溝埋没土層

１：灰色粘質土層。灰色砂・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

２・３区 26 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。

Ⅱ：As-B 混入土層。

Ⅳ：Hr-FA 混入土層。

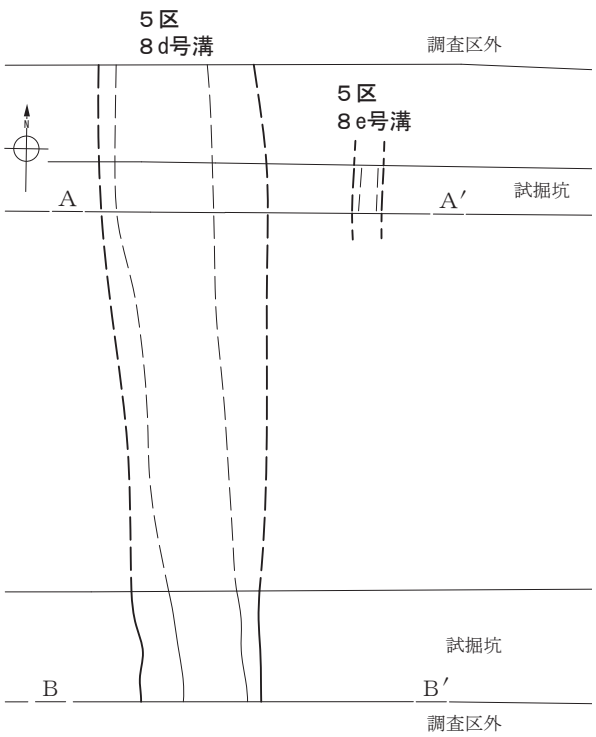
１：灰色粘質土層。黒色粘質土ブロック・灰色砂・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

２：灰色粘質土層。灰色砂・鉄分を多量、白色粒を少量、Hr-FA 粒を微量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

２・３区 27 号溝埋没土層

１：灰色粘質土層。灰色砂・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がある。

第 35 図　古墳時代から平安時代の溝（６）



５区８ｄ号溝埋没土層（Ａ－Ａ′）

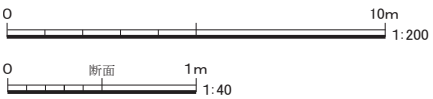
１：灰色粘質土層。鉄分を多量、白色微粒子を少量含む。しまりが非常に強く、粘性がある。
２：灰色砂質土層。白灰色砂を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。
３：灰色粘質土層。砂を大量含む。しまりが強く、粘性がある。
４：灰色砂質土層。細砂を大量、下面にφ 10 ～ 30 ㎜の礫を中量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
５：灰色砂質土層。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
６：赤褐色砂礫層。φ５～ 30 ㎜の礫を大量含む。鉄分が沈着する。しまりが弱く、粘性がない。

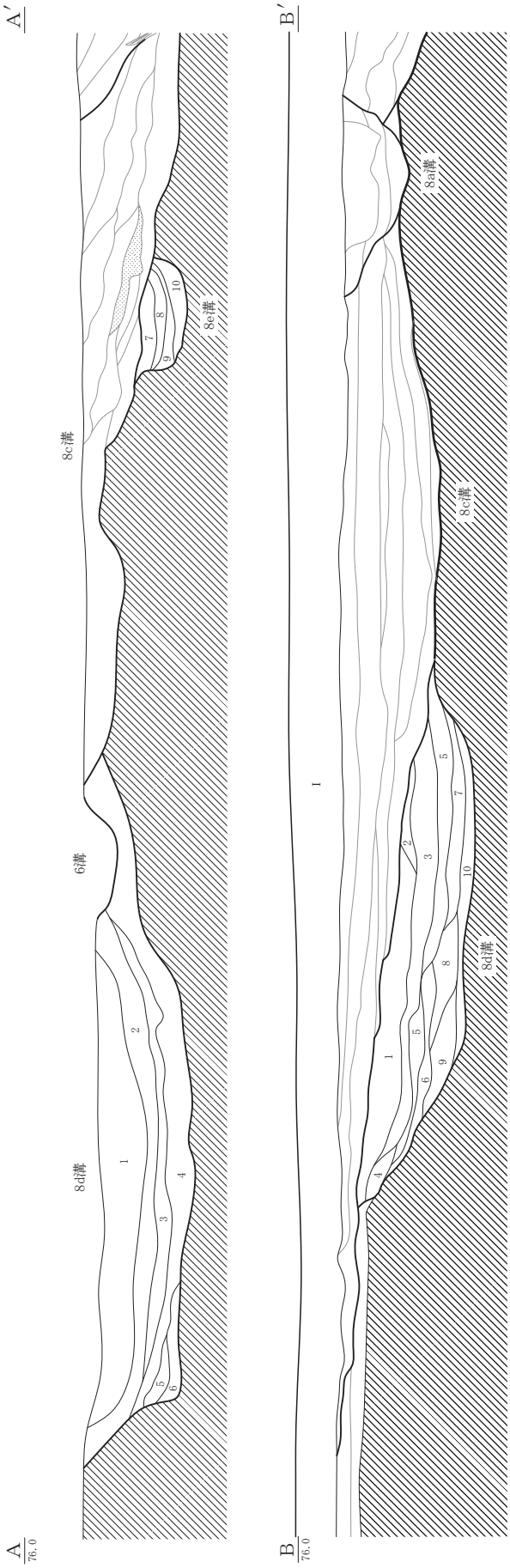
５区８ｄ号溝埋没土層（Ｂ－Ｂ′）

１：褐灰色粘質土層。白色微粒子・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がある。
２：褐灰色粘質土層。淡黄色粘質土ブロック・細砂・鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がある。
３：褐灰色粘質土層。極細砂・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。
４：褐灰色砂質土層。褐灰色粘質土ブロックを少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
５：灰色粘質土層。鉄分を多量、細砂を少量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
６：灰色粘質土層。細砂・鉄分を多量、白色粒を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。
７：灰色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
８：灰色粘質土層。鉄分を多量、細砂を少量含む。しまりがやや弱く、粘性が若干ある。
９：灰色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。
10：灰色砂層。底面に鉄分が沈着する。しまりが弱く、粘性がない。

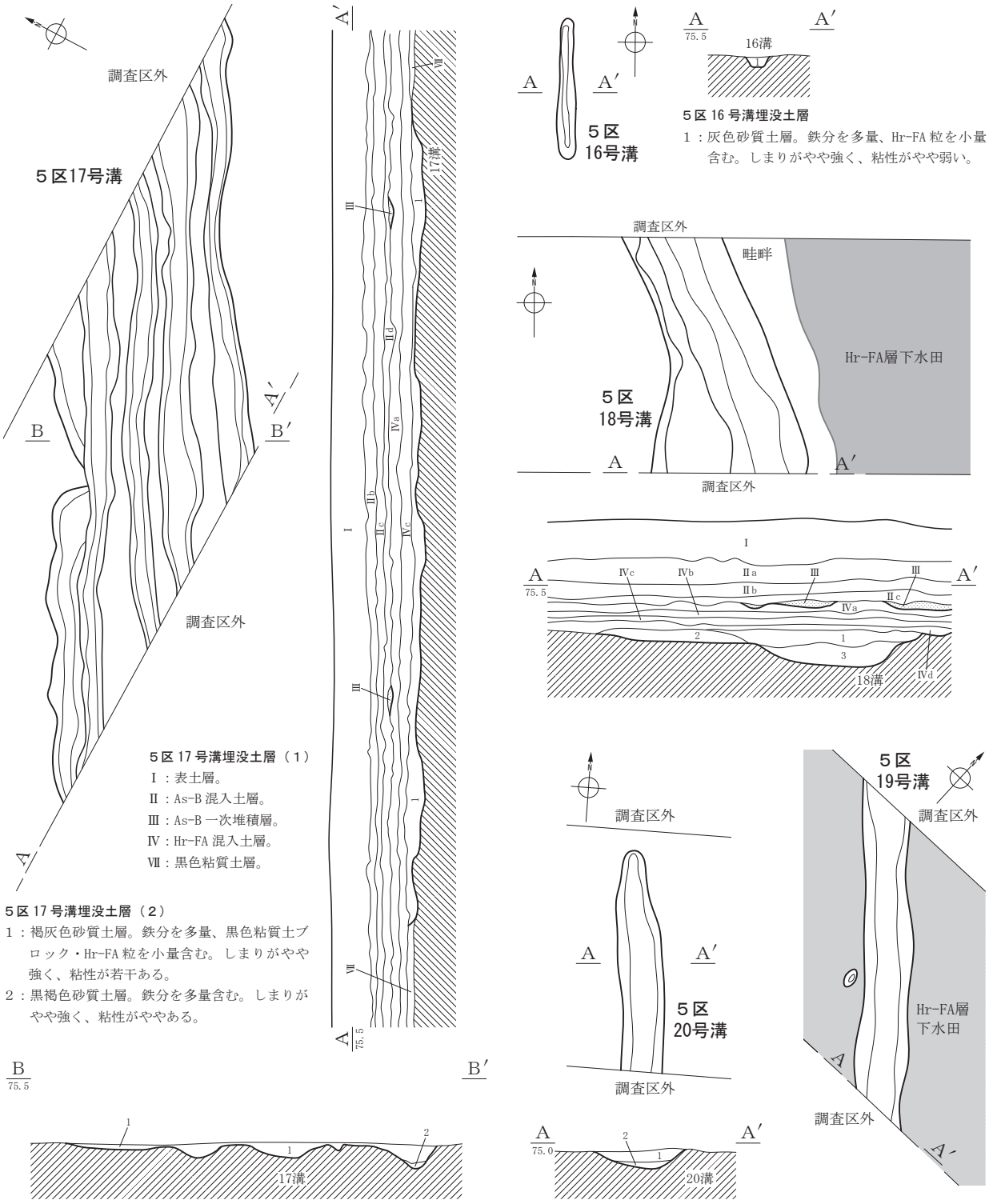
５区８ｅ号溝埋没土層

７：褐灰色粗砂層。しまりが弱く、粘性がない。
８：褐灰色砂層。しまりが弱く、粘性がない。
９：褐灰色砂層。２層に比べて砂粒が細かい。しまりが弱く、粘性がない。
10：暗灰色砂層。暗灰色粘質土ブロックを少量、φ50 ～ 100 ㎜の赤礫を微量含む。しまりが弱く、粘性がない。





第 36 図　古墳時代から平安時代の溝（７）



5区 16 号溝埋没土層

1：灰色砂質土層。鉄分を多量、Hr-FA 粒を小量含む。しまりがやや強く、粘性がやや弱い。

5区 17 号溝埋没土層（1）

Ⅰ：表土層。
Ⅱ：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
Ⅶ：黒色粘質土層。

5区 17 号溝埋没土層（2）

1：褐灰色砂質土層。鉄分を多量、黒色粘質土ブロック・Hr-FA 粒を小量含む。しまりがやや強く、粘性が若干ある。
2：黒褐色砂質土層。鉄分を多量含む。しまりがやや強く、粘性がややある。

5区 18 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。　Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅱ：As-B 混入土層。　Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
1：灰色粘質土層。白色粒（As-C）・鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がある。
2：褐灰色砂質土層。白色粒（As-C）・鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がややある。
3：暗灰色砂質土層。白色粒（As-C）・鉄分を多量含む。しまりが強く、粘性がある。

5区 19 号溝埋没土層

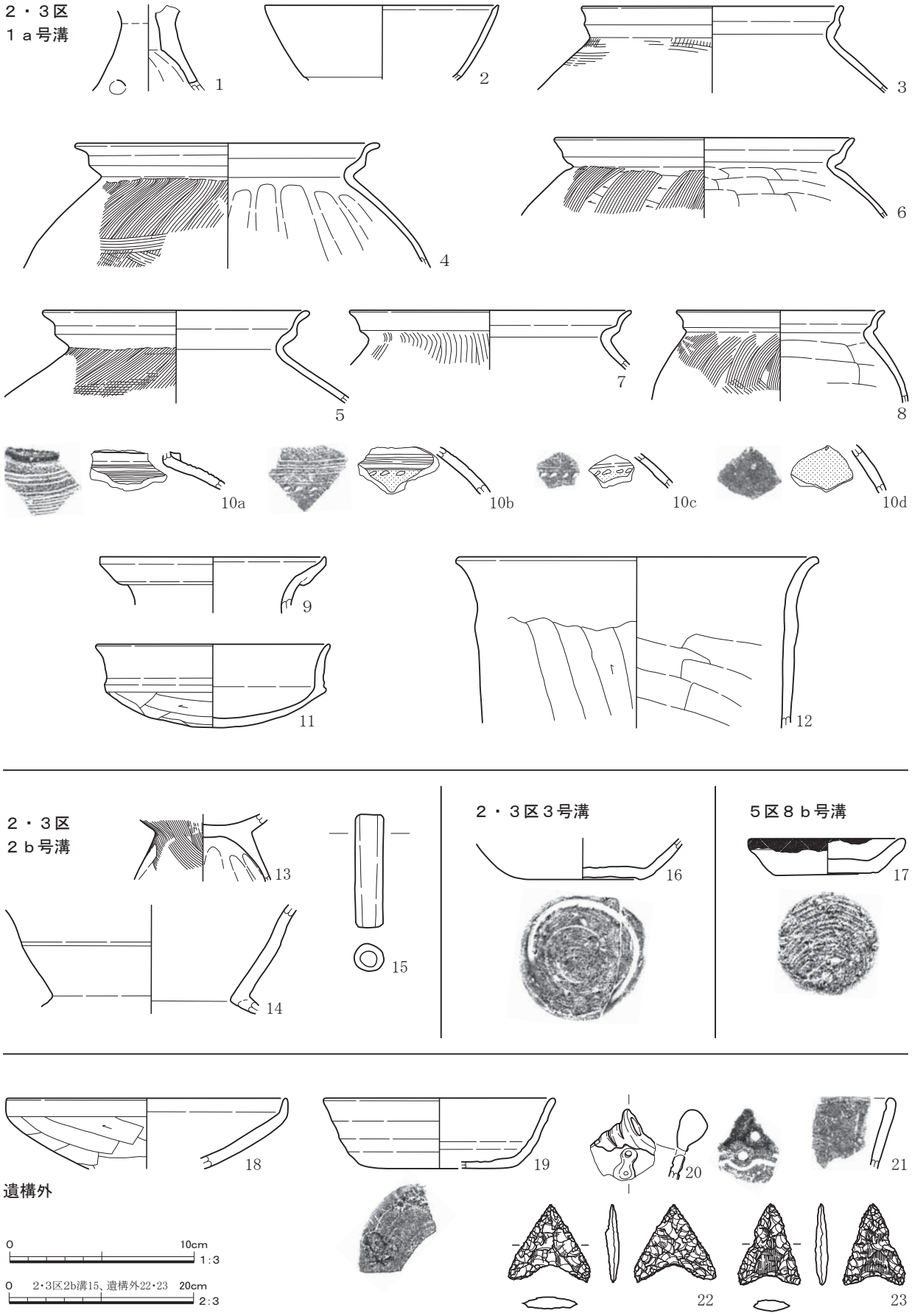
Ⅰ：表土層。　Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅱ：As-B 混入土層。　Ⅳ：Hr-FA 混入土層。
1：Hr-FA 一次堆積層。

5区 20 号溝埋没土層

1：黒褐色粘質土層。白色粒を多量、Hr-FA 粒・鉄分を少量含む。しまりが強く、粘性がある。
2：褐灰色粘質土層。白色粒・鉄分を多量、Hr-FA 粒を少量含む。しまりが強く、粘性がある。

0　2m　1:80　　0　断面　1m　1:40

第 37 図　古墳時代から平安時代の溝（8）


２・３区
１ａ号溝
1
2
3
4
6
5
7
8
10a
10b
10c
10d
9
11
12
２・３区
２ｂ号溝
13
14
15
２・３区３号溝
16
５区８ｂ号溝
17
18
19
20
21
遺構外
22
23
0
10cm
1:3
0
2・3区2b溝15、遺構外22・23
20cm
2:3

第 38 図　出土遺物

表５　出土遺物観察表

№.	遺構名	器種	法量（cm）	特徴	①胎土　②色調	備考
1	２・３区 １ａ号溝	土師器 器　台	口径：— 底径：— 器高：残 4.6	外面：脚部ナデ。透孔あり。 内面：脚部ナデ。	①チャート・黒色粒 ②外：にぶい黄橙 内：にぶい橙	脚部 1/3 残存。 外面磨耗。 古墳時代前期。
2	２・３区 １ａ号溝	土師器 坩	口径：(12.6) 底径：— 器高：残 4.0	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	①白色粒・黒色粒 ②外：橙 内：橙	口縁部片。 古墳時代前期。
3	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(14.2) 底径：— 器高：残 4.6	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、肩部ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①チャート・黒色粒 ②外：浅黄橙 内：浅　黄橙	口縁～胴部片。 内外面磨耗。 古墳時代前期。
4	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(16.4) 底径：— 器高：残 6.6	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、肩部ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部タテ指ナデ。	①白色粒・黒色粒 ②外：にぶい黄橙 内：浅黄橙	口縁～胴部片。 古墳時代前期。
5	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(14.4) 底径：— 器高：残 5.0	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、肩部ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①チャート・黒色粒 ②外：にぶい黄橙 内：灰白	口縁～胴部片。 内面摩耗。 古墳時代前期。
6	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(16.2) 底径：— 器高：残 4.3	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ケズリの後､ナナメハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①白色粒・黒色粒 ②外：灰白 内：灰白	口縁～胴部片。 古墳時代前期。
7	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(15.2) 底径：— 器高：残 3.1	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①チャート・黒色粒 ②外：灰白 内：灰白	口縁～胴部片。 内面磨耗。 古墳時代前期。
8	２・３区 １ａ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：(11.2) 底径：— 器高：残 4.9	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①チャート・黒色粒 ②外：灰白 内：灰白	口縁～胴部片。 古墳時代前期。
9	２・３区 １ａ号溝	土師器 壺	口径：(12.2) 底径：— 器高：残 3.0	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	①角閃石・白色粒 ②外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	口縁部片。 古墳時代前期。
10	２・３区 １ａ号溝	土師器 二重口縁 壺	口径：— 底径：— 器高：—	外面：頸部突帯貼付。胴部上位ヨコハケの後刺突文、刺突文から下は赤彩。 内面：胴部指ナデ。	①白色粒・黒色粒 ②外：明赤褐・赤 内：灰褐	胴部片。 古墳時代前期。
11	２・３区 １ａ号溝	土師器 坏	口径：12.6 底径：— 器高：4.5	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	①褐色粒・黒色粒 ②外：橙 内：橙	完形。 古墳時代後期（６ｃ後半～７ｃ初頭)。
12	２・３区 １ａ号溝	土師器 甕	口径：(19.5) 底径：— 器高：残 9.2	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①白色粒・黒色粒 ②外：橙 内：橙	口縁～胴部片。 古墳時代後期（６ｃ後半～７ｃ初頭)。
13	２・３区 ２ｂ号溝	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	口径：— 底径：— 器高：残 3.6	外面：台部ナナメハケ。 内面：台部指ナデ、台上面に砂付着。	①片岩・チャート ②外：にぶい黄橙 内：褐灰	台部のみ残存。 古墳時代前期。
14	２・３区 ２ｂ号溝	土師器 壺	口径：— 底径：— 器高：残 5.8	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	①チャート・褐色粒 ②外：にぶい黄橙 内：灰黄	口縁部 1/2 残存。 古墳時代前期。
15	２・３区 ２ｂ号溝	土製品 管　玉	長さ：3.1 厚さ：0.7	ナデ調整。 重さ：1.9 ｇ。	①黒色粒 ②外：灰白 内：灰白	一部欠失。
16	２・３区 ３号溝	須恵器 坏	口径：— 底径：6.7 器高：残 2.2	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り。 内面：ロクロ調整。	①チャート・黒色粒 ②外：灰白 内：灰白	底部のみ残存。 平安時代(９ｃ中葉)。
17	５区 ８ｂ号溝	須恵器 皿	口径：8.5 底径：5.5 器高：2.0	外面：ロクロ調整。底部回転糸切り。 内面：ロクロ調整。	①白色粒・褐色粒 ②外：にぶい黄橙 内：褐灰	完形。酸化焔焼成。 口縁部内外面に油煙付着。古代末。
18	遺構外	土師器 坏	口径：(15.0) 底径：— 器高：残 3.8	外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	①チャート・石英 ②外：橙 内：明赤褐	1/3 残存。２ａ区２面出土。古墳時代後期（７ｃ前半)。
19	遺構外	須恵器 坏	口径：(12.5) 底径：(8.6) 器高：3.8	外面：ロクロ調整。底部ヘラ切り後ナデか。 内面：ロクロ調整。	①白色粒 ②外：灰 内：灰	1/5 残存。 ２ａ区２面出土。 平安時代(９ｃ初頭)。
20	遺構外	縄文土器 深　鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口唇部に突起。焼成前穿孔。器面荒れ。 外面：口唇下に８字状貼付文。 内面：突起・口唇下に貼付文→単沈線。	①石英 ②外：にぶい橙 内：にぶい橙	口縁部片。 ２・３区１号溝出土。 堀之内２式。
21	遺構外	縄文土器 深　鉢	口径：— 底径：— 器高：—	器面荒れ。 外面：— 内面：口唇下に凹線。	①片岩・石英 ②外：灰黄褐 内：にぶい黄褐	口縁部片。 ２・３区１号溝出土。 堀之内２式。
22	遺構外	石　器 石　鏃	長さ：2.1 幅　：2.2 厚さ：0.4	凹基無茎。押圧剥離による調整。 石材：透明度がやや高い黒曜石。 重さ：0.9g。	—	完形。 ２・３区４号溝出土。
23	遺構外	石　器 石　鏃	長さ：2.2 幅　：1.7 厚さ：0.4	凹基無茎。押圧剥離による調整。表裏面の基部～中央に研磨痕。石材：不純物が少なく、透明度が高い黒曜石。重さ：0.9g。	—	完形。 ５ｅ区出土。

Ⅸ 自然科学分析

１ 土層とテフラ

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

南部拠点地区遺跡群 No.１の発掘調査区でも、層位や年代が不明なテフラや土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析および火山ガラスの屈折率測定を行って、土層の層序や層位さらに年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、２ｂ区基本層序、２・３区 18 号溝、２・３区 19 号溝、２・３区 22 号溝、５ｂ区基本層序、５ｃ区基本層序、５区４号溝、５区７号溝の８地点である（第４・39 図）。

テフラ検出分析の試料と分析方法

土層断面から採取された試料のうち、18 点についてテフラ検出分析を行い、軽石や火山ガラスなどテフラ粒子の特徴やその産出状況の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

①試料８ｇを秤量。②超音波洗浄により泥分を除去。③ 80 ˚C で恒温乾燥。④実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

テフラ検出分析の分析結果

分析の結果を表６に示す。軽石は４種類が検出された。最下位にある軽石（最大径 3.7㎜）は、灰白色でスポンジ状に比較的良く発泡しており、斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。その上位には、発泡がさほど良くない白色の軽石（最大径 2.0㎜）が認められる。その斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。その上位の軽石は、淡褐色で比較的良く発泡しており、斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、成層したテフラ層に多い。最上位の軽石は、白色で光沢をもち、比較的良く発泡している。斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。ほかに、これらの軽石の細粒物である火山ガラスのほか、無色透明の軽石型ガラスや、分厚い中間型ガラスも検出された。

屈折率測定の試料と測定方法

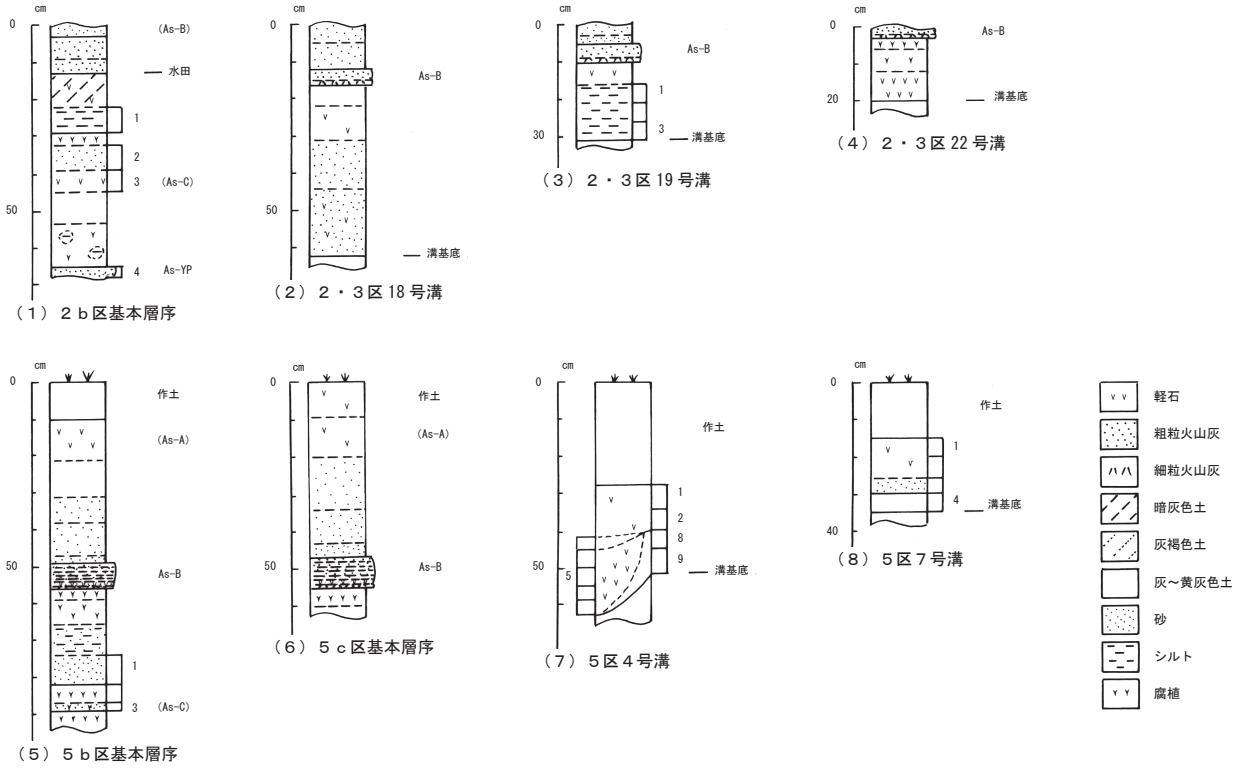
テフラ検出分析の対象となった試料のうち、５ｂ区基本層序の試料３に含まれる As-C と考えられる軽石のガラス部について、実体顕微鏡下でハンドピッキングの後に軽く粉砕して、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により、火山ガラスの屈折率（n）の測定を実施し、同定精度のチェックを実施した。

屈折率測定の結果

屈折率測定の結果を表７に示す。５ｂ区基本層序の試料３に含まれる軽石のガラス部の屈折率は、1.516-1.520（30 粒子）である。

考　察

テフラ検出分析で認められた４種類の軽石のうち、最下位の軽石については、軽石の岩相、斑晶鉱物の組み合わせ、火山ガラスの屈折率などから、４世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Ｃ軽石（As-C,



土層の層序

（１）２ｂ区基本層序：２ｂ区基本層序では、下位より暗灰色粗粒火山灰層（層厚３cm）、黄色がかった灰色シルトブロック混じり灰色泥層（層厚12cm）、暗灰色粘質土（層厚８cm）、灰白色軽石混じり灰色粘質土（層厚６cm，軽石の最大径２mm）、灰白色粗粒火山灰混じり暗灰色粘質土（層厚７cm）、黒灰褐色泥層（層厚３cm）、白色軽石混じり灰色シルト層（層厚７cm，軽石の最大径４mm）、灰色軽石混じり暗灰色粘質土（層厚９cm，軽石の最大径４mm）、黄褐色砂質土（層厚４cm）、黄灰色砂質土（層厚６cm）、砂混じりで若干色調の暗い灰色土（層厚３cm以上）が認められる。

発掘調査では、これらのうち黄褐色土の直下から水田跡が検出されている。

（２）２・３区18号溝：２・３区18号溝の覆土は、下位より白色軽石を含む灰色砂層（層厚18cm，軽石の最大径８mm）、白色軽石を含む灰色砂質泥層（層厚15cm，軽石の最大径６mm）、白色軽石混じりで色調が少し暗い灰色泥層（層厚９cm，軽石の最大径７mm）、暗灰色粘質土（層厚６cm）、成層したテフラ層（層厚3.3cm）、砂混じり黄灰色土（層厚７cm）、若干色調が暗い砂混じり灰色土（層厚５cm以上）が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.3cm）と、黄灰色粗粒火山灰層（層厚３cm）からなる。このテフラ層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As-B，荒牧1968，新井1979）に同定される。

（３）２・３区19号溝：２・３区19号溝の覆土は、下位より灰色シルト層（層厚15cm）、白色軽石混じり暗灰色粘質土（層厚６cm，軽石の最大径３mm）、成層したテフラ層（層厚4.2cm）、暗灰褐色砂質土（層厚２cm）、砂混じり灰色土（層厚３cm以上）が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.2cm）と、基底部に粗粒の軽石を含む黄灰色粗粒火山灰層（層厚４cm，軽石の最大径５mm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。ここでは、このテフラ層に覆われた水田跡が検出されている。

（４）２・３区22号溝：２・３区22号溝の覆土は、下位より白色軽石に富む暗灰色泥層（層厚８cm，軽石の最大径５mm）、若干色調が暗い灰色泥層（層厚６cm）、黒灰褐色泥層（層厚３cm）、成層したテフラ層（層厚2.2cm以上）からなる。成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.3cm）と、黄灰色粗粒火山灰層（層厚２cm以上）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。ここでも、このテフラ層に覆われた水田跡が検出されている。

（５）５ｂ区基本層序：５ｂ区基本層序では、下位より黒泥層（層厚５cm以上）、灰色粗粒火山灰に富む暗灰色泥層（層厚２cm）、灰色泥層（層厚５cm）、灰色砂層（層厚８cm）、砂混じり灰色シルト層（層厚８cm）、暗灰色泥層（層厚７cm）、黒泥層（層厚３cm）、成層したテフラ層（層厚6.4cm）、褐色砂質土（層厚２cm）、灰色砂質土（層厚９cm）、黄色がかった灰色砂質土（層厚７cm）、黄灰色土（層厚10cm）、白色細粒軽石を多く含む灰色土（層厚11cm，軽石の最大径３mm）、少し色調が暗い灰色作土（層厚10cm）が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.2cm）、褐色粗粒軽石を基底に含む黄灰色粗粒火山灰層（層厚１cm，軽石の最大径６mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、桃褐色粗粒火山灰層（層厚１cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚1.4cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。なお、作土とその直下の土層に含まれる白色細粒軽石の発泡は比較的良く、層位も合わせると、1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A，荒牧1968，新井1979）に由来すると考えられる。

（６）５ｃ区基本層序：５ｃ区基本層序では、下位より灰色粘質土（層厚２cm以上）、黒灰色粘土（層厚５cm）、成層したテフラ層（層厚6.4cm）、暗灰褐色砂質土（層厚４cm）、灰色砂質土（層厚９cm）、砂混じり黄灰色土（層厚14cm）、白色細粒軽石混じり灰色土（層厚11cm，軽石の最大径３mm）、白色細粒軽石混じりで少し色調が暗い灰色作土（層厚９cm）が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.2cm）、褐色粗粒軽石を基底に含む黄灰色粗粒火山灰層（層厚1.2cm，軽石の最大径８mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、桃褐色粗粒火山灰層（層厚１cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。ここでも、このテフラ層に覆われた水田跡が検出されている。なお、作土中に含まれる白色細粒軽石の発泡は比較的良く、層位も合わせるとAs-Aに由来すると考えられる。

（７）５区４号溝：５区４号溝の覆土は、下位より黄灰色土（層厚11cm）、白色軽石を多く含む灰色砂質土（層厚18cm，軽石の最大径２mm）、灰色土（層厚３cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚12cm，軽石の最大径３mm）、若干色調の暗い灰色表土（層厚28cm）からなる。

（８）５区７号溝：５区７号溝の覆土は、下位より少し色調が暗い灰色土（層厚５cm）、灰色粗粒火山灰を多く含む灰色土（層厚４cm）、白色細粒軽石混じり灰色土（層厚11cm，軽石の最大径３mm）、褐色がかった灰色表土（層厚15cm）からなる。

第39図　基本層序柱状図

荒牧 1968，新井 1979，友廣 1988，若狭 2000）に同定される。

下位より２層準目の白色軽石は、岩相から６世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井 1979，坂口 1986，早田 1989，町田・新井 1992）、または６世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井 1962，坂口 1986，早田 1989，町田・新井 1992）に由来すると考えられる。その上位の軽石は As-B、また最上位の軽石は As-A にそれぞれ由来すると考えられる。

分析対象地点のうち、２ｂ区基本層序では、試料１に As-C や Hr-FA または Hr-FP 起源の軽石が含まれている。その下位にこれらの軽石が認められないことから、As-C の降灰層準は何らかの作用で失われており、少なくとも Hr-FA 降灰後に発生した洪水性堆積物により覆われていると推定される。試料３層準で認められる軽石については、当初 As-C の可能性も考えられたが、その特徴的な軽石は認められないことから、さらに下位のテフラに由来する可能性が考えられる。試料４が採取された粗粒火山灰層については、粒度や含まれる火山ガラスの特徴から、約 1.5 ～ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井 1962，町田・新井 1992・2003）かも知れない。一方、最上部の砂質土については、層相や周囲のテフラの産出状況から、As-B が多く混在していると思われる。したがって、周辺で検出されている As-B 直下の水田（後述）とほぼ同じ水田と推定されよう。

２・３区 18 号溝および２・３区 19 号溝の覆土の最下部からは、As-C と Hr-FA または Hr-FP 起源の軽石が検出された。したがって、これらの試料が採取された洪水性堆積物については、２ｂ区基本層序で検出されたものと同じ可能性がある。つまり、これらの溝は洪水性堆積物で埋没したのかも知れない。２・３区 22 号溝については、覆土最下部の試料１から As-C 起源の軽石が多く検出された。この溝の年代については、Hr-FP 降灰年代を遡る可能性もある。

５ｂ区基本層序では、試料３から As-C 起源のテフラ粒子が比較的多く検出された。層相も合わせるとこの試料付近に As-C の降灰層準があると考えられる。また、その上位の砂層（試料１）から、As-C のほかに Hr-FA または Hr-FP に由来する可能性のあるテフラ粒子が検出された。

５区４号溝では、いずれの試料からも As-B と As-A に由来する可能性のあるテフラ粒子が検出された。したがって、この遺構については、As-A 降灰後につくられた可能性が考えられる。５区７号溝については、覆土最下部の試料４にも少量ながら As-B 起源の火山ガラスが含まれているものの、その上位の試料３に As-B 起源のテフラ粒子は多く、この溝については Hr-FA の上位で As-B の下位にある可能性が指摘される。

なお、Hr-FA と Hr-FP の噴火の際には、それぞれ火山泥流が発生して、赤城山山麓下流部以外の利根川扇状地河川沿いを覆っている（早田 1989）。したがって、今回検出された洪水性堆積物もいずれかの火山泥流堆積物の可能性がある。

表６　テフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア 量	色調	最大径	火山ガラス 量	形態	色調
２ｂ区基本層序	1				*	pm	灰白，白
	2				*	pm	透明
	3				*	pm，md	透明
	4				*	md	透明
３区 18 号溝	7	*	灰白	3.7	*	pm	灰白，白
３区 19 号溝	3				*	pm	灰白，白
３区 22 号溝	1	**	灰白	2.2	**	pm	灰白
５ｃ区基本層序	2	**	淡褐	2.5	**	pm	淡褐

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，＊少ない．
最大径の単位は，mm．　bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型．

地点名	試料	軽石・スコリア 量	色調	最大径	火山ガラス 量	形態	色調
５ｂ区基本層序	1	**	灰白，白	4.1，2.0	***	pm	灰白，白
	2				*	pm	灰白
	3	**	灰白	2.8	**	pm	灰白
５区４号溝	1	*	白	2.8	**	pm	白．淡褐
	3	**	白	4.3	***	pm	白．淡褐
	7	**	白	5.2	***	pm	白．淡褐
	9	*	白	3.4	**	pm	白．淡褐
５区７号溝	1	*	淡褐	2.1	**	pm	淡褐，白
	3	*	淡褐	2.2	***	pm	淡褐
	4				**	pm	灰，白，白，淡褐

表７　屈折率測定結果

地点名	試料	火山ガラスの屈折率（n）	測定粒子数
５ｂ区基本層序	3	1.516-1.520	30

屈折率の測定は，MAIOT による．

まとめ

南部拠点地区遺跡群 No.1 において、地質調査、テフラ検出分析さらに火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より、浅間Ｃ軽石（As-C, ４世紀初頭）、浅間Ｂテフラ（As-B, 1108 年）、浅間Ａテフラ（As-A, 1783 年）などの指標テフラのほか、As-C と As-B の間に、榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA, ６世紀初頭）または榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP, ６世紀中葉）に伴う火山泥流の可能性のある洪水性堆積物が検出された。溝状遺構の中には、この堆積物によって埋没したものも認められる。

２ プラント・オパール分析

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である（杉山 2000）。

分析試料と分析方法

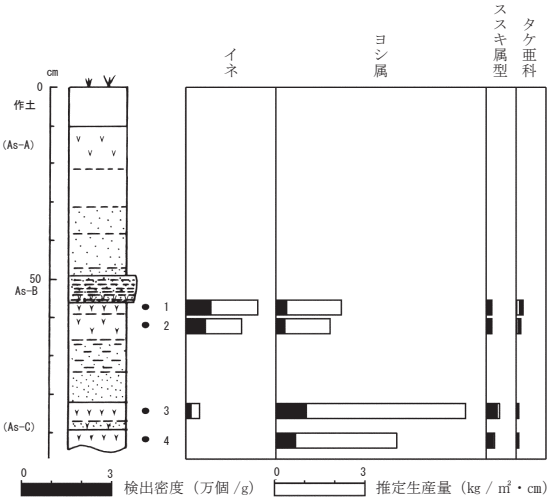
分析試料は、５ｂ区基本層序トレンチから採取された４点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す（第 40 図）。分析方法は、ガラスビーズ法（藤原 1976）を用いて、次の手順で行った。

①試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）。②試料約１ｇに対し直径約 40μｍのガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）。③電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理。④超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。⑤沈底法による 20 μｍ以下の微粒子を除去。⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。⑦検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山 2000）。

分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な６分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表８および第 40 図に示した。第 41 図に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。



第 40 図　プラント・オパール分析結果

考　察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料１ｇあたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山 2000）。ただし、密度が

3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

５ｂ区基本層序では、As-B 直下層（試料１）から As-C 直下層（試料４）までの層準について分析を行った。その結果、As-B 直下層（試料１）とその下層（試料２）、および As-C 直上層（試料３）からイネが検出された。このうち、As-B 直下層（試料１）とその下層（試料２）では、密度が 8,300 個 /g および 6,400 個 /g と高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

As-C 直上層（試料３）では、密度は 1,500 個 /g と比較的低い値であるが、直上を砂層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられる。

まとめ

プラント・オパール分析の結果、As-B 直下層とその下層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、As-C と As-B の間にある洪水性堆積物直下でも稲作が行われていた可能性が認められた。

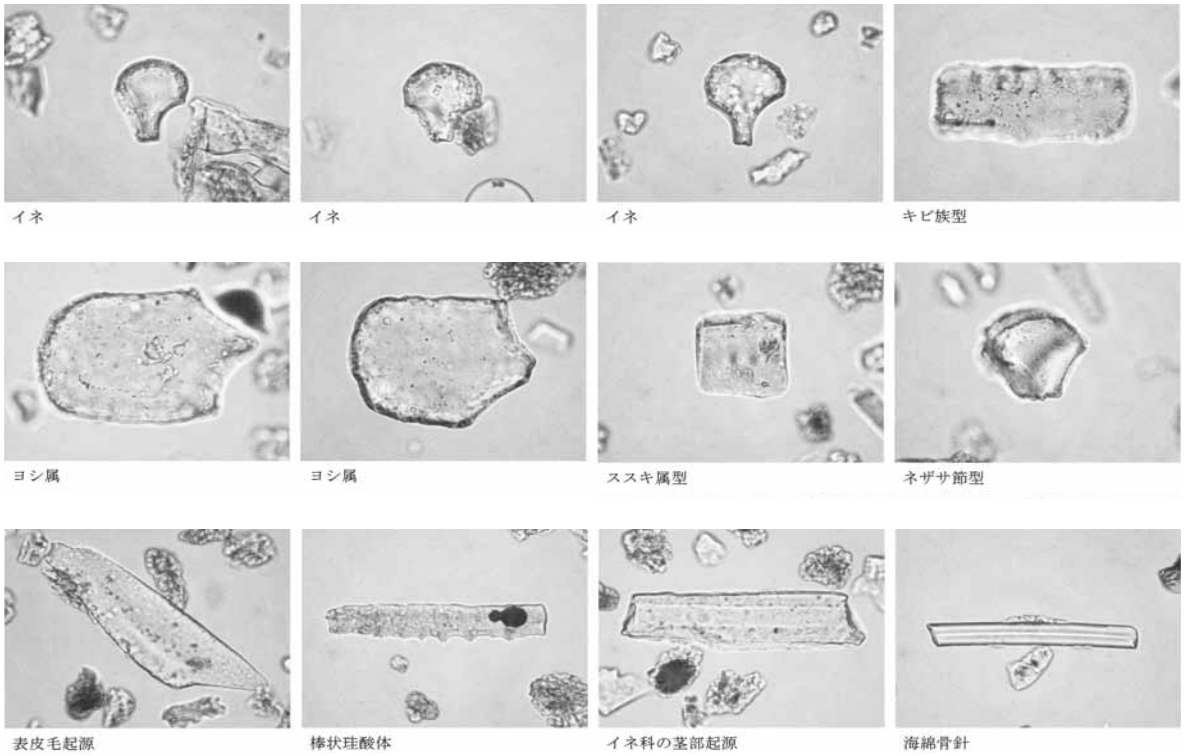
表８　プラント・オパール分析結果

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群	学名	地点・試料	５ｂ区基本層序地点 1	2	3	4
イネ	Oryza sativa		83	64	15	
ヨシ属	Phragmites		35	29	102	65
ススキ属型	Miscanthus type		14	14	36	22
タケ亜科	Bambusoideae		21	14	7	7

推定生産量（単位：kg / ㎡・cm）：試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

分類群	学名	地点・試料	５ｂ区基本層序地点 1	2	3	4
イネ	Oryza sativa		2.44	1.89	0.43	
ヨシ属	Phragmites		2.18	1.81	6.42	4.12
ススキ属型	Miscanthus type		0.17	0.18	0.45	0.27
タケ亜科	Bambusoideae		0.10	0.07	0.03	0.03



第 41 図　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真　―――― 50μm

X まとめ

本遺跡群では、古墳時代から中近世に至る土地利用の変遷を把握することができた。調査区が後背湿地に立地することから水田域として利用され続けてきたが、その形態は各時期における経済・社会的背景などを反映して大きく変容してきていた。また、周辺では北関東自動車道や県道13号前橋・長瀞線などの建設に伴う発掘調査により多くの事例が蓄積されてきており[1)]、前橋南部地区における様相が広い範囲で明らかになりつつある。以下では、これらの事例を踏まえ、各時期の成果を概観していきたい。

註１）西田遺跡（前橋市埋文1996）・西田Ⅱ遺跡（前橋市埋文1998）・西田Ⅲ遺跡（前橋市埋文1999）・西田Ⅳ遺跡（前橋市埋文2001）・西田Ⅴ遺跡（前橋市埋文2001）・西田Ⅵ遺跡（前橋市埋文2001）・西田遺跡（群馬県埋文2002）・村中遺跡（群馬県埋文2002）・村中Ⅱ遺跡（前橋市埋文2001）・下阿内壱町畑遺跡（群馬県埋文2001）・下阿内前田遺跡（群馬県埋文2001）・鶴光路榎橋遺跡（群馬県埋文2002）・鶴光路榎橋Ⅱ遺跡（前橋市埋文2000）・徳丸高堰遺跡（群馬県埋文2005）・徳丸高堰Ⅱ遺跡（前橋市埋文1999）・徳丸高堰Ⅲ遺跡（前橋市埋文2000）・徳丸高堰Ⅳ遺跡（前橋市埋文2001）

１　古墳時代から平安時代の水田・溝について（第42図）

本節では、As-C降下（４世紀初頭）以後、As-B降下（1108年）までの層位で確認された遺構を対象とする。時期判断の難しいものも認められるが、古墳時代前期・後期、平安時代の遺構が区別できた。

古墳時代前期の溝

当該期の遺構として、２・３区２ｂ号溝下層、２・３区22号溝が確認された。これらは、As-C粒を含む黒色砂質土が堆積することから他の遺構と区別することができる。Hr-FA降下（６世紀初頭）までの時期幅が見込まれるものの、本調査における検出遺物量比から前期が主体を占めるものと推し量られた。

微高地に位置する西田遺跡Ｆ区や下阿内壱町畑遺跡１区でも同様の溝が集中する。下阿内壱町畑遺跡２号溝－西田遺跡267号溝－283号溝は本遺跡２・３区２ｂ号溝に連続する可能性があり、微高地を迂回する状況が俯瞰できる。これらの溝は水田の灌漑水路として利用されていたと考えられ、その水田は西田遺跡中央・村中遺跡西側・下阿内前田遺跡南側で確認されたAs-C混入土層水田が対応する。同様の水田跡は本遺跡群で確認されなかったが、水田耕作土に比定されるAs-C混入土が各溝付近に分布しており、水田化が及んでいたものと推定される。

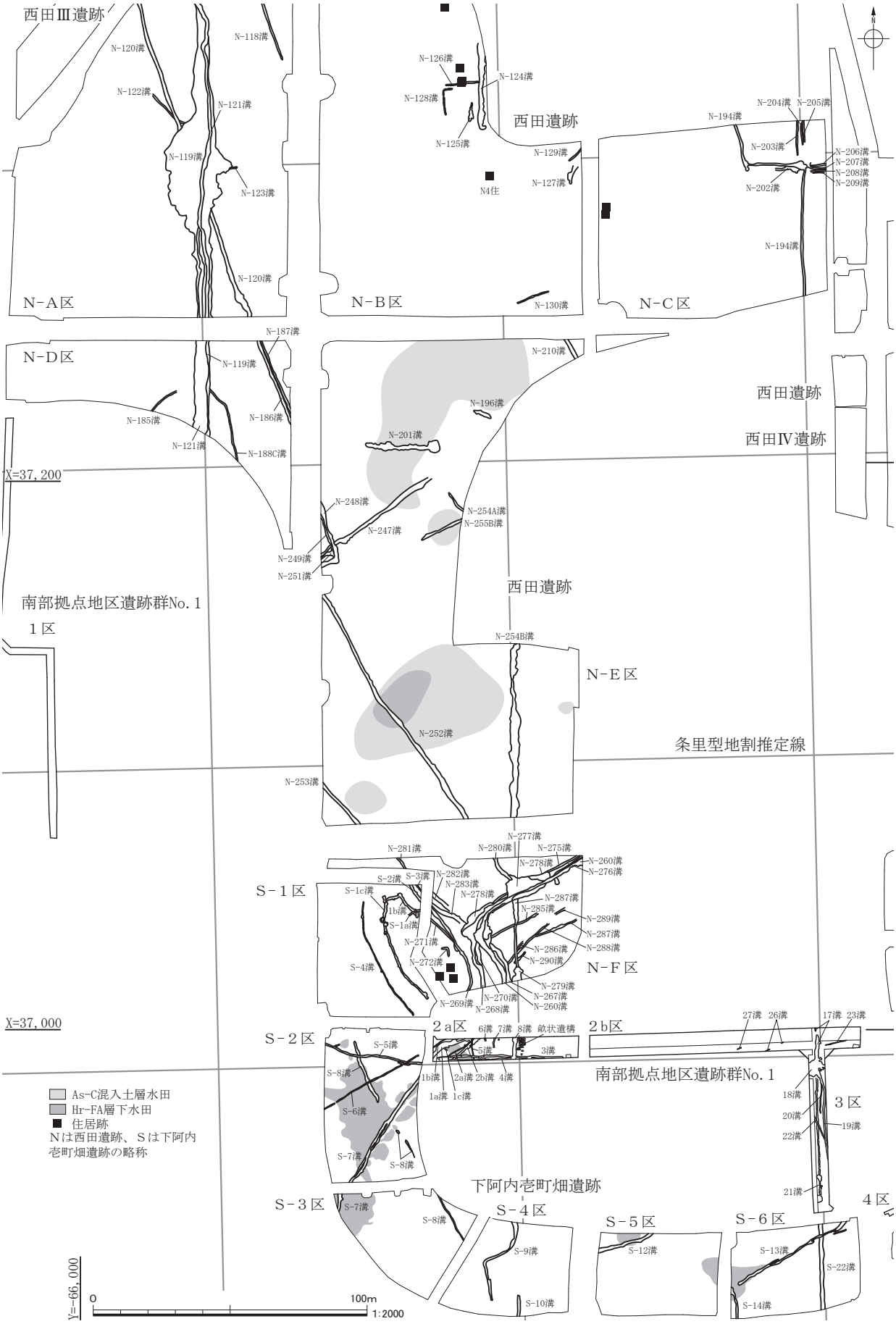
古墳時代後期の水田・溝

古墳時代後期の遺構として、２区・５区Hr-FA層下水田、２・３区１ａ・１ｂ・１ｃ・２ａ・２ｂ・５・７号溝、５区18・19号溝などが確認できた。これらはHr-FAの混入状態や共伴遺物から所産時期を判断している。

水田はHr-FA一次堆積層下で検出され、６世紀初頭に比定される。水田面は残存せず、明瞭な区画も認められなかった。同様の水田痕跡は西田遺跡・下阿内壱町畑遺跡でも確認されており、小区画を呈する畦畔が報告されている。本遺跡群２区Hr-FA層下水田は南西側に展開する下阿内壱町畑遺跡２区に連続することが見込まれる。なお、これらの水田に伴う水路として、畦畔に並走しHr-FAを含まない５区18号溝やHr-FA一次堆積層を包含する５区19号溝が挙げられ、前者は降灰前、後者は降灰と同時に廃棄されたものと看做される。

２・３区１ｃ・５・７号溝および２・３区２ｂ号溝の一部にはHr-FAの浅黄色テフラが塊状に混入しており、降灰時に比較的近い埋没時期が予想される。これらは２ａ区西側の微高地脇に集中し、およそ南北に走向する。

２・３区１ａ号溝は出土遺物より６世紀後半から７世紀初頭に比定され、先述の水田や溝より開口時期が後出する。この溝は、西田遺跡260号溝ないし268号溝、下阿内壱町畑遺跡７号溝などに連続することが予想され、微高地を迂回する様子は古墳時代前期から続く灌漑方法を髣髴させる。これらの溝には約370ｍにわたって走行する西田遺跡120・186・187・248・252・280号溝、西田Ⅲ遺跡２・６・８号溝が接続しており、長大な灌漑施



第 42 図　古墳時代から平安時代における周辺の遺跡

設の展開を垣間見ることができる。２・３区１ｂ号溝も西田遺跡 253・269 号溝や下阿内壱町畑遺跡６号溝などと連続して２・３区１ａ号溝などと並走することから、同様の灌漑体系に属していたものと推測される。

平安時代の水田・溝

平安時代の遺構として、２区 Hr-FA 混入土層水田、２・３区３・４・８ｂ・17 ～ 21 号溝、５区８ｄ・８e 号溝などが確認できた。これらは As-B 層下水田の調査から導き出された方格地割に沿った配置が施されており、条里型水田の構築に伴う時期が想起された。その時期は、西田遺跡で検出された住居跡の上に As-B 層下水田が営まれていたことなどから、９世紀後半以降に求められている（新井 2001）。

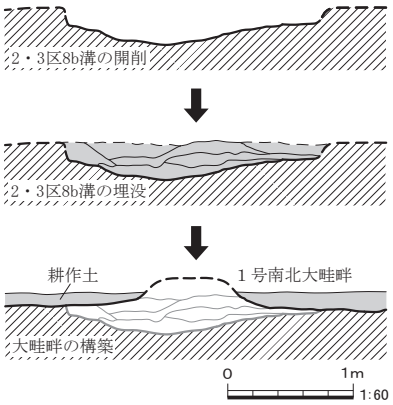
２区 Hr-FA 混入土層水田は、正位の方格区画を呈し、１号南北大畦畔が条里型地割の坪境に重なることから、As-B 層下水田に先行する条里型水田に想定された。大畦畔は埋没した２・３区８ｂ号溝の直上に構築されている。

２・３区８ｂ号溝は基幹水路に推定され、同じ坪境に並ぶ溝として西田遺跡 124・254B・279 号溝、西田Ⅱ遺跡９号溝、下阿内壱町畑遺跡９・10 号溝が報告されている。西田遺跡 124 号溝－ 254B 号溝間の軸線上で西田遺跡４号住居跡が認められることから、この水路は９世紀後半以降に開削されたことが見込まれる。また、西田Ⅱ遺跡９号溝で９世紀後半から 10 世紀前半の遺物が包含されており、当該期までは開口していた可能性が示唆される。水路の埋没後は大畦畔として利用され（第 43 図）、平安時代末期まで継続することが周辺遺跡の様相から窺われた。この坪境における水路の再構築は認められないため、10 世紀前半から 12 世紀初頭における灌漑体系の大規模な改編が予想されよう。このような変容は宿横手三波川遺跡（群馬県埋文 2001）・横手南川端遺跡（群馬県埋文 2002）・砂町遺跡（玉村町教委 2007）など周辺地域でも類例が挙げられる。ところで、２・３区８ｂ号溝に沿って２・３区畝状遺構が検出された。畑の存在が想起されるものの、水田と同じ低地に立地することが不自然である。むしろ、2・3 区８ｂ号溝との位置関係を鑑み、坪境を担う水路脇の道路痕跡を考慮する必要がある。

５区８ｄ・８e 号溝は、後述するように、As-B 降下前後の５区８ｃ号溝、中近世の５区８ａ・８ｂ号溝が同走向で重複しており、繰り返される再掘削を経ながら継続して使用されてきた様相が確認できた。その北側は同様の経過を有する西田遺跡 119・121 号溝に連続するものと考えられ、全長が条里型地割における１条（６町：約 654 m）以上に及ぶ。これらは、水田灌漑の基幹を担っていたものと想定され、後世の土地利用にまで影響を与えた。先述の２・３区８ｂ号溝に連なる水路が、条里地割に則って一坪西へ付け替えられた可能性も想像されよう。

２・３区 17・19 ～ 21 号溝は、As-B 層下水田の３区１号－５区１号南北大畦畔相当下で確認された。２・３区 19 ～ 21 号溝は As-B 降下期まで継続しない。一方、坪境交点より北側の２・３区 17 号溝は規模が縮小されるものの２・３区 13 号溝に受け継がれる。なお、同じ坪境に並ぶ溝として、西田遺跡 194・203 ～ 205 号溝、下阿内壱町畑遺跡 22 号溝が報告されている。２・３区 22 号溝の底面には小土坑が連続し、同様の特徴が約 280 m離れた西田遺跡 194 号溝南側でも認められる。

東西に走行する２・３区３・４号溝は、東側が２・３区 18 号溝、西側が下阿内壱町畑遺跡５号溝に連続すると推測され、全長約 180 m に至る。As-B 層の残存が良好でなかったため、As-B 層下水田との関係は不明であった。坪境の交点に位置する２・３区 18 号溝は溜井状を呈しており、高崎市矢中遺跡群天王前遺跡・矢中村東遺跡（高崎市教委 1982・1984）などで類例が見受けられる。なお、２・３区３号溝から９世紀中葉の須恵器坏が検出されており、想定されている条里型水田の構築時期と整合的ではなかった。造成が部分的に先行していた可能性も想起されるが、検出資料が貧弱でもあり、隣接地における事例の蓄積を踏まえて判断する必要があろう。（高橋）



第 43 図　２・３区８ｂ号溝の変遷

２　平安時代末期の水田について（第 44 図）

条里型地割の設定について

As-B 層下の水田には、一町（109 m）四方の方格地割を採用した、いわゆる「条里型地割」が認められる。本遺跡群でも大畦畔や水路の位置から条里型地割が看取できた。第 44 図は下阿内壱町畑・前田遺跡の大畦畔を基準とし、方一町のラインを大畦畔に合わせて設定した図である。これにより南北大畦畔の方位はＮ－０～１°－Ｗを指し、西へ傾いて設定されていることが分かった。小畦畔も大畦畔に連動して、南北畦畔がわずかに西に傾くものが多い。東西大畦畔の方位はＮ－ 91°－Ｅを指す。南北大畦畔とは直交せず、北西から南東方向へわずかに傾く様子が窺えた。各大畦畔間の距離は概ね 110 mである。

前橋台地上で広範囲に施工される条里型地割は、各遺跡群により大畦畔の傾斜や距離に違いが認められ、全てが厳密に同一の規格で施工されたものではないことが明らかにされている[1)]。いくつかの施工単位に分かれていたと考えられ、この傍証となり得るのが、下阿内前田遺跡で検出された南北の２ａ・２ｂ号大畦畔である。両大畦畔は約 12 mと近接して設定されている[2)]。２ａ号大畦畔を基軸として東側、２ｂ号大畦畔を基軸として西側にそれぞれ条理型地割を設定したところ、おおよそ 110 m間隔で大畦畔や水路が検出された。即ち、どちらか片方のみを基軸として設定すると、実際に検出されている大畦畔や水路の位置とは齟齬をきたすようになる。さらに、２ａ号大畦畔はＮ－０°－Ｗ、２ｂ号大畦畔はＮ－１°－Ｗを指し、傾きにも若干の違いが認められた。これらのことから、２ａ・２ｂ号大畦畔を境に施工単位や時期が異なる可能性が想定される。なお、２ｂ号大畦畔は南下して本遺跡群の５区２号大畦畔へと続く。２ａ号大畦畔も本遺跡群の５ｆ区で続きが検出されるはずであるが、調査区全体が撹乱されていたため確認することはできなかった。

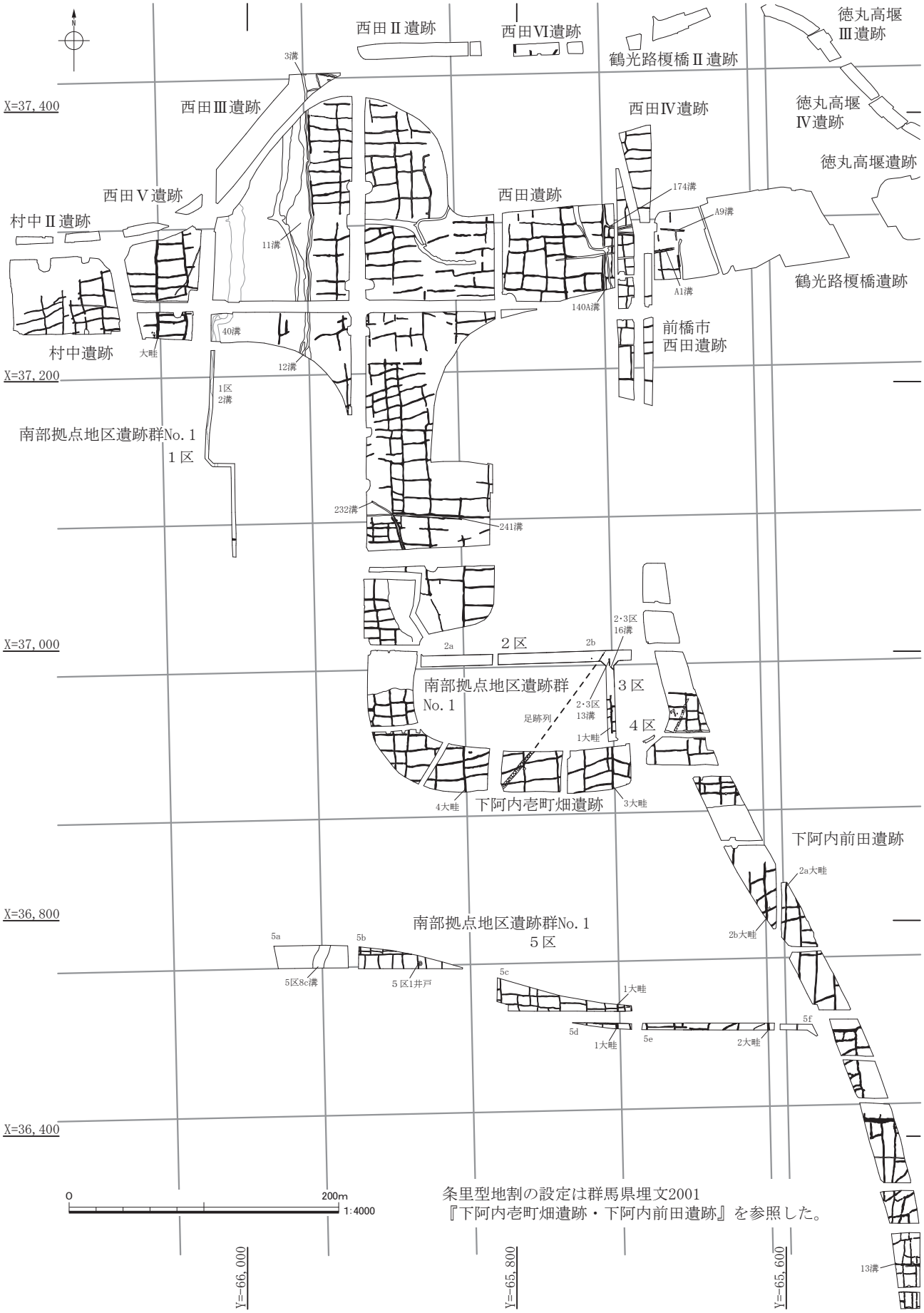
東西大畦畔については、規模が小畦畔と変わらないものや、推定位置に検出されない場合があり、坪境に対する規制は南北大畦畔と比べて弱い印象を受ける。

As-B 降下時の水田使用状況

区画によって水田面の状態に違いが認められた。詳細に観察すると様々な痕跡が捉えられるが、大きくは、①なだらかで全体的に浅い凹凸がある区画、②全体的に深めの凹凸がある区画に分けることができる。５区では南北大畦畔である１号大畦畔を境にして様相が異なり、西側が①、東側が②となる。①の凹凸には人の足跡と判別できるものもあるが、数は少なく、分布に規則性は認められない。②では深めの凹凸に加え、その脇に土塊がある区画（区画 54・57）も見られる。

①の As-B 降下時における水田使用状況は、５区１号井戸の存在から推測することができる。井戸の時期は As-B 降下以前に求められ、区画 15 の水田面を掘り込んでいる。井戸を使用している間、水田は機能していなかったと推定されることより、井戸構築時から As-B 降下直前までの期間は耕作されていなかったといえよう。ここから類推すると、水田面が区画 15 と同様①の状態である１号大畦畔以西は、休耕田または耕作が放棄された田であったのではないだろうか。自然科学分析を実施したところ、プラント・オパールが高い密度で検出されたが、As-B 降下直前の耕作でなくても同様の結果は得られるため、これをもって As-B 降下時に耕作田であったと言うことはできないだろう。一方、②については深めの凹凸が残っており、耕作されていない田であれば、水田面が風化してなだらかになると推測されることから、耕作田であった可能性が挙げられる。なお、１区および３区の水田面は、５区における①の状態と酷似していた。また、こうした水田面の違いに対応して畦畔の状態にも差が生じるかと思われたが、規模や形態に大差はなく、相関関係を見出すことはできなかった。

ところで、２ｂ区東側では、南西―北東方向へ直行する足跡列が検出された。南西方向へ直線的に延長すると、下阿内壱町畑遺跡の１号足跡列へと繋がり、直線距離は 130 m以上を測る。小区画内を斜めに横切っている痕跡



第 44 図　平安時代末期における周辺の遺跡

が見受けられ、植えられた稲に規制されないで歩いたものと考えられる。２ｂ区東側は後世の耕作により水田面は残存していなかったが、休耕田であった可能性が指摘される。

古代には、「見作」と「不作」の割合が年によって大きく変動する「不安定耕地」が広く存在していたことが文献史から明らかにされている[3)]。宿横手三波川遺跡（群馬県埋文 2002）では耕作していたと推測される区画と、耕作されていなかったと推測される区画が南北大畦畔を挟んで隣接する状況が確認された。本遺跡群も南北大畦畔を境にして水田面に違いが見られ、使用状況の異なる区画が混在する様相を窺い知ることができる。

水利について

灌漑用の基幹水路には、条里型地割の南北坪境に位置する５区８ｃ号溝が想定される。本遺跡群の北に所在する西田遺跡 11・12 号溝および西田Ⅲ遺跡３号溝は同一の溝で、前時代に引き続き長距離にわたって幹線水路が敷かれていた様子が窺える。走行方位はＮ－１°－Ｗを指し、大畦畔と同様わずかに西に傾く。本遺跡群の５区８ｃ号溝では最下層に砂礫層が 10 ㎝程度堆積している。その上は As-B 層で覆われるが、部分的にしか残存していないことから、本水路は As-B 降下後も機能していたと推察される。

この幹線水路から、給排水のための小規模水路が有機的に結びついており、条里型地割に合致するものとしないものがある。合致する溝として、南北方向は本遺跡群２・３区 13 号溝－西田遺跡 140 Ａ号溝が挙げられる。本遺跡群２・３区 13 号溝は、そのまま南下せずに２・３区 16 号溝で南東へ進路を変えていく。西田遺跡 140 Ａ号溝は大畦畔の中央を走行し、同ライン上の本遺跡群５ｄ区１号大畦畔でも、中央にごく浅い溝状の窪みを確認した。東西方向は西田遺跡 241 号溝、下阿内前田遺跡 13 号溝、西田遺跡 174 号溝、鶴光路榎橋遺跡Ａ９号溝の４条があり、それぞれ大畦畔の中央や脇を走行している。これらの水路は北から南へ、西から東へ流下する。西田遺跡では南北の 140 Ａ号溝から東西の 174 号溝へと坪交点で分水する状況が確認された。条里型地割に合致しない溝としては、南北方向の西田遺跡 232 号溝、東西方向の鶴光路榎橋遺跡Ａ１号溝があるものの、数は少ない。

小規模水路から引かれた水は、水口を介して小区画内に行き渡らせる構造をとる。だが、本遺跡群５区や西田遺跡のように水口がほとんど検出されない場合も多い。この理由として、満水になった水田から畦畔をオーバーフローして順次水を送る「かけ流し」の場合と、水口の深さが畦畔の基部まで達していないため、後世の耕作により削平され確認できなかった場合とが考えられる。（有山）

註１）群馬県史編さんにあたって、条里型地割の傾きや地割一辺の距離を割り出すために詳細な検討が行われている（高崎市市史編さん委員会 2003）。

２）大畦畔が近接する理由について、①水路・畦畔等は造成後新たに造り替えられながら存続していくために、大畦畔・水路の位置にもずれが生じてきている可能性、②造成時に土地の起伏等の地形的な制約を受けて、距離・方位にわずかなずれが生じた可能性、③施工の時期・起点にずれがあった可能性、以上の３点が挙げられている（群馬県埋文 2001『下阿内壱町畑遺跡・下阿内前田遺跡』）。

３）古代の水田は、一坪内の全ての区画が耕作されているのではなく、その時点で現実に耕作されていた田「見作」と、耕作されていない田「不作」が混在する状態にあった（高井 2006）。

３　中近世以降の溝について

中世になると微高地上には屋敷地が造営されるようになるが、低地は近世に至るまで水田として利用され続けている。本遺跡群でも水路と想定される溝が検出された。これらの溝は南北・東西に走行し、前時代からの条里型地割が守られているように見える。本遺跡群の２区８ａ号溝・５区 13 号溝・５区 15 号溝は、As-B 層下水田の大畦畔や水路と同位置、もしくはその脇に検出されており、坪境が強く意識されていたことが推測される。一方、同じく坪境に開削されていた西田遺跡 140 Ａ号溝・241 号溝は中世になると失われている。基幹水路については、５区８ｃ号溝から５区８ｂ号溝・５区８ａ号溝への改修までは坪境の東脇を保持している。しかし、その後、中世のある段階になると、約 70 ｍ西の西田遺跡 40 号溝へと移動し、坪境と関係のない位置へ外れていく（第 44 図）。

この基幹水路は近世でほぼ同位置に掘り直され、続きが本遺跡群１区２号溝で検出されている。このように中世以降、条里型地割を厳密に踏襲しようとする意識が徐々に薄れていった様子も窺える。　（有山）

本文参考文献　（　）はⅡ章２節「歴史的環境」の遺跡番号を示す。

前橋市教委 1982『金冠塚（山王二子山）古墳調査概報』（Ｂ）
前橋市教委 1991『前橋市埋蔵文化財調査地一覧表』（Ａ・Ｅ）
西善団地遺跡調査会 1995『西善鍛治屋遺跡』（１）
前橋市教委 1996『文珠山古墳発掘調査報告書』（Ｃ）
前橋市埋文 1996『西田遺跡』(21)
前橋市埋文 1997『宮地中田遺跡』（７）
前橋市埋文 1997『鶴光路練引遺跡』(17)
前橋市埋文 1998『東田遺跡』（８）
前橋市埋文 1998『上佐鳥中原前遺跡』(11)
前橋市埋文 1998『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』(22・31)
前橋市埋文 1998『横手湯田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅲ遺跡』（２・４・31）
前橋市埋文 1998『横手湯田Ⅳ遺跡』(31)
前橋市埋文 1999『西田Ⅲ遺跡』(23)
前橋市埋文 1999『西田Ⅳ遺跡』(21)
前橋市埋文 1999『徳丸高堰Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・西善尺司Ⅲ遺跡・下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅳ遺跡』（３・４・５）
前橋市埋文 2000『鶴光路榎橋Ⅱ遺跡・徳丸高堰Ⅲ遺跡』（６・27）
前橋市埋文 2000『横手湯田Ⅵ遺跡』(31)
前橋市埋文 2001『徳丸高堰Ⅳ遺跡』（６）
前橋市埋文 2001『横手湯田Ⅴ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡』（４・31）
前橋市埋文 2001『亀里銭面遺跡』(15)
前橋市埋文 2001『亀里銭面Ⅱ遺跡』(15)
前橋市埋文 2001『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』(19・24)
前橋市埋文 2001『西田Ⅵ遺跡』(25)
前橋市埋文 2004『横手宮田Ⅱ遺跡』(33)
前橋市埋文 2004『上佐鳥中原前Ⅱ遺跡』(11)
前橋市埋文 2005『亀里油免Ⅱ遺跡』(16)
玉村町教委 1989『金免遺跡』(50)
玉村町教委他 1996『中道西遺跡（第１次・第２次調査）』(47)
玉村町教委他 2000『田口下屋敷遺跡』(49)
玉村町教委他 2002『天神前遺跡　大明神遺跡　北小路遺跡』(45)
玉村町教委他 2003『天神前Ⅱ遺跡』(46)
玉村町教委 2004『一本木遺跡』(48)
玉村町教委 2007『砂町遺跡（第１～３次調査）・尾柄町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡』(51)
高崎市教委 1982『矢中遺跡群（Ⅱ）天王前遺跡』
高崎市教委 1984『矢中遺跡群（Ⅶ）矢中村東遺跡』
高崎市教委 1995『平成６年度高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査概要』(41)
高崎市遺跡調査会 1990『上滝社宮司東・斉田北遺跡、下滝高井前・赤城遺跡』(43)
群馬県教委 1971『群馬県遺跡台帳』（Ｆ）
群馬県教委 1982『川曲遺跡・東公田古墳』（９）
群馬県教委 1983『須摩野遺跡・下佐鳥遺跡・宿阿内城跡』(10・ｂ)
群馬県教委 1988『群馬県の中世城館跡』（ａ～ｃ）
群馬県埋文 1987『下斉田・滝川Ａ遺跡　滝川Ｂ・Ｃ遺跡』(42・44)
群馬県埋文 1997『橳島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』(12・13)
群馬県埋文 1999『上滝五反畑遺跡』(40)
群馬県埋文 2001『下阿内壱町畑遺跡　下阿内前田遺跡』(29・30)
群馬県埋文 2001『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』(14・32・35・36)
群馬県埋文 2001『西善尺司遺跡』（２）
群馬県埋文 2001『徳丸仲田遺跡（１）縄文時代草創期編』（４）
群馬県埋文 2001『宿横手三波川遺跡』(38)
群馬県埋文 2001『西横手遺跡群』(37)
群馬県埋文 2002『宿横手三波川遺跡　西横手遺跡群』(37・38)
群馬県埋文 2002『徳丸仲田遺跡（２）』（４）
群馬県埋文 2002『鶴光路榎橋遺跡』(26)
群馬県埋文 2002『上滝榎町北遺跡』(39)
群馬県埋文 2002『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』(39)
群馬県埋文 2002『西田遺跡・村中遺跡』(18・20)
群馬県埋文 2002『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』(31・36)
群馬県埋文 2005『徳丸高堰遺跡』（５）
前橋市史編さん委員会 1971『前橋市史』第１巻（18）
群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史　通史編』第１巻
高崎市史編さん委員会 2003『高崎市史　通史編』第１巻
山崎　一 1971･72『群馬県古城塁址の研究』上・下巻（ｂ・ｃ）
山崎　一 1979『群馬県古城塁址の研究　補遺編』上・下巻（ｂ・ｃ）
金田章裕 1987「古代・中世における水田景観の形成」『稲のアジア史』３
町田　洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』東京大学出版会
新井　仁 2001「群馬県における平安時代の水田開発について」『研究紀要』19　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
新井　仁 2008「条里地割導入後の水田と集落の一様相」『研究紀要』26　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
高井佳弘 2006「平安時代後期水田耕作の一様相」『生業の考古学』同成社

＊前橋市教委は前橋市教育委員会、前橋市埋文は前橋市埋蔵文化財発掘調査団、玉村町教委は玉村町教育委員会、高崎市教委は高崎市教育委員会、群馬県教委は群馬県教育委員会、群馬県埋文は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の略称である。

自然科学分析参考文献

新井房夫 1962「関東平野北西部の第四紀編年」『群馬大学紀要、自然科学編』10，p. 1-79.
新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』no. 157，p. 41-52.
荒牧重雄 1968「浅間火山の地質」『地団研専報』no. 45，65p.
町田　洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』東京大学出版会，276p.
町田　洋・新井房夫 2003『新編火山灰アトラス』東京大学出版会，336p.
坂口　一 1986「榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器」『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』群馬県教育委員会，p. 103-119.
早田　勉 1989「６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害」『第四紀研究』27，p. 297-312.
友廣哲也 1988「古式土師器出現期の様相と浅間山Ｃ軽石」『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団，p. 325-336.
若狭　徹 2000「群馬の弥生土器が終わるとき」『人が動く・土器も動くー古墳が成立する頃の土器の交流』かみつけの里博物館，p. 41-43
杉山真二 2000「植物珪酸体（プラント･オパール）」『考古学と植物学』同成社，p. 189-213.
藤原宏志 1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) ー数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法ー」『考古学と自然科学』9，p. 15-29.
藤原宏志・杉山真二 1984「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) ープラント･オパール分析による水田址の探査ー」『考古学と自然科学』17，p. 73-85.

写　真　図　版

５ｂ区 As-B 層下水田の調査風景

遺跡の位置と周辺の地形（上が北）

２ｂ・３区１面、２ａ区２面全景（南から）

図版２

１区１号溝埋没状態（西から）

１区２号溝（西から）

１区２号溝（北から）

１区２号溝埋没状態（南から）

２・３区 11 号溝（南から）

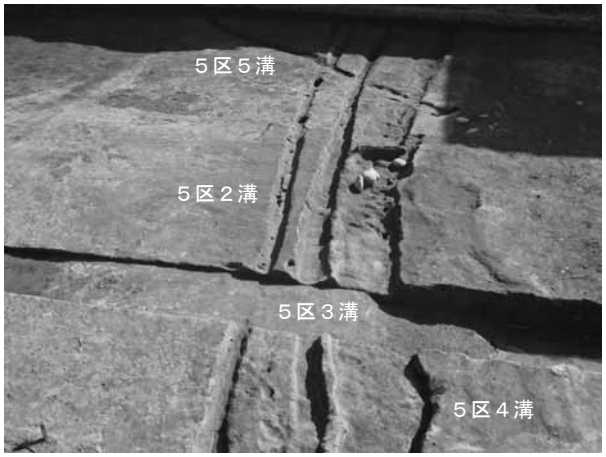
２・３区 12 号溝（南から）

４区１号溝（東から）

４区１号溝（北から）

５ａ区１面全景（北から）

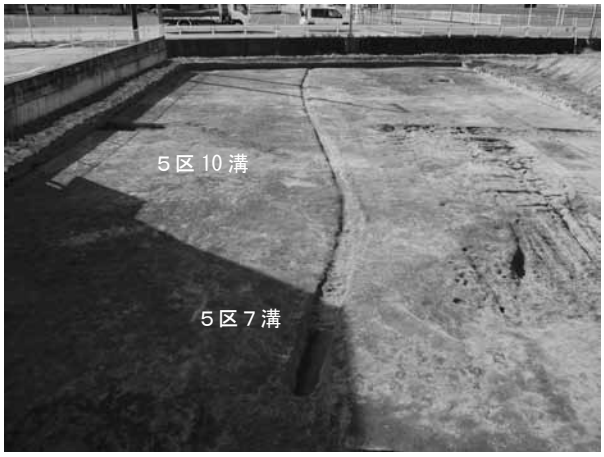
５区１号溝（南から）



５区２～５号溝（北から）

５区２～４号溝（南から）

５区６号溝（南東から）



５区７・10 号溝（東から）

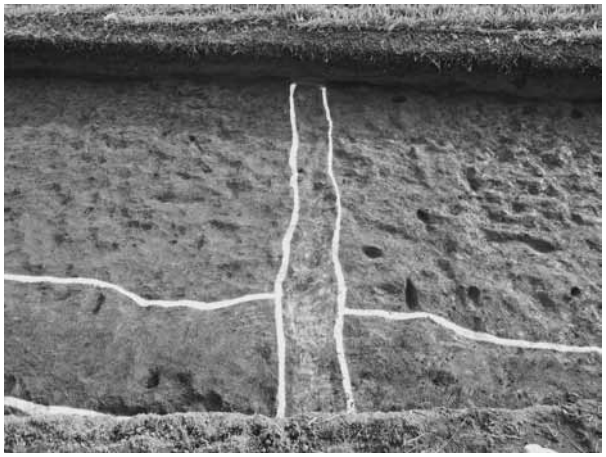
５区８号溝（北から）

５区８号溝南側試掘坑（北東から）

図版４

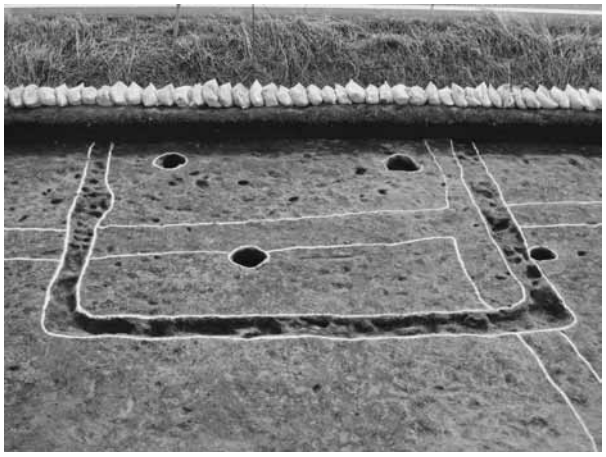
５区８ｂ号溝埋没状態（北から）

５区９号溝（北から）



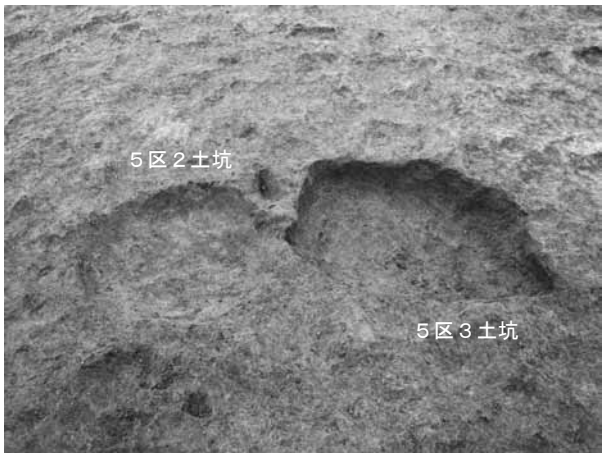
５区 12 号溝（南から）

５区 13 号溝（北から）



５区 14 号溝（北から）

５区１号土坑（南から）



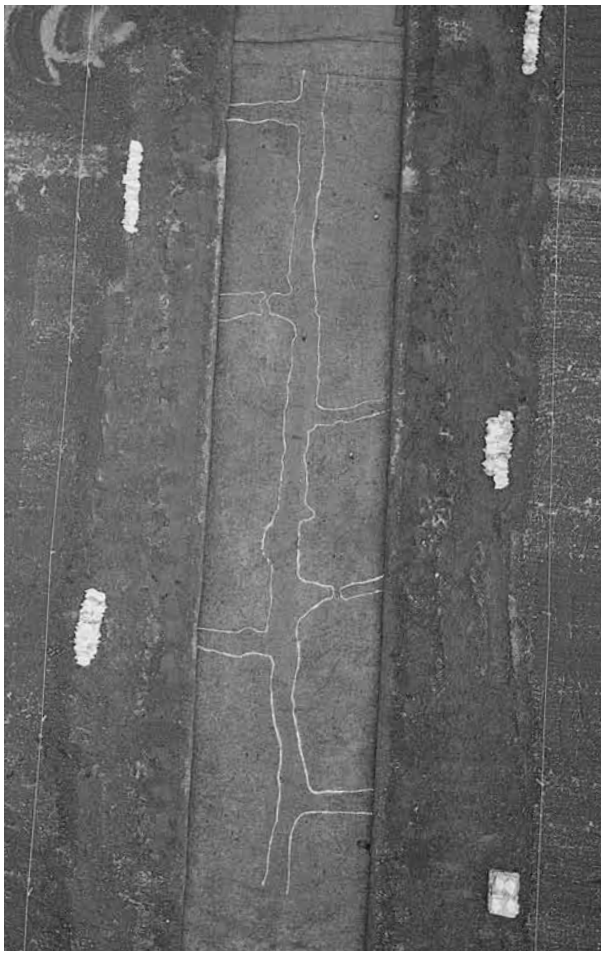
５区２・３号土坑（北から）

５区４号土坑（北から）

１区 As-B 層下水田（北から）

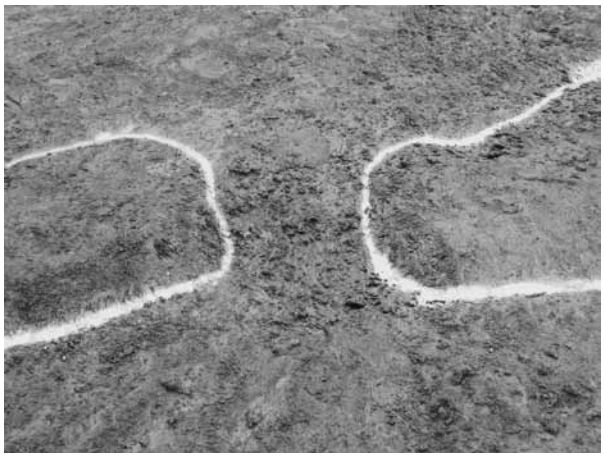
１区 As-B 層下水田（南西から）

１区 As-B 層下水田作業風景（北西から）



３区 As-B 層下水田（北から）

３区 As-B 層下水田（南から）



３区 As-B 層下水田水口（南から）

５ｂ区 As-B 層下水田（南から）

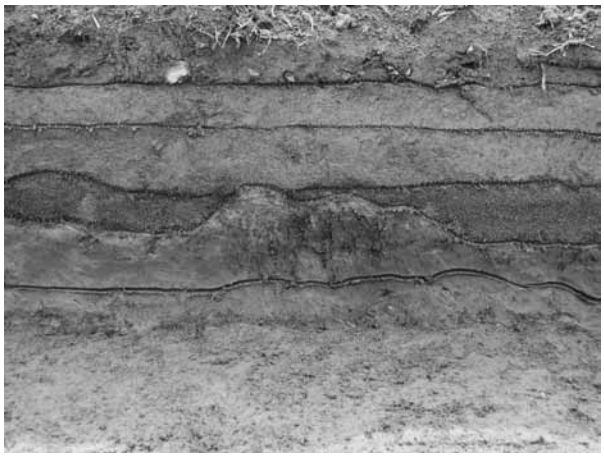
５ｂ区 As-B 層下水田（東から）

５ｃ・ｄ区 As-B 層下水田（南から）

５ｃ区 As-B 層下水田（南東から）

５ｃ区 As-B 層下水田窪み列（北から）

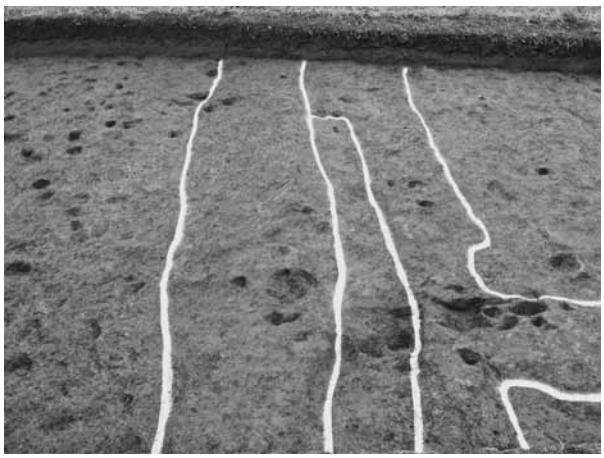
５ｃ区 As-B 層下水田畦畔（北から）



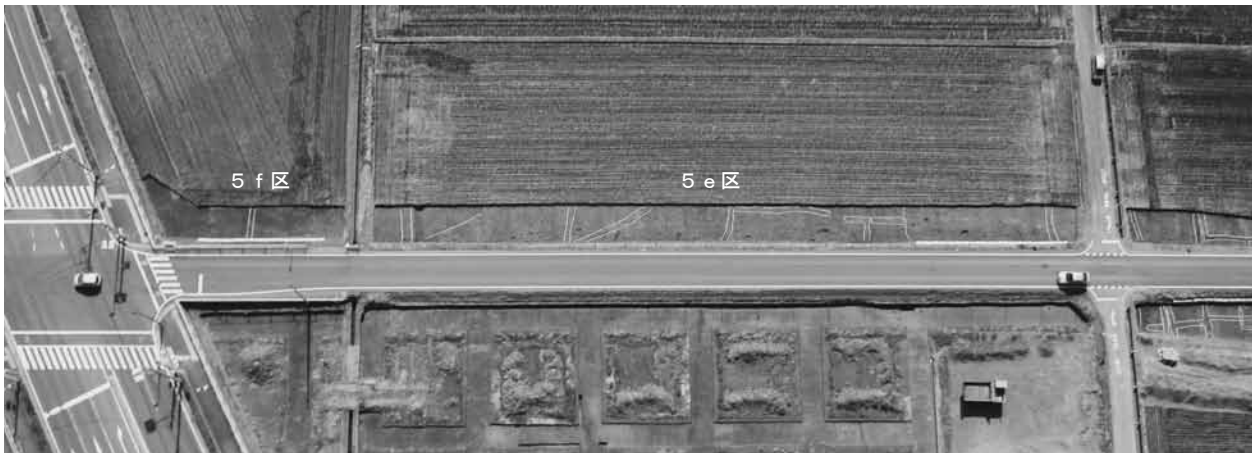
５ｃ区 As-B 層下水田畦畔断面（北から）

図版８

５ｄ区 As-B 層下水田（南東から）

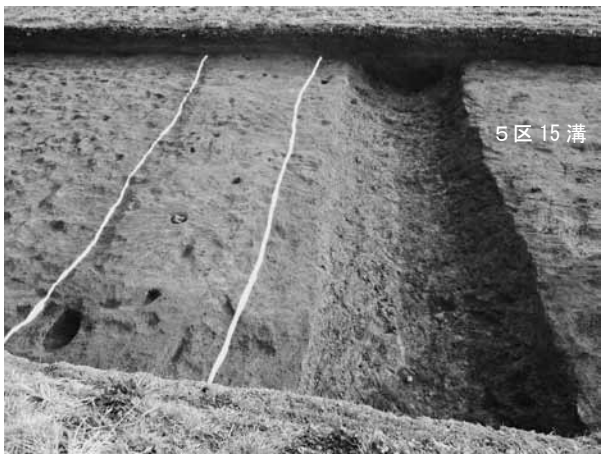


５ｄ区 As-B 層下水田畦畔（北から）

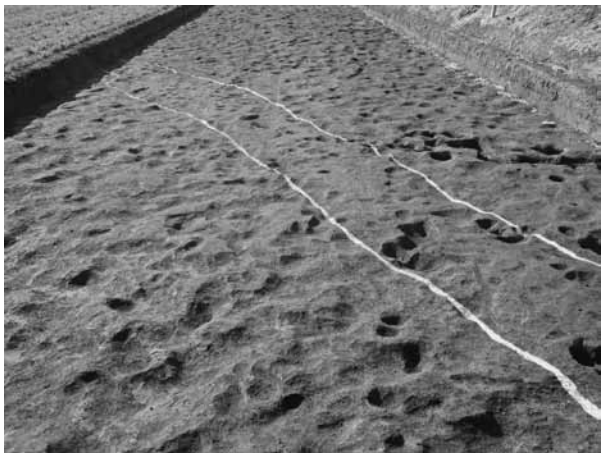


５ｅ・ｆ区 As-B 層下水田（北から）

５ｅ区 As-B 層下水田（東から）



５ｅ区 As-B 層下水田大畦畔・５区 15 号溝（北から）

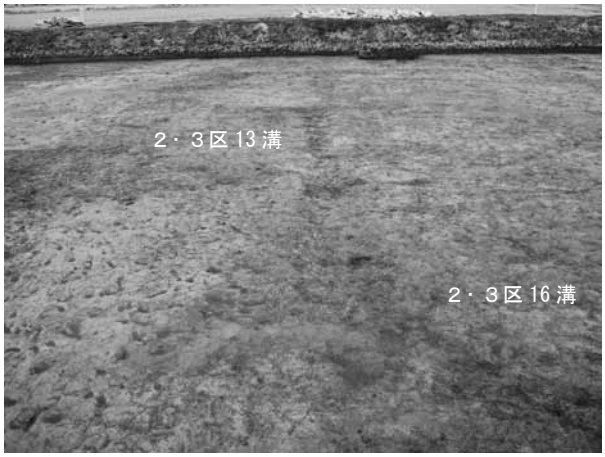


５ｅ区 As-B 層下水田畦畔（東から）

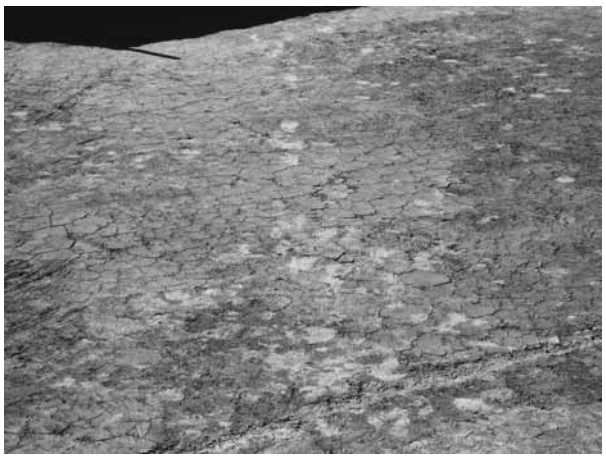
５ｅ区 As-B 層下水田水口（北から）

５ｅ区 As-B 層下水田作業風景（西から）

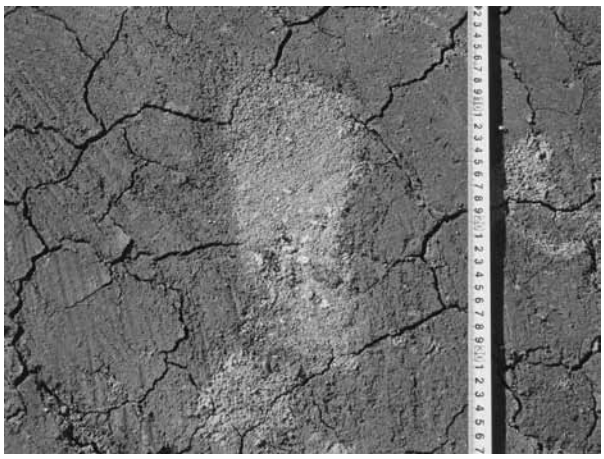
５ｆ区 As-B 層下水田（南西から）



２・３区 13・16 号溝（南から）



２・３区１号足跡列（北東から）



２・３区１号足跡列（南西から）

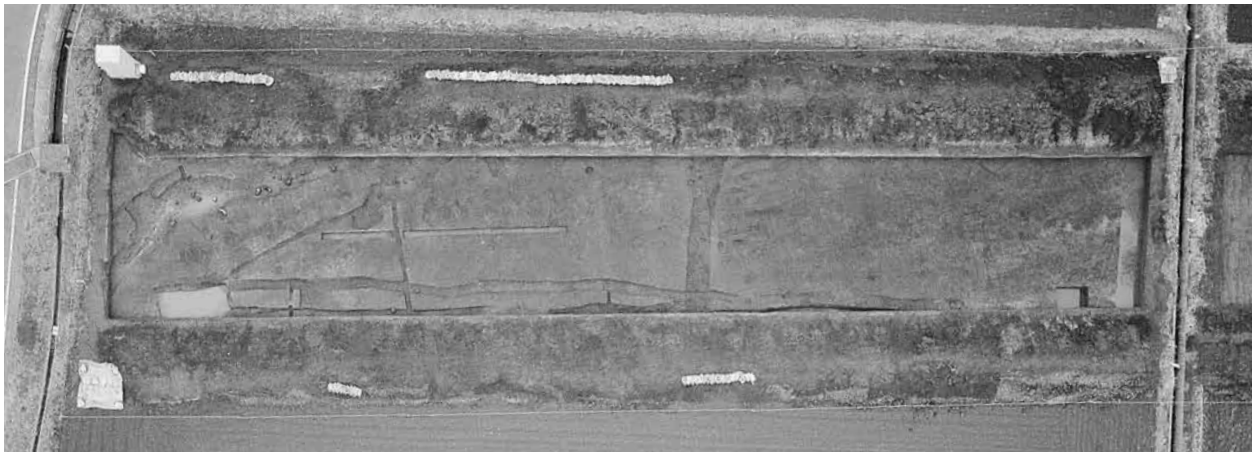
５区１号井戸（東から）

５区１号井戸（北東から）

図版 10

２区 Hr-FA 混入土層水田（東から）

２区 Hr-FA 層下水田（西から）

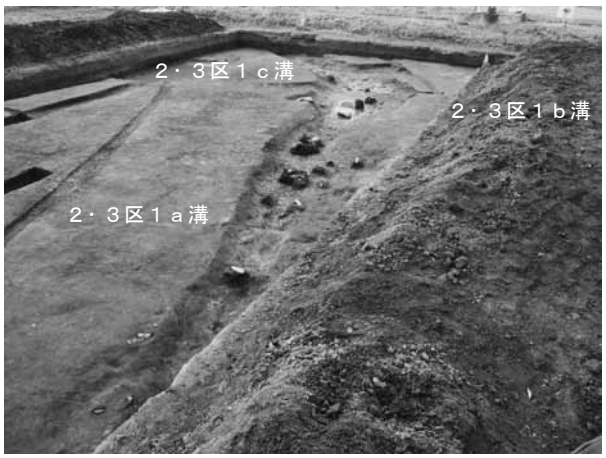


２ａ区第２面と２区 Hr-FA 層下水田（南から）

５区 Hr-FA 層下水田（東から）

５区 Hr-FA 層下水田畦畔（北から）

２・３区畝状遺構（西から）



２・３区１号溝（北東から）

２・３区１ａ号溝（南西から）

２・３区１ａ号溝埋没状態（南西から）

２・３区１ａ号溝遺物出土状態（北西から）

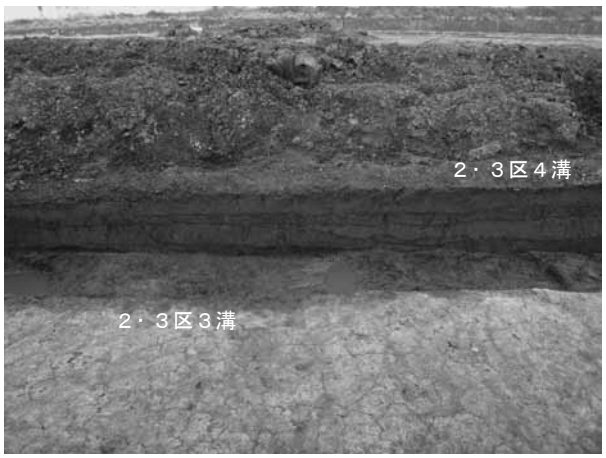
２・３区２ａ号溝（南西から）

２・３区２ｂ号溝（南西から）

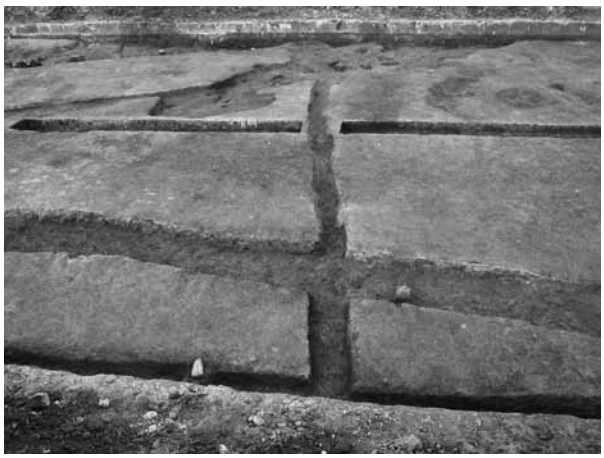
２・３区３・４号溝（西から）

２・３区３・４号溝東半部（北西から）

図版 12



２・３区３・４号溝埋没状態（北から）



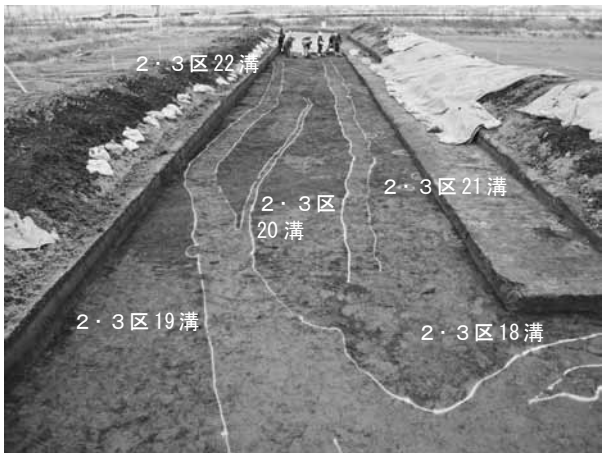
２・３区５号溝（南から）

２・３区６号溝（南から）

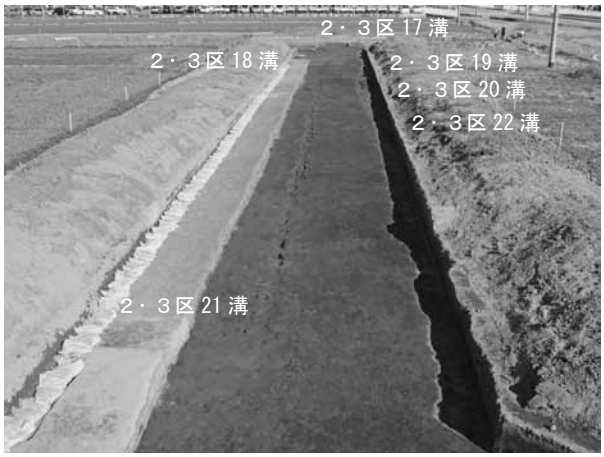
２・３区７号溝（南から）

２・３区８ｂ号溝（南から）

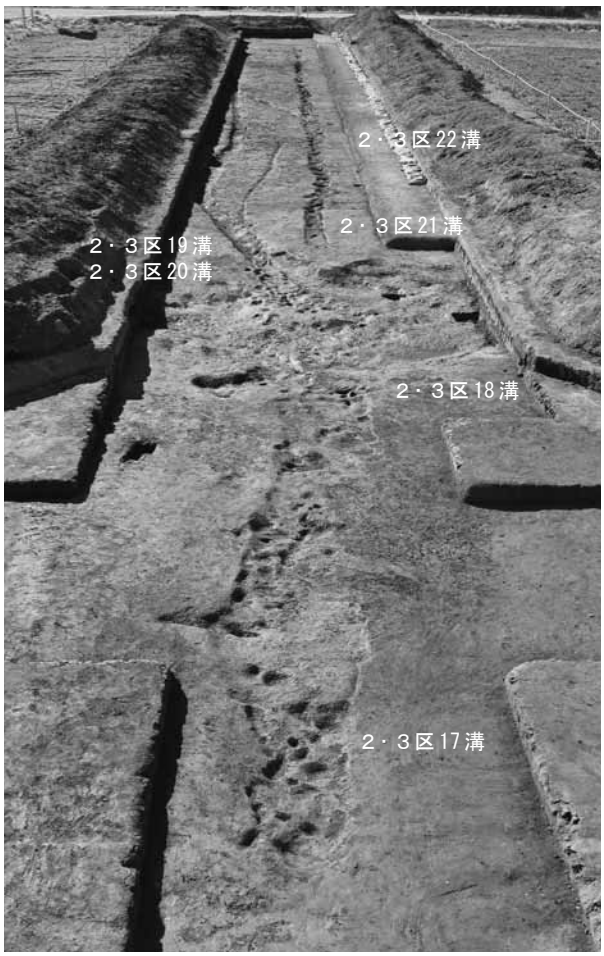
２・３区８ｂ号溝埋没状態（南から）



３区遺構確認状況（北から）



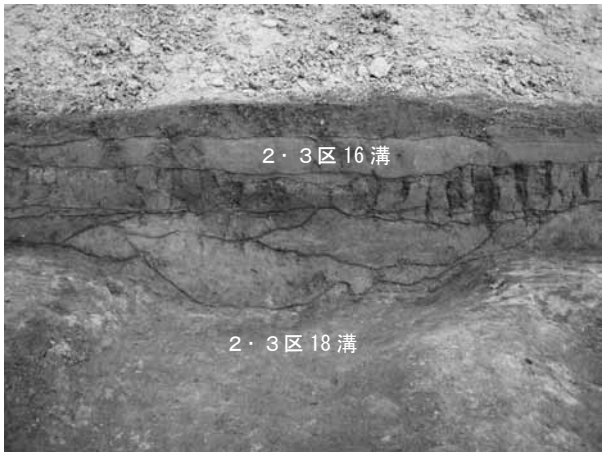
２・３区 17 ～ 22 号溝（南から）



2・3区 17 ～ 22 号溝（北から）

2・3区 18 号溝（西から）

2・3区 18 号溝埋没状態（東から）



2・3区 18 号溝埋没状態（西から）

2・3区 22 号溝（北西から）

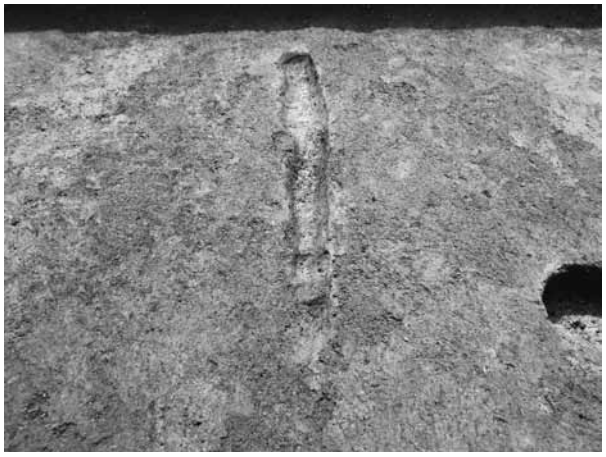
2・3区 21・22 号溝埋没状態（南から）

2・3区 23 号溝（北東から）

図版 14

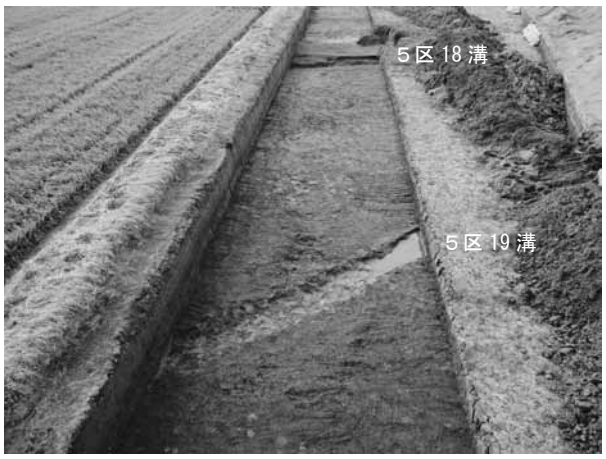
２・３区 26 号溝（北東から）

２・３区 27 号溝（北東から）



５区 16 号溝（北から）

５区 17 号溝（北東から）

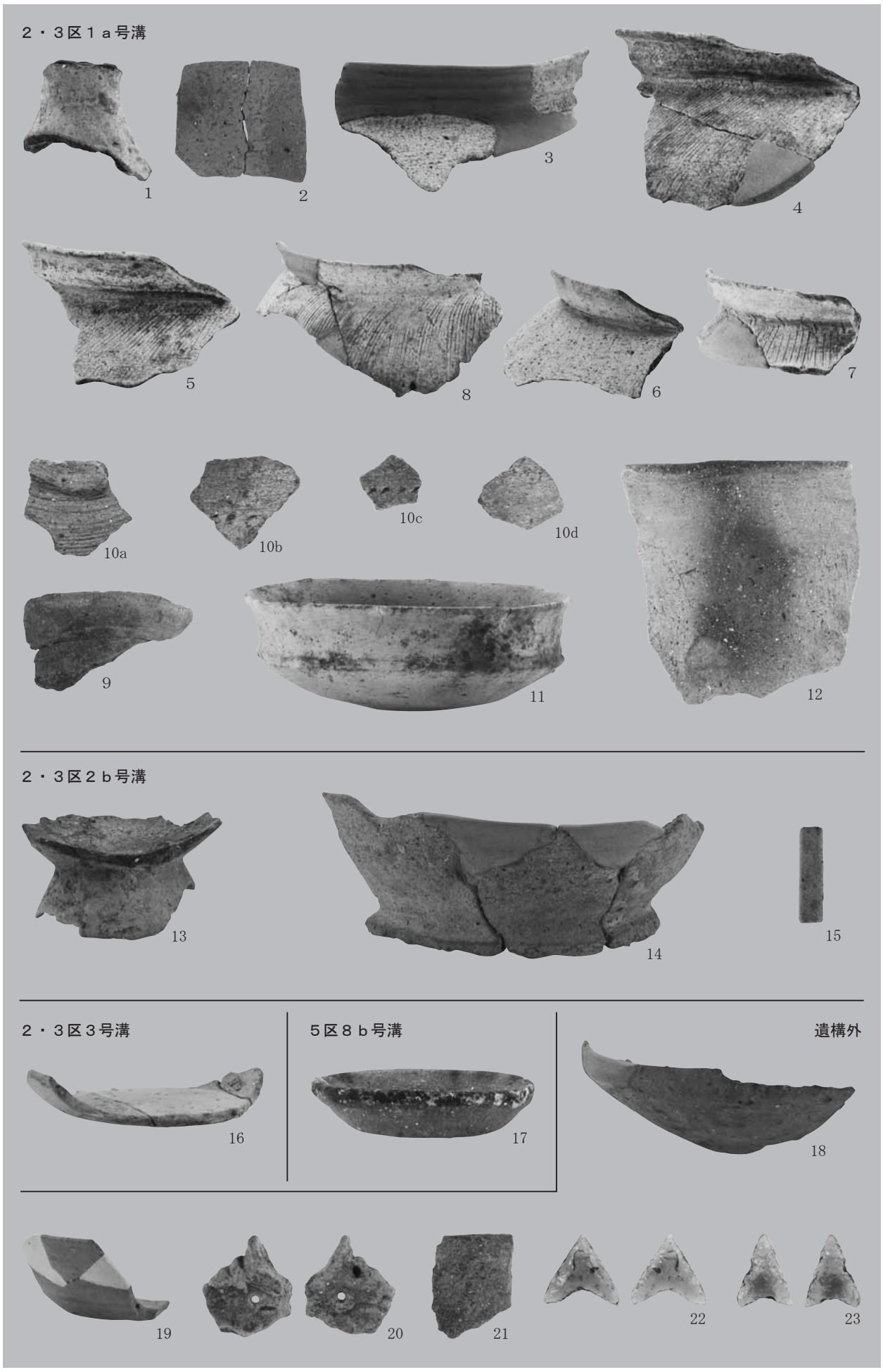


５区 18・19 号溝（東から）

５区 18 号溝（北から）

５区 19 号溝（北西から）

５区 20 号溝（北から）


2・3区1a号溝
1
2
3
4
5
8
6
7
10a
10b
10c
10d
9
11
12
2・3区2b号溝
13
14
15
2・3区3号溝
16
5区8b号溝
17
遺構外
18
19
20
21
22
23

出土遺物

抄　　録

ふりがな	なんぶきょてんちくいせきぐんNo.1
書名	南部拠点地区遺跡群No.1
副書名	前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信　髙橋清文　有山径世
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146　群馬県前橋市公田町1002番地１　TEL027-265-1804
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団 〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-２　TEL027-231-9531
発行年月日	西暦 2009（平成 21）年３月 19 日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
南部拠点地区遺跡群No.1（ナンブキョテンチク イセキグン）	群馬県前橋市鶴光路町（グンマケンマエバシシ ツルコウジマチ）360－１ほか	市町村	遺跡番号	36°19′51″	139°05′00″	20081028～20090319	7,739 ㎡	土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査
		10201	20G61					

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
南部拠点地区遺跡群No.1		縄文時代		縄文土器・石器
	水田	古墳時代 平安時代	Hr-FA 混入土層水田 Hr-FA 層下水田 As-B 層下水田 71 区画 畝状遺構 足跡列１条 溝 30 条 井戸１基 小穴（ピット）６基	土師器・須恵器 土製品（土製管玉）
	水田	中近世以降	溝 23 条 土坑４基 小穴（ピット）15 基	陶磁器類

特記事項	・広範囲に確認された平安時代末期の As-B 層下水田。 ・As-B 層下水田廃棄～ As-B 降下間に構築された井戸跡。 ・水路が埋没し、畦畔に変更された条里坪区画。 ・微高地に沿って構築された古墳時代前～後期の水路。

南部拠点地区遺跡群No. 1

前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

平成 21 年３月 13 日　印刷

平成 21 年３月 19 日　発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2

TEL 027-231-9531

印刷／朝日印刷工業株式会社